

人権に関する市民意識調査



2021(令和3)年 3月

宿毛市

はじめに

本市では 2001(平成11)年に、「宿毛市人権尊重の社会づくり条例」を制定し、すべての人の人権が尊重される社会づくりに取り組んできました。

また、2005(平成17)年度には、「人権施策に関する宿毛市総合計画」を策定し、人権尊重の社会実現に向け、さまざまな取組みを推進してまいりました。

しかし、私たちの社会には、今なお、さまざまな分野において人権問題が存在しており、最近ではインターネットによる人権侵害など新たな人権問題も発生しています。

このように社会が変化する中で、市民の皆さんに人権についての意識をおうかがいし、これからのまちづくりに生かすため、昨年10月に「人権についての市民意識調査」を実施しました。

この報告書はその調査結果を取りまとめとめたものです。

今後におきましては、この調査結果を基に現計画の見直しを行い、人権啓発や人権教育などの施策に反映していくとともに、この報告書を市民の皆様や関係機関をはじめとする多くの方々にご覧いただき、人権が尊重されるまちづくりの実現に向けてお役立ていただければと願います。

終わりに、本調査にご協力いただきました市民の皆様や関係者の方々に対しまして心から厚くお礼申し上げます。

2021(令和3)年 3月

宿毛市長 中平 富宏

目 次

I 調査の概要

1 調査の目的	1
2 調査の項目	1
3 調査設計	1
4 回収結果	1
5 調査結果の見方	2
6 引用した他の調査の概要	3
7 調査票の設計と分析	3

II 回答者の属性・調査結果

1 回答者の属性	5
2 調査結果	6
(1) 人権課題のかかわり方や経験について	6
(2) 障がい者の人権について	26
(3) 高齢者の人権について	28
(4) 女性の人権について	30
(5) 子どもの人権について	34
(6) 同和問題(部落差別問題)について	36
(7) HIV感染者等の人権について	50
(8) ハンセン病元患者等の人権について	52
(9) LGBTQの人権(性自認・性の多様性)について	54
(10) 外国人の人権について	56
(11) インターネットによる人権侵害について	58
(12) 大規模災害発生時の人権問題について	60
(13) 犯罪被害者等の人権問題について	62
(14) 人権尊重の社会実現に関することについて	64
3 自由記述のまとめ	70

III 調査結果の分析と考察

1 人権問題への関心と啓発	75
(1) 各人権課題への関心度	75
(2) 無関心層への啓発	75
2 宿毛市民の人権意識の分析と課題	75
(1) 人権に対する考え方	75
(2) 人権意識の底上げ	76
(3) 性別による人権侵害の内容の違い	76

3 人権課題への対応	76
(1) 身近に感じられやすい人権課題対応	76
(2) 市民の関心が比較的低い人権課題への対応	77
4 同和問題への理解・認識の深化	78
(1) 同和教育の成果	78
(2) 同和教育の課題	78
まとめ	79

IV 資料

1 設問間クロス集計分析	81
(1) 問 5-1×問 5-2	81
(2) 問 6×問 8	82
(3) 問 15×問 17	83
(4) 問 16×問 17-1	84
(5) 問 6×問 27	85
(6) 問 6×問 28	86
(7) 問 6×問 29	87
(8) 問 8×問 27	88
(9) 問 8×問 28	89
(10) 問 8×問 29	90
2 調査票	92
3 【解説】それぞれの人権課題	100
4 宿毛市人権尊重の社会づくり協議会委員名簿	102

I 調査の概要

I 調査の概要

1 調査の目的

本市では 2021(令和3)年度に「人権施策に関する宿毛市総合計画」の見直しを予定しています。そのため、現時点における市民の人権についての意識や行動、意見等を調査し、次期計画や今後の人権施策を進めるうえでの基礎資料として活用するため実施しました。

2 調査の項目

- (1) 属性(性別・年齢別・職業別)
- (2) 人権課題のかかわり方や経験について
- (3) 障がい者の人権について
- (4) 高齢者の人権について
- (5) 女性の人権について
- (6) 子どもの人権について
- (7) 同和問題(部落差別問題)について
- (8) HIV 感染者等の人権について
- (9) ハンセン病元患者等の人権について
- (10) LGBTQ の人権(性自認・性の多様性)について
- (11) 外国人の人権について
- (12) インターネットによる人権侵害について
- (13) 大規模災害発生時の人権問題について
- (14) 犯罪被害者等の人権問題について
- (15) 人権尊重の社会の実現に関することについて

3 調査設計

- | | |
|-----------|----------------------------|
| (1) 調査地域 | 宿毛市内全域 |
| (2) 調査対象 | 住民基本台帳に登録されている18歳以上の市民 |
| (3) 標本数 | 2,000人 |
| (4) 標本抽出法 | 無作為抽出法 |
| (5) 調査方法 | 郵送法 |
| (6) 調査期間 | 2020(令和2)年10月13日から10月31日まで |
| (7) 実施機関 | 宿毛市人権推進課 |
| (8) 調査機関 | 特定非営利活動法人じんけんネットすくも |

4 回収結果

配布数 (a)	不到 達数 (b)	到達数 (c)=(a)- (b)	回収 数 (d)	無効 回答 数 (e)	有効回答数 (f)=(d)-(e)	配布数に対す る有効回収率 (g)=(f)/(a)	到達数に対す る有効回収率 (h)=(f)/(c)
2,000	5	1,995	918	131	787	39.35%	39.45%

※ 不到達:転居先不明等で市に返戻されたもの。

※ 無効回答数:不在・転居・病気などの理由により「回答できない」と通知のあった件数(131件)+設問に回答が全くなかったもの(0件)。

※ 有効回答数:回収した調査票のうち記入の必要な設問の一部にでも回答のあったものは有効として算出している。

5 調査結果の見方

- (1) 表に記載してある構成比は、各質問の回答数を基数とした百分率(%)で示してある。また、「全体」の欄は回答数(無回答を含む)に占める各回答の件数の割合を、「無回答除外」は回答者数(無回答を含まない)に占める各回答の件数の割合を表す。
- (2) 表の構成比は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が 100.0%にはならない場合がある。また、複数回答を求めた設問では回答比率の合計が 100.0%を超える。
- (3) 副問(前問で特定の回答をした回答者のみに対して行う設問)については、その特定の回答件数を有効回答数として構成比を算出している。
- (4) 「無回答」とは、調査の規定に外れたもの(回答が示されていない、単一設問に対し複数の回答があったもの、回答の判断が困難なもの)である。
- (5) 表に記載している「件数 合計」は回答者数(無回答を含む)を、「無回答除外 合計」は無回答を除いた回答者数を表す。
- (6) 全体の表では各設問における回答件数が多かった上位3位までを、年代別及び性別の表では最も高い値を着色している。
- (7) 今回の調査は標本調査であるため、統計上の誤差「標本誤差」が生じる。信頼度95%(信頼度として慣例的に用いられる基準)における回答率(%)の標本誤差は、次の式で算出される。

$$\text{標本誤差} = 1.96 \times \sqrt{\frac{p(100-p)}{n}}$$

nは回答者数(人)、pは回答率(%)を表す。

(標本誤差表)

	10% (90%)	20% (80%)	30% (70%)	40% (60%)	50%
1,000	±1.9%	±2.5%	±2.9%	±3.1%	±3.2%
800	±2.1%	±2.8%	±3.2%	±3.5%	±3.5%
500	±2.7%	±3.6%	±4.1%	±4.4%	±4.5%
300	±3.5%	±4.6%	±5.3%	±5.7%	±5.8%
100	±6.0%	±8.0%	±9.2%	±9.8%	±10.0%

例えば、800人の回答者がいる中で、Aという選択肢を選んだ回答者が10%であった場合、標本誤差は±2.1%であるので、この回答率は95%の確率で7.9%~12.1%の間に存在するということになる。

6 引用した他の調査の概要

本報告書では、以下の調査結果を必要に応じて引用・比較しているが、設問の内容や選択肢が異なっているものもあるため、比較できる設問、選択肢についてのみ引用・比較している。なお県の調査の値は無回答を含めず集計されてある。

- 調査名 「高知県人権に関する県民意識調査」(以降「高知県調査」という)
- 調査期間 平成29年8月18日から9月1日
- 調査対象 18歳以上の県民(選挙人名簿登録者)
- 標本抽出方法 層化二段無作為抽出法(市町村の選挙人名簿に基づく)
- 調査方法 無記名による郵送法
- 回収状況 有効標本数 1,604 人

7 調査票の設計と分析

- 設計 特定非営利活動法人じんけんネットすくも、宿毛市
- 分析 特定非営利活動法人じんけんネットすくも

Ⅱ 回答者の属性・調査結果

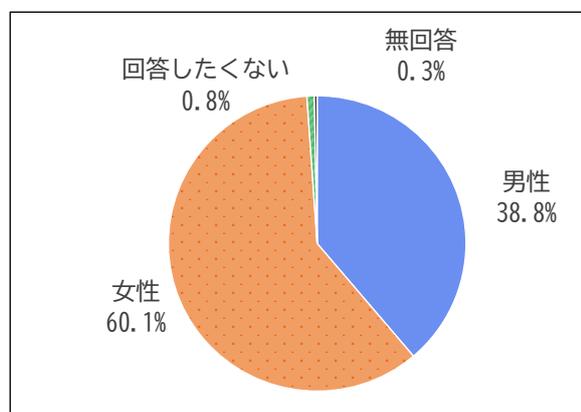
II 回答者の属性・調査結果

1 回答者の属性

本調査の回答者(有効回答標本)787人の基本属性は次のとおりである。

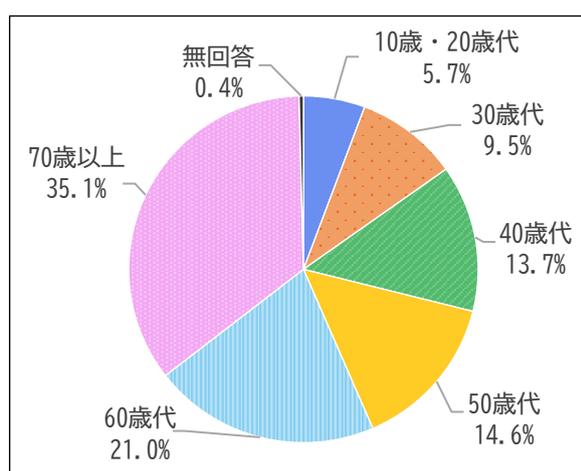
(1) 性別

	回答者数	構成比
男性	306	38.8%
女性	473	60.1%
回答したくない	6	0.8%
無回答	2	0.3%
合計	787	100.0%



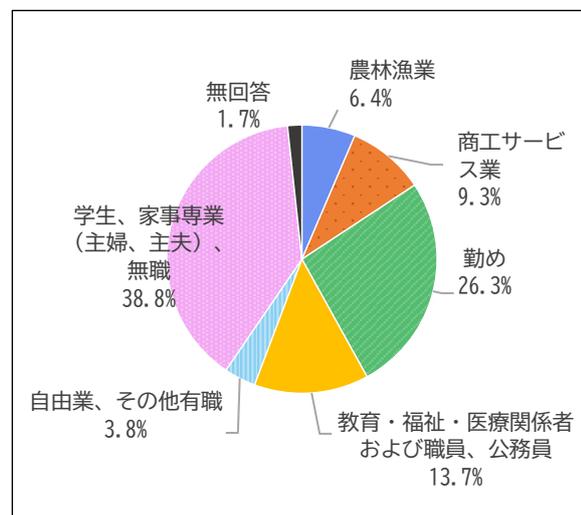
(2) 年齢

	回答者数	構成比
10歳・20歳代	45	5.7%
30歳代	75	9.5%
40歳代	108	13.7%
50歳代	115	14.6%
60歳代	165	21.0%
70歳以上	276	35.1%
無回答	3	0.4%
合計	787	100.0%



(3) 職業

	回答者数	構成比
農林漁業	51	6.4%
商工サービス業	73	9.3%
勤め	207	26.3%
教育・福祉・医療関係者および職員、公務員	108	13.7%
自由業、その他有職	30	3.8%
学生、家事専業(主婦、主夫)、無職	305	38.8%
無回答	13	1.7%
合計	787	100.0%



2 調査結果

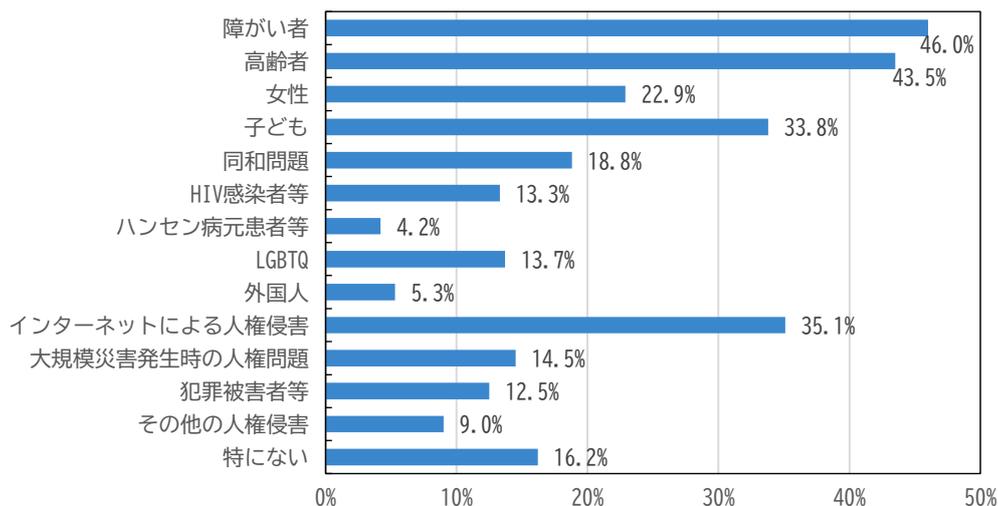
(1) 人権課題のかかわり方や経験について

問 4 あなたが関心のある人権課題はどれですか。 【〇はいくつでも】

■全体

「障がい者」が 46.0%と最も高く、次いで「高齢者」が 43.5%、「インターネットによる人権侵害」35.1%、となっている。

カテゴリ	件数	全体	無回答除外
①障がい者	353	44.9%	46.0%
②高齢者	334	42.4%	43.5%
③女性	176	22.4%	22.9%
④子ども	259	32.9%	33.8%
⑤同和問題（部落差別問題）	144	18.3%	18.8%
⑥HIV感染者等	102	13.0%	13.3%
⑦ハンセン病元患者等	32	4.1%	4.2%
⑧LGBTQ（性自認・性の多様性）	105	13.3%	13.7%
⑨外国人	41	5.2%	5.3%
⑩インターネットによる人権侵害	269	34.2%	35.1%
⑪大規模災害発生時の人権問題	111	14.1%	14.5%
⑫犯罪被害者等	96	12.2%	12.5%
⑬その他の人権問題	69	8.8%	9.0%
⑭特にない	124	15.8%	16.2%
<無回答>	20	2.5%	
合計	787	100.0%	767



【参考】高知県調査

障がい者 47.6%、高齢者 43.3%、インターネットによる人権侵害 42.4%、子ども 36.9%

■年代別

10歳・20歳代と50歳代で「インターネットによる人権侵害」、30歳代と40歳代で「子ども」、60歳代では「障がい者」と「高齢者」、70歳以上で「高齢者」がそれぞれ最も高くなっている。また全ての年代で「特にない」が10%を越えている。

	10歳・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
合計	44人	75人	106人	111人	163人	266人
①障がい者	45.5%	38.7%	47.2%	46.8%	52.8%	42.9%
②高齢者	18.2%	17.3%	33.0%	39.6%	52.8%	55.6%
③女性	31.8%	32.0%	34.9%	25.2%	17.2%	16.9%
④子ども	27.3%	50.7%	51.9%	34.2%	30.1%	24.8%
⑤同和問題	11.4%	12.0%	23.6%	14.4%	20.9%	20.7%
⑥HIV感染者等	13.6%	10.7%	14.2%	13.5%	16.0%	12.0%
⑦ハンセン病元患者等	2.3%	2.7%	5.7%	3.6%	3.7%	4.9%
⑧LGBTQ	29.5%	24.0%	23.6%	13.5%	11.0%	5.6%
⑨外国人	6.8%	9.3%	8.5%	7.2%	4.3%	2.6%
⑩インターネットによる人権侵害	50.0%	38.7%	46.2%	47.7%	37.4%	19.9%
⑪大規模災害発生時の人権問題	6.8%	12.0%	18.9%	12.6%	17.2%	13.2%
⑫犯罪被害者等	11.4%	13.3%	18.9%	9.9%	15.3%	9.0%
⑬その他の人権侵害	4.5%	5.3%	6.6%	9.0%	13.5%	9.0%
⑭特にない	18.2%	20.0%	12.3%	15.3%	13.5%	18.4%

■性別

「障がい者」が男性 40.1%、女性 49.9%と最も高く、次いで「高齢者」が男性 36.5%、女性 48.4%となっており、関心のある人権問題の上位2つは男女とも同じ人権問題となっている。

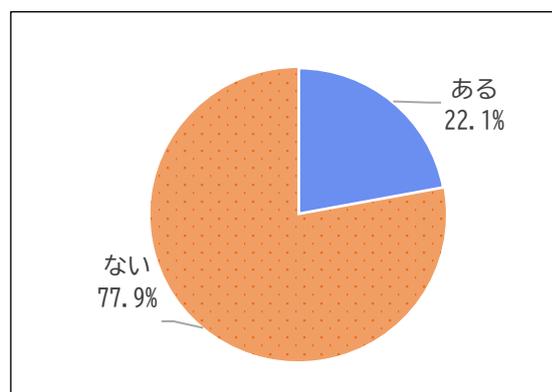
	男性	女性	回答したくない
合計	299人	461人	5人
①障がい者	40.1%	49.9%	40.0%
②高齢者	36.5%	48.4%	40.0%
③女性	12.7%	29.5%	40.0%
④子ども	24.7%	39.5%	60.0%
⑤同和問題	18.1%	19.3%	20.0%
⑥HIV感染者等	11.7%	14.3%	20.0%
⑦ハンセン病元患者等	3.3%	4.8%	-
⑧LGBTQ	9.0%	16.3%	40.0%
⑨外国人	5.4%	5.4%	-
⑩インターネットによる人権侵害	29.4%	38.6%	40.0%
⑪大規模災害発生時の人権問題	14.0%	14.5%	20.0%
⑫犯罪被害者等	10.0%	13.4%	60.0%
⑬その他の人権侵害	10.0%	8.2%	20.0%
⑭特にない	21.7%	12.4%	20.0%

問 5 あなたは、今までにご自分の人権が侵害されたと思っただことがありますか。
【いずれかに○】

■全体

人権が侵害された経験は「ない」が 77.9%、「ある」22.1%となっている。

カテゴリ	件数	全体	無回答 除外
①ある	169	21.5%	22.1%
②ない	595	75.6%	77.9%
<無回答>	23	2.9%	
合計	787	100.0%	764



【参考】高知県調査

ない 67.1%、ある 31.1%

■年代別

「ある」は40歳代の39.0%が最も高く、70歳以上が14.6%と最も低くなっている。

	10歳・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
合計	45人	73人	105人	109人	162人	268人
①ある	17.8%	27.4%	39.0%	24.8%	21.0%	14.6%
②ない	82.2%	72.6%	61.0%	75.2%	79.0%	85.4%

■性別

「ある」が男性19.7%、女性23.4%と女性のほうが高くなっている。

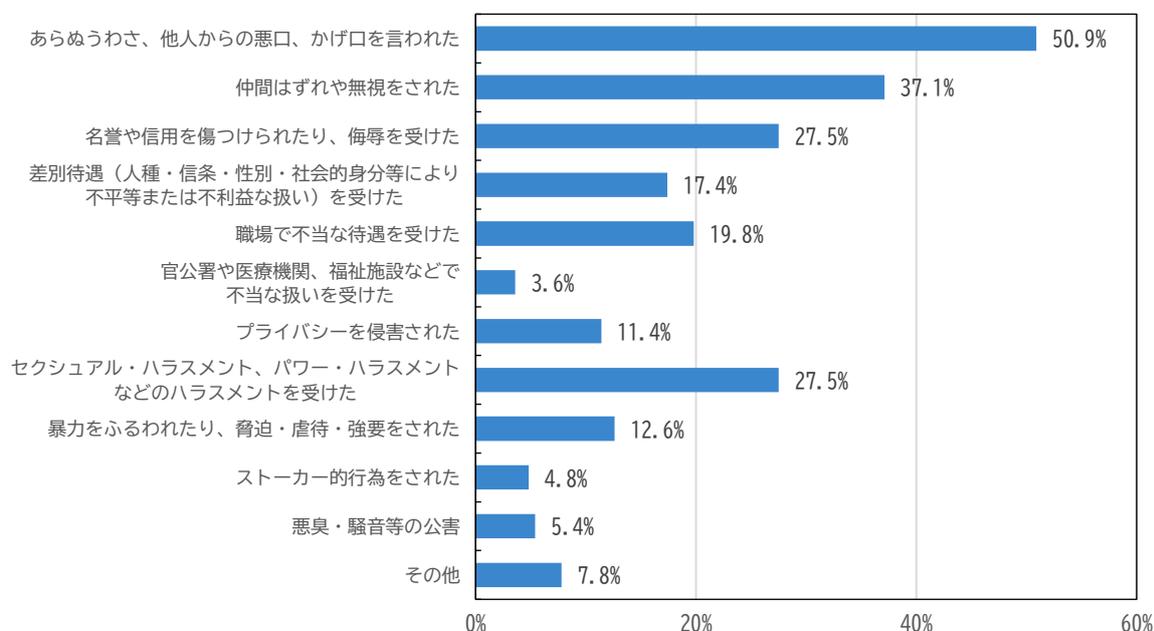
	男性	女性	回答したくない
合計	300人	457人	5人
①ある	19.7%	23.4%	60.0%
②ない	80.3%	76.6%	40.0%

問 5-1 問5で「ある」とお答えいただいた方に質問します。どのようなことで人権が侵害されたと思われましたか。 【〇はいくつでも】

■全体

「あらぬうわさ、他人からの悪口、かげ口を言われた」が 50.9%で最も高く、「仲間はずれや無視をされた」37.1%、「名誉や信用を傷つけられたり、侮辱を受けた」と「セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメントなどのハラスメントを受けた」がそれぞれ 27.5%と続いている。

カテゴリ	件数	全体	無回答除外
①あらぬうわさ、他人からの悪口、かげ口を言われた	85	50.3%	50.9%
②仲間はずれや無視をされた	62	36.7%	37.1%
③名誉や信用を傷つけられたり、侮辱を受けた	46	27.2%	27.5%
④差別待遇（人種・信条・性別・社会的身分等により不平等・不利益な扱い）	29	17.2%	17.4%
⑤職場で不当な待遇を受けた	33	19.5%	19.8%
⑥官公署や医療機関、福祉施設などで不当な扱いを受けた	6	3.6%	3.6%
⑦プライバシーを侵害された	19	11.2%	11.4%
⑧セクシュアル・パワー・ハラスメントなどのハラスメント	46	27.2%	27.5%
⑨暴力をふるわれたり、脅迫・虐待・強要をされた	21	12.4%	12.6%
⑩ストーカー的行為をされた	8	4.7%	4.8%
⑪悪臭・騒音等の公害	9	5.3%	5.4%
⑫その他	13	7.7%	7.8%
<無回答>	2	1.2%	
合計	169	100.0%	167



【参考】高知県調査

あらぬうわさ、他人からの悪口、かげ口を言われた 49.3%、名誉・信用のき損、侮辱 25.7%

パワー・ハラスメント 24.8%、セクシュアル・ハラスメント 8.2%（ハラスメント合計 33.0%）

■年代別

10歳・20歳代で「仲間はずれや無視をされた」、その他の年代で「あらぬうわさ、他人からの悪口、かげ口を言われた」がそれぞれもっとも高くなっている。

	10歳・ 20歳代	30歳 代	40歳 代	50歳 代	60歳 代	70歳 以上
合計	8人	20人	41人	27人	34人	37人
①あらぬうわさ、他人からの悪口、かげ口を言われた	37.5%	70.0%	51.2%	51.9%	41.2%	51.4%
②仲間はずれや無視をされた	50.0%	40.0%	41.5%	37.0%	35.3%	29.7%
③名誉や信用を傷つけられたり、侮辱を受けた	25.0%	10.0%	29.3%	37.0%	29.4%	27.0%
④差別待遇を受けた	25.0%	20.0%	22.0%	14.8%	11.8%	16.2%
⑤職場で不当な待遇を受けた	-	15.0%	31.7%	37.0%	11.8%	8.1%
⑥官公署や医療機関、福祉施設などで不当な扱いを受けた	12.5%	-	4.9%	7.4%	2.9%	-
⑦プライバシーを侵害された	12.5%	30.0%	4.9%	14.8%	2.9%	13.5%
⑧セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメントなどのハラスメントを受けた	37.5%	35.0%	31.7%	40.7%	17.6%	16.2%
⑨暴力をふるわれたり、脅迫/虐待/強要をされた	25.0%	10.0%	17.1%	18.5%	-	13.5%
⑩ストーカー的行為をされた	25.0%	5.0%	7.3%	-	-	5.4%
⑪悪臭・騒音等の公害	-	-	4.9%	7.4%	8.8%	5.4%
⑫その他	12.5%	10.0%	-	14.8%	8.8%	8.1%

■性別

「あらぬうわさ、他人からの悪口、かげ口を言われた」がそれぞれ最も高く、「官公署や医療機関、福祉施設などで不当な扱いを受けた」がそれぞれ最も低くなっている。

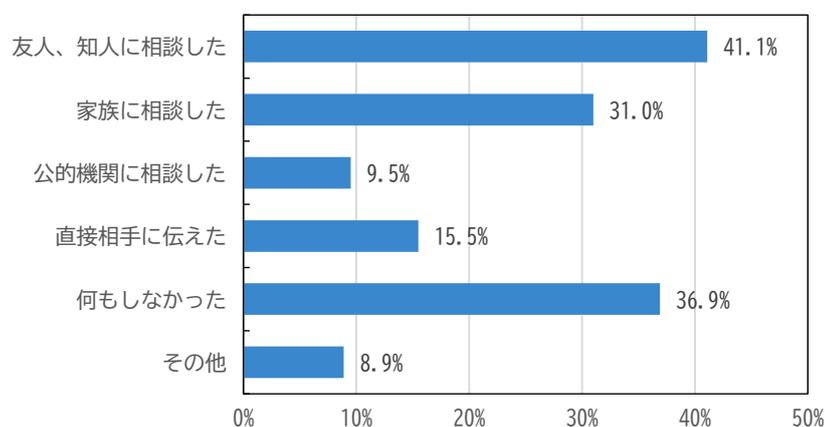
	男性	女性	回答したくない
合計	57人	107人	3人
①あらぬうわさ、他人からの悪口、かげ口を言われた	49.1%	51.4%	66.7%
②仲間はずれや無視をされた	33.3%	39.3%	33.3%
③名誉や信用を傷つけられたり、侮辱を受けた	38.6%	21.5%	33.3%
④差別待遇を受けた	26.3%	12.1%	33.3%
⑤職場で不当な待遇を受けた	22.8%	16.8%	66.7%
⑥官公署や医療機関、福祉施設などで不当な扱いを受けた	5.3%	2.8%	-
⑦プライバシーを侵害された	10.5%	12.1%	-
⑧セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメントなどのハラスメントを受けた	14.0%	34.6%	33.3%
⑨暴力をふるわれたり、脅迫・虐待・強要をされた	10.5%	13.1%	33.3%
⑩ストーカー的行為をされた	-	7.5%	-
⑪悪臭・騒音等の公害	7.0%	4.7%	-
⑫その他	7.0%	8.4%	-

問 5-2 人権が侵害されたと思ったときどうされましたか。 【〇はいくつでも】

■全体

「友人、知人に相談した」が41.1%と最も高く、次いで「何もしなかった」36.9%、「家族に相談した」31.0%となっている。「公的機関に相談した」が9.5%と低くなっている。

カテゴリ	件数	全体	無回答 除外
①友人、知人に相談した	69	40.8%	41.1%
②家族に相談した	52	30.8%	31.0%
③公的機関に相談した	16	9.5%	9.5%
④直接相手に伝えた	26	15.4%	15.5%
⑤何もしなかった	62	36.7%	36.9%
⑥その他	15	8.9%	8.9%
<無回答>	1	0.6%	
合計	169	100.0%	168



【参考】高知県調査

友人、職場の同僚・上司に相談した 30.1%、何もしなかった 37.5%、
家族に相談した 28.3%、

警察に相談した 5.8%、県や市町村役場に相談した 3.8%、
法務局や人権擁護委員に相談した 3.2%(公的機関相談の合計 12.8%)

■年代別

10歳・20歳代で「家族に相談した」、30歳代、40歳代、60歳代で「友人、知人に相談した」、50歳代、70歳代で「何もしなかった」がそれぞれ最も高くなっている。

	10歳・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
合計	8人	19人	41人	27人	34人	39人
①友人、知人に相談した	37.5%	68.4%	41.5%	40.7%	47.1%	23.1%
②家族に相談した	50.0%	47.4%	39.0%	22.2%	26.5%	20.5%
③公的機関に相談した	12.5%	5.3%	9.8%	7.4%	5.9%	15.4%
④直接相手に伝えた	12.5%	21.1%	17.1%	7.4%	14.7%	17.9%
⑤何もしなかった	12.5%	21.1%	31.7%	44.4%	35.3%	51.3%
⑥その他	12.5%	10.5%	9.8%	7.4%	5.9%	10.3%

■性別

男性は「何もしなかった」が41.4%と最も高いのに対し、女性は「友人、知人に相談した」が51.4%と最も高くなっている。また、男女とも「公的機関に相談した」が男性10.3%、女性8.4%と最も低くなっている。

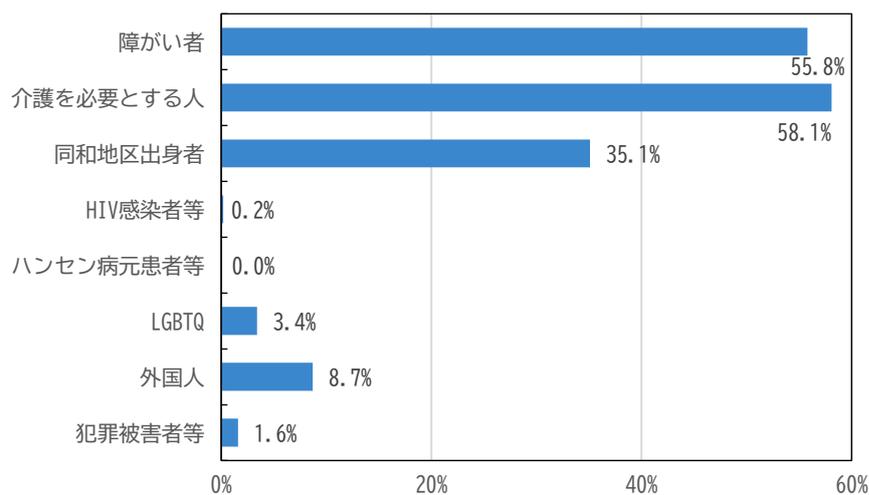
	男性	女性	回答したくない
合計	58人	107人	3人
①友人、知人に相談した	20.7%	51.4%	66.7%
②家族に相談した	19.0%	38.3%	-
③公的機関に相談した	10.3%	8.4%	33.3%
④直接相手に伝えた	13.8%	16.8%	-
⑤何もしなかった	41.4%	33.6%	66.7%
⑥その他	12.1%	7.5%	-

問 6 親しくしている人の中に、次のような人はいますか。 【〇はいくつでも】

■全体

「介護を必要とする人」が 58.1%と最も高く、次いで「障がい者」55.8%、「同和地区出身者」35.1%となっている。「ハンセン病元患者等」は 0%となっている。

カテゴリ	件数	全体	無回答除外
①障がい者	281	35.7%	55.8%
②介護を必要とする人	293	37.2%	58.1%
③同和地区出身者	177	22.5%	35.1%
④HIV感染者等	1	0.1%	0.2%
⑤ハンセン病元患者等	0	0.0%	0.0%
⑥LGBTQ	17	2.2%	3.4%
⑦外国人	44	5.6%	8.7%
⑧犯罪被害者等	8	1.0%	1.6%
<無回答>	283	36.0%	
合計	787	100.0%	504



■年代別

全ての年代で「障がい者」「介護を必要とする人」の割合が高くなっている。

また、40歳代で「同和地区出身者」が53.4%と他の年代に比べ高くなっている。

	10歳・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
合計	22人	44人	58人	86人	115人	178人
①障がい者	54.5%	36.4%	58.6%	57.0%	63.5%	53.9%
②介護を必要とする人	59.1%	61.4%	50.0%	48.8%	62.6%	61.8%
③同和地区出身者	9.1%	31.8%	53.4%	44.2%	33.0%	30.3%
④HIV感染者等	-	-	-	-	0.9%	-
⑤ハンセン病元患者等	-	-	-	-	-	-
⑥LGBTQ	13.6%	4.5%	8.6%	3.5%	0.9%	1.7%
⑦外国人	27.3%	6.8%	13.8%	9.3%	7.0%	6.2%
⑧犯罪被害者等	4.5%	2.3%	1.7%	3.5%	-	1.1%

■性別

性別でみると、男女ともに「介護を必要とする人」が最も高くなっている。

	男性	女性	回答したくない
合計	201人	298人	3人
①障がい者	53.7%	56.7%	100.0%
②介護を必要とする人	54.2%	61.4%	-
③同和地区出身者	38.3%	33.2%	33.3%
④HIV感染者等	0.5%	-	-
⑤ハンセン病元患者等	-	-	-
⑥LGBTQ	2.0%	4.4%	-
⑦外国人	12.4%	6.4%	-
⑧犯罪被害者等	1.5%	1.7%	-

問 7 次のような場面に出合ったときあなたならどうされますか。

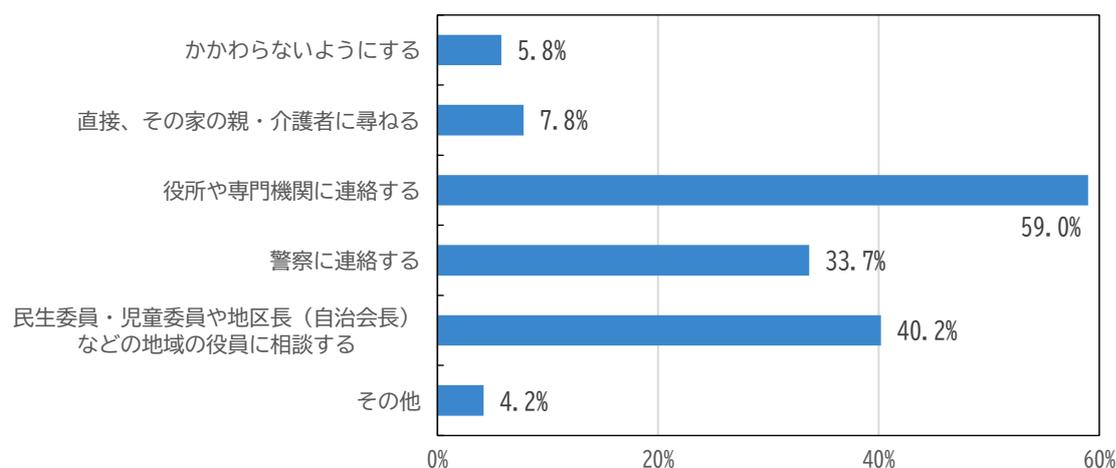
【〇はいくつでも】

A. 子どもや高齢者に対する虐待が疑われる場合

■全体

「役所や専門機関に相談する」が 59.0%と最も多く、次いで「民生委員・児童委員や地区長（自治会長）などの地域の役員に相談する」40.2%、「警察に連絡する」33.7%となっている

カテゴリ	件数	全体	無回答 除外
①かかわらないようにする	44	5.6%	5.8%
②直接、その家の親・介護者に尋ねる	59	7.5%	7.8%
③役所や専門機関に連絡する	447	56.8%	59.0%
④警察に連絡する	255	32.4%	33.7%
⑤民生委員・児童委員や地区長（自治会長）などの地域の役員に相談する	304	38.6%	40.2%
⑥その他	32	4.1%	4.2%
<無回答>	30	3.8%	
合計	787	100.0%	757



【参考】高知県調査

設問 子どもが虐待されていると知った場合の対応（単一回答）

市町村役場や福祉事務所などに相談する 21.6%、

民生委員・児童委員に通報する 9.0%、警察に連絡する 11.8%

■年代別

70歳代は「民生委員・児童委員や地区長(自治会長)などの地域の役員に相談する」、その他の年代では「役所や専門機関に連絡する」が最も高くなっている。一方「かかわらないようにする」も全ての年代で一定数確認できる。

	10歳・ 20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳 以上
合計	44人	75人	106人	109人	162人	259人
①かかわらないようにする	13.6%	9.3%	5.7%	6.4%	3.7%	4.6%
②直接、その家の親・介護者に尋ねる	11.4%	9.3%	5.7%	6.4%	7.4%	8.5%
③役所や専門機関に連絡する	52.3%	70.7%	60.4%	69.7%	58.0%	52.5%
④警察に連絡する	34.1%	40.0%	36.8%	37.6%	32.1%	30.1%
⑤民生委員・児童委員や地区長などの地域の役員に相談する	15.9%	17.3%	27.4%	33.0%	50.0%	53.3%
⑥その他	6.8%	9.3%	6.6%	1.8%	2.5%	3.1%

■性別

「役所や専門機関に連絡する」がそれぞれ最も高くなっている。

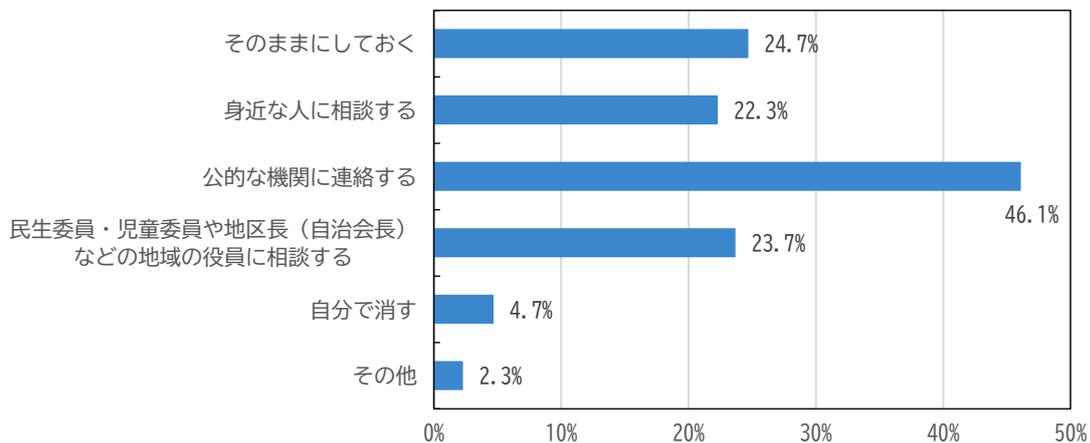
	男性	女性	回答したくない
合計	296人	454人	5人
①かかわらないようにする	6.1%	5.7%	-
②直接、その家の親・介護者に尋ねる	9.5%	6.8%	-
③役所や専門機関に連絡する	56.4%	60.8%	60.0%
④警察に連絡する	40.2%	29.7%	20.0%
⑤民生委員・児童委員や地区長などの地域の役員に相談する	36.8%	42.5%	40.0%
⑥その他	3.0%	4.6%	20.0%

B. 街で差別落書きを見つけた場合

■全体

「公的な機関に連絡する」が 46.1%と最も高く、次いで「そのままにしておく」24.7%、「民生委員・児童委員や地区長(自治会長)などの地域の役員に相談する」23.7%となっている。

カテゴリ	件数	全体	無回答除外
①そのままにしておく	185	23.5%	24.7%
②身近な人に相談する	167	21.2%	22.3%
③公的な機関に連絡する	346	44.0%	46.1%
④民生委員・児童委員や地区長(自治会長)などの地域の役員に相談する	178	22.6%	23.7%
⑤自分で消す	35	4.4%	4.7%
⑥その他	17	2.2%	2.3%
<無回答>	37	4.7%	
合計	787	100.0%	750



■年代別

10歳・20歳代は「そのままにしておく」、その他の年代では「公的な機関に連絡する」がそれぞれ最も高くなっている。

	10歳・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
合計	44人	74人	103人	110人	158人	259人
①そのままにしておく	38.6%	36.5%	31.1%	25.5%	25.9%	15.4%
②身近な人に相談する	20.5%	32.4%	20.4%	28.2%	20.3%	19.3%
③公的な機関に連絡する	31.8%	39.2%	52.4%	50.9%	44.9%	46.3%
④民生委員・児童委員や地区長などの地域の役員に相談する	11.4%	6.8%	13.6%	12.7%	24.1%	39.4%
⑤自分で消す	2.3%	-	3.9%	4.5%	4.4%	6.9%
⑥その他	2.3%	1.4%	1.0%	1.8%	2.5%	3.1%

■性別

「公的な機関に連絡する」がそれぞれ最も高くなっている。

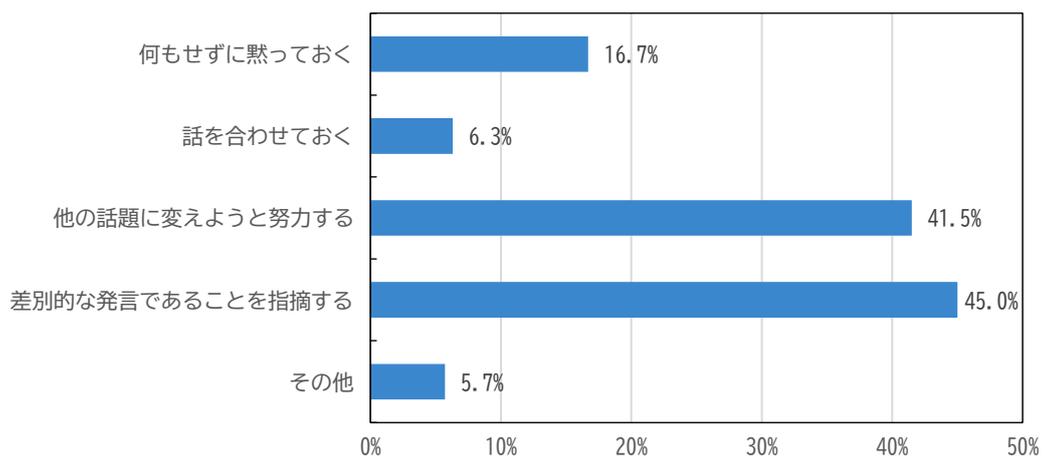
	男性	女性	回答したくない
合計	293人	450人	5人
①そのままにしておく	26.6%	23.8%	-
②身近な人に相談する	15.0%	26.7%	60.0%
③公的な機関に連絡する	50.5%	43.1%	40.0%
④民生委員・児童委員や地区長などの地域の役員に相談する	19.8%	26.7%	-
⑤自分で消す	6.5%	3.6%	-
⑥その他	3.8%	1.3%	-

C. 日常会話の中で、誰かが差別的な発言をした場合

■全体

「差別的な発言であることを指摘する」が45.0%と最も高く、次いで「他の話題に変えようと努力する」41.5%となっている。一方、「何もせずに黙っておく」16.7%、「話を合わせておく」6.3%を合わせると23%と高くなっている。

カテゴリ	件数	全体	無回答除外
①何もせずに黙っておく	125	15.9%	16.7%
②話を合わせておく	47	6.0%	6.3%
③他の話題に変えようと努力する	311	39.5%	41.5%
④差別的な発言であることを指摘する	337	42.8%	45.0%
⑤その他	43	5.5%	5.7%
<無回答>	38	4.8%	
合計	787	100.0%	749



■年代別

10歳・20歳代、30歳代、50歳代で「他の話題に変えようと努力する」、40歳代、60歳代、70歳以上で「差別的な発言であることを指摘する」がそれぞれ最も高くなっている。

また、30歳代で「何もせずに黙っておく」が22.7%と他の年代に比べ高くなっている。

	10歳・ 20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳 以上
合計	44人	75人	106人	107人	159人	256人
①何もせずに黙っておく	11.4%	22.7%	14.2%	11.2%	17.6%	18.8%
②話を合わせておく	6.8%	8.0%	6.6%	8.4%	5.7%	5.1%
③他の話題に変えようと努力する	56.8%	46.7%	39.6%	54.2%	40.3%	33.6%
④差別的な発言であることを指摘する	40.9%	42.7%	42.5%	38.3%	48.4%	48.0%
⑤その他	-	6.7%	7.5%	4.7%	8.2%	4.7%

■性別

男性は「差別的な発言であることを指摘する」46.9%、女性は「他の話題に変えようと努力する」45.3%とそれぞれ最も高くなっている。

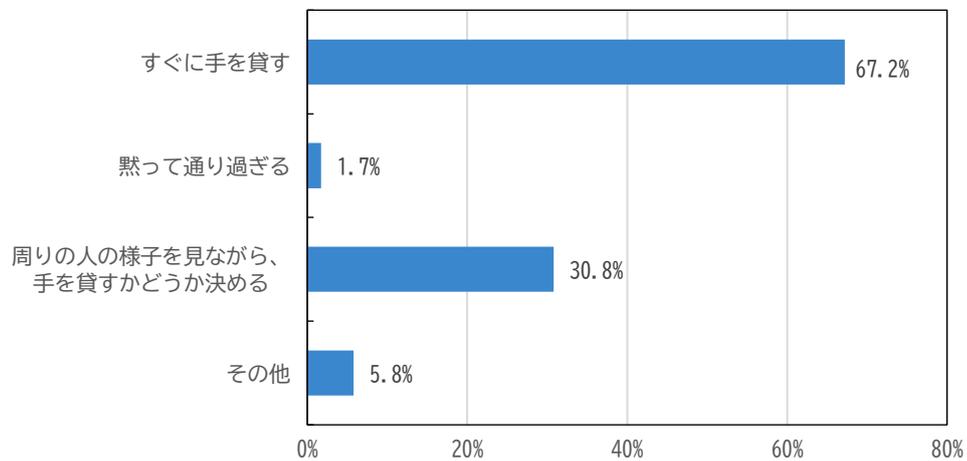
	男性	女性	回答したくない
合計	292人	450人	5人
①何もせずに黙っておく	16.8%	16.9%	-
②話を合わせておく	7.5%	5.1%	40.0%
③他の話題に変えようと努力する	35.6%	45.3%	60.0%
④差別的な発言であることを指摘する	46.9%	43.8%	20.0%
⑤その他	5.5%	6.0%	-

D. 街で車いすの人や白い杖(視覚障がいのある方等が使用する杖)を持った人が困っている場合

■全体

「すぐに手を貸す」が 67.2%と最も高く、次いで「周りの様子を見ながら、手を貸すかどうか決める」30.8%となっている。

カテゴリ	件数	全体	無回答
①すぐに手を貸す	513	65.2%	67.2%
②黙って通り過ぎる	13	1.7%	1.7%
③周りの人の様子を見ながら、手を貸すかどうか決める	235	29.9%	30.8%
④その他	44	5.6%	5.8%
<無回答>	24	3.0%	
合計	787	100.0%	763



■年代別

10歳・20歳代で「周りの人の様子を見ながら、手を貸すかどうか決める」、その他の年代で、「すぐに手を貸す」がそれぞれ最も高くなっている。

	10歳・ 20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳 以上
合計	43人	75人	106人	109人	164人	264人
①すぐに手を貸す	46.5%	60.0%	60.4%	65.1%	67.1%	76.1%
②黙って通り過ぎる	2.3%	2.7%	0.9%	0.9%	0.6%	2.7%
③周りの人の様子を見ながら、手を貸すかどうか決める	60.5%	40.0%	37.7%	32.1%	28.7%	21.6%
④その他	2.3%	6.7%	5.7%	3.7%	7.9%	5.7%

■性別

「すぐに手を貸す」がそれぞれで最も高くなっている。

	男性	女性	回答したくない
合計	298人	458人	5人
①すぐに手を貸す	65.4%	68.6%	60.0%
②黙って通り過ぎる	2.0%	1.3%	-
③周りの人の様子を見ながら、手を貸すかどうか決める	33.6%	29.0%	40.0%
④その他	4.7%	6.6%	-

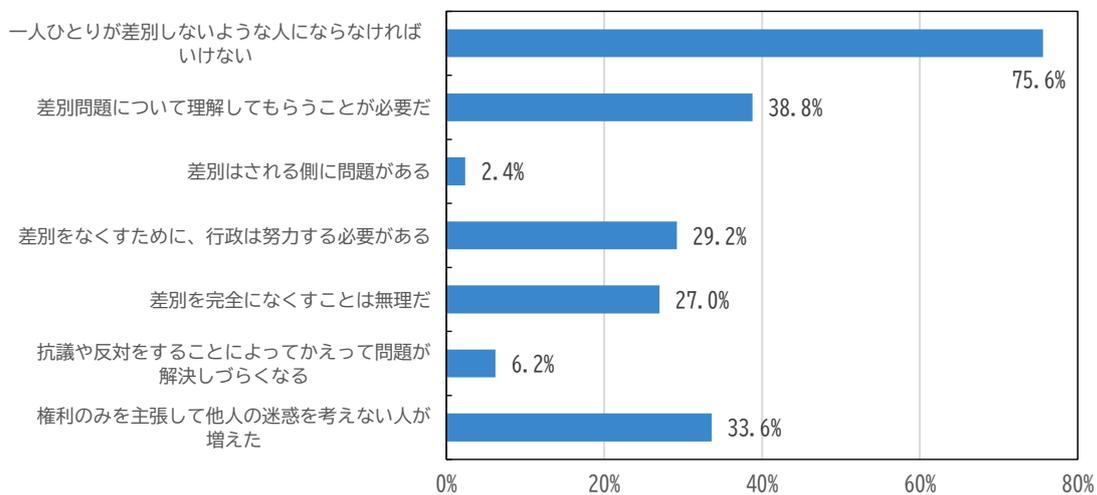
問 8 人権や差別について、あなたはどのような考えをおもちですか。

【〇はいくつでも】

■全体

「一人ひとりが差別をしないような人にならなければいけない」が 75.6%と最も高く、次いで「差別問題について理解してもらうことが必要だ」38.8%、「権利のみを主張して他人の迷惑を考えない人が増えた」33.6%となっている。

カテゴリ	件数	全体	無回答除外
①差別は人間として恥ずべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しないような人にならなければいけない	569	72.3%	75.6%
②差別問題に無関心な人にも、差別問題について理解してもらうことが必要だ	292	37.1%	38.8%
③差別はされる側に問題がある	18	2.3%	2.4%
④差別をなくすために、行政は努力する必要がある	220	28.0%	29.2%
⑤どのような手段を講じても、差別を完全になくすことは無理だ	203	25.8%	27.0%
⑥差別に対して抗議や反対をすることによってかえって問題が解決しづらくなる	47	6.0%	6.2%
⑦権利のみを主張して他人の迷惑を考えない人が増えた	253	32.1%	33.6%
<無回答>	34	4.3%	
合計	787	100.0%	753



■年代別

各年代において、「差別は人間として恥ずべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しないようなひとにならなければいけない」が最も高くなっている。

	10歳・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
合計	43	74	107	108	160	259
①差別は人間として恥ずべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しないようなひとにならなければいけない	76.7%	55.4%	63.6%	72.2%	80.6%	84.2%
②差別問題に無関心な人にも、差別問題について理解してもらうことが必要だ	39.5%	51.4%	46.7%	47.2%	40.0%	27.8%
③差別はされる側に問題がある	-	2.7%	0.9%	3.7%	2.5%	2.7%
④差別をなくすために、行政は努力する必要がある	23.3%	24.3%	21.5%	26.9%	30.6%	35.1%
⑤どのような手段を講じても、差別を完全になくすことは無理だ	41.9%	45.9%	39.3%	22.2%	25.6%	16.6%
⑥差別に対して抗議や反対をすることによってかえって問題が解決しづらくなる	11.6%	2.7%	3.7%	9.3%	6.3%	6.2%
⑦権利のみを主張して他人の迷惑を考えない人が増えた	23.3%	27.0%	40.2%	27.8%	42.5%	31.7%

■性別

「差別は人間として恥ずべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しないようなひとにならなければいけない」がそれぞれ最も高くなっている。

	男性	女性	回答したくない
合計	295人	451人	5人
①差別は人間として恥ずべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しないようなひとにならなければいけない	69.8%	79.6%	40.0%
②差別問題に無関心な人にも、差別問題について理解してもらうことが必要だ	33.9%	41.9%	60.0%
③差別はされる側に問題がある	2.7%	2.2%	-
④差別をなくすために、行政は努力する必要がある	29.2%	29.5%	20.0%
⑤どのような手段を講じても、差別を完全になくすことは無理だ	30.8%	23.9%	60.0%
⑥差別に対して抗議や反対をすることによってかえって問題が解決しづらくなる	6.8%	6.0%	-
⑦権利のみを主張して他人の迷惑を考えない人が増えた	36.6%	31.9%	20.0%

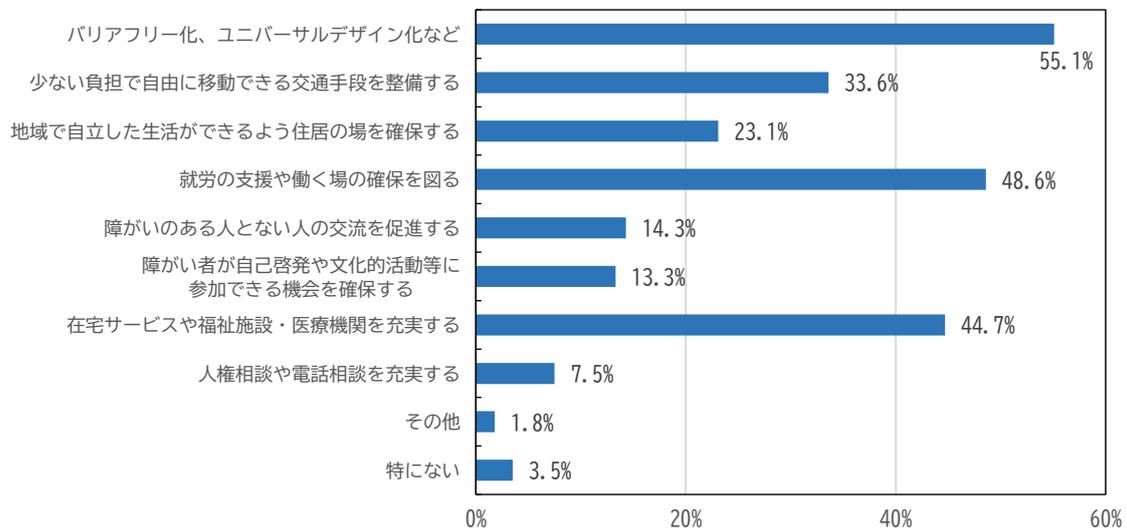
(2) 障がい者の人権について

問 9 あなたは、障がい者の人権を守るために特に必要なことはどのようなことだと思いますか。 【〇は3つ以内】

■全体

「バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化など」が 55.1%と最も高く、次いで「就労の支援や働く場の確保を図る」48.6%、「在宅サービスや福祉施設・医療機関を充実する」44.7%となっている。

カテゴリ	件数	全体	無回答除外
①道路や交通機関、建物等のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化	419	53.2%	55.1%
②少ない負担で自由に移動できる交通手段を整備する	256	32.5%	33.6%
③地域で自立した生活ができるよう住居の場を確保する	176	22.4%	23.1%
④就労の支援や働く場の確保を図る	370	47.0%	48.6%
⑤障がいのある人とない人の交流を促進する	109	13.9%	14.3%
⑥障がい者が自己啓発や文化的活動等に参加できる機会を確保する	101	12.8%	13.3%
⑦在宅サービスや福祉施設・医療機関を充実する	340	43.2%	44.7%
⑧人権相談や電話相談を充実する	57	7.2%	7.5%
⑨その他	14	1.8%	1.8%
⑩特にない	27	3.4%	3.5%
<無回答>	26	3.3%	
合計	787	100.0%	761



【参考】高知県調査

バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化など 43.6%

就労の支援や働く場の確保を図る 50.9%、

ホームヘルプサービスやデイサービスなどの生活支援を推進する 29.4%

■年代別

10歳・20歳代、30歳代、60歳代で「道路や交通機関、建物等のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化など」、40歳代、50歳代で「就労の支援や働く確保を図る」、70歳以上で「在宅サービスや福祉施設・医療機関を充実する」がそれぞれ最も高くなっている。

	10歳・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
合計	44人	75人	106人	111人	162人	261人
①道路や交通機関、建物等のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化など	75.0%	77.3%	51.9%	55.9%	59.3%	43.7%
②少ない負担で自由に移動できる交通手段を整備する	43.2%	25.3%	39.6%	31.5%	32.7%	33.7%
③地域で自立した生活ができるよう住居の場を確保する	22.7%	24.0%	26.4%	27.9%	24.1%	18.8%
④就労の支援や働く場の確保を図る	47.7%	45.3%	59.4%	58.6%	53.7%	37.5%
⑤障がいのある人とない人の交流を促進する	11.4%	17.3%	17.9%	17.1%	11.1%	13.4%
⑥障がい者が自己啓発や文化的活動等に参加できる機会を確保する	15.9%	6.7%	7.5%	17.1%	6.8%	19.2%
⑦在宅サービスや福祉施設・医療機関を充実する	36.4%	38.7%	40.6%	37.8%	54.3%	46.7%
⑧人権相談や電話相談を充実する	2.3%	1.3%	4.7%	2.7%	7.4%	13.0%
⑨その他	4.5%	4.0%	2.8%	3.6%	0.6%	0.4%
⑩特にない	2.3%	-	2.8%	2.7%	2.5%	6.1%

■性別

「道路や交通機関、建物等のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化など」がそれぞれ最も高くなっている。

	男性	女性	回答したくない
合計	296人	458人	5人
①道路や交通機関、建物等のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化など	50.3%	58.5%	40.0%
②少ない負担で自由に移動できる交通手段を整備する	31.4%	35.4%	20.0%
③地域で自立した生活ができるよう住居の場を確保する	23.3%	22.5%	80.0%
④就労の支援や働く場の確保を図る	48.3%	48.7%	60.0%
⑤障がいのある人とない人の交流を促進する	13.9%	14.6%	20.0%
⑥障がい者が自己啓発や文化的活動等に参加できる機会を確保する	15.9%	11.6%	-
⑦在宅サービスや福祉施設・医療機関を充実する	42.6%	46.3%	40.0%
⑧人権相談や電話相談を充実する	8.1%	7.0%	-
⑨その他	2.7%	1.3%	-
⑩特にない	3.7%	3.3%	-

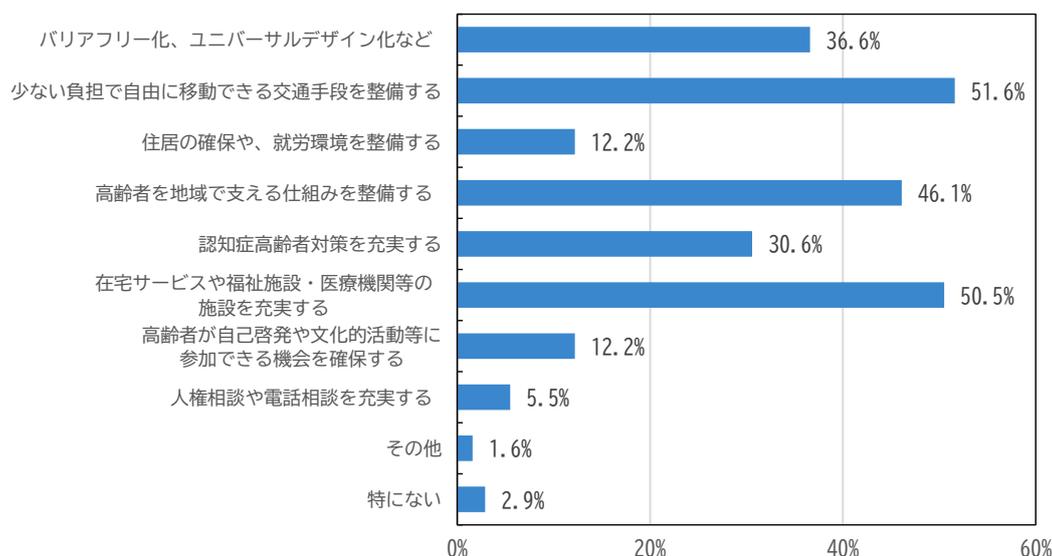
(3) 高齢者の人権について

問 10 あなたは、高齢者の人権を守るために特に必要なことはどのようなことだと思いますか。 【〇は3つ以内】

■全体

「少ない負担で自由に移動できる交通手段を整備する」が 51.6%と最も高く、「在宅サービスや福祉施設・医療機関等の施設を充実する」50.5%、「高齢者を地域で支える仕組みを整備する」46.1%となっている。

カテゴリ	件数	全体	無回答除外
①道路や交通機関、建物等のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化など	282	35.8%	36.6%
②少ない負担で自由に移動できる交通手段を整備する	397	50.4%	51.6%
③住居の確保や、就労環境を整備する	94	11.9%	12.2%
④高齢者を地域で支える仕組みを整備する	355	45.1%	46.1%
⑤認知症高齢者対策を充実する	236	30.0%	30.6%
⑥在宅サービスや福祉施設・医療機関等の施設を充実する	389	49.4%	50.5%
⑦高齢者が自己啓発や文化的活動等に参加できる機会を確保する	94	11.9%	12.2%
⑧人権相談や電話相談を充実する	42	5.3%	5.5%
⑨その他	12	1.5%	1.6%
⑩特にない	22	2.8%	2.9%
<無回答>	17	2.2%	
合計	787	100.0%	770



【参考】高知県調査

少ない負担で自由に移動できる交通手段を整備する 52.4%、
 高齢者を地域で支える仕組みを整備する 36.3%

■年代別

10歳・20歳代、40歳代、60歳代で「在宅サービスや福祉施設・医療機関等の施設を充実する」、30歳代、40歳代、70歳以上で「少ない負担で自由に移動できる交通手段を整備する」、50歳代で「高齢者を地域で支える仕組みを整備する」がそれぞれ最も高くなっている。

	10歳・ 20歳代	30歳 代	40歳 代	50歳 代	60歳 代	70歳 以上
合計	45人	75人	107人	110人	165人	266人
①道路や交通機関、建物等のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化など	44.4%	46.7%	40.2%	40.0%	37.0%	29.7%
②少ない負担で自由に移動できる交通手段を整備する	46.7%	52.0%	47.7%	56.4%	52.1%	51.1%
③住居の確保や、就労環境を整備する	11.1%	18.7%	23.4%	10.0%	10.9%	7.5%
④高齢者を地域で支える仕組みを整備する	51.1%	33.3%	40.2%	60.0%	47.9%	44.4%
⑤認知症高齢者対策を充実する	26.7%	32.0%	30.8%	30.0%	32.7%	29.7%
⑥在宅サービスや福祉施設・医療機関等の施設を充実する	55.6%	45.3%	47.7%	54.5%	59.4%	45.5%
⑦高齢者が自己啓発や文化的活動等に参加できる機会を確保する	6.7%	9.3%	11.2%	10.9%	13.9%	13.5%
⑧人権相談や電話相談を充実する	-	2.7%	2.8%	2.7%	3.0%	10.9%
⑨その他	4.4%	1.3%	5.6%	1.8%	-	0.4%
⑩特になし	4.4%	2.7%	2.8%	0.9%	1.2%	4.5%

■性別

男性は「少ない負担で自由に移動できる交通手段を整備する」52.2%、女性は「在宅サービスや福祉施設・医療機関等の施設を充実する」52.8%がそれぞれが最も高くなっている。

	男性	女性	回答したくない
合計	299人	464人	5人
①道路や交通機関、建物等のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化など	34.8%	38.4%	-
②少ない負担で自由に移動できる交通手段を整備する	52.2%	51.3%	40.0%
③住居の確保や、就労環境を整備する	12.7%	11.9%	20.0%
④高齢者を地域で支える仕組みを整備する	43.1%	48.1%	40.0%
⑤認知症高齢者対策を充実する	25.8%	33.8%	40.0%
⑥在宅サービスや福祉施設・医療機関等の施設を充実する	47.5%	52.8%	40.0%
⑦高齢者が自己啓発や文化的活動等に参加できる機会を確保する	12.4%	11.6%	40.0%
⑧人権相談や電話相談を充実する	6.7%	4.7%	-
⑨その他	2.3%	1.1%	-
⑩特になし	3.3%	2.4%	-

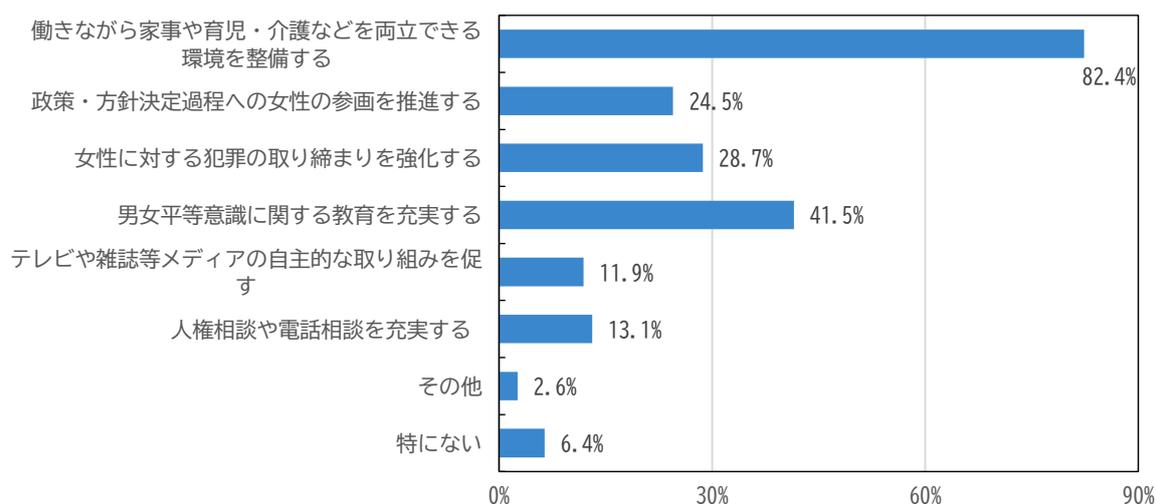
(4) 女性の人権について

問 11 あなたは、女性の人権を守るために特に必要なことは、どのようなことだと思いますか。 【〇は3つ以内】

■全体

「働きながら家事や育児・介護などを両立できる環境を整備する」が82.4%と最も高く、次いで「男女平等意識に関する教育を充実する」41.5%、「女性に対する犯罪の取り締まりを強化する」28.7%となっている。

カテゴリ	件数	全体	無回答除外
①男女が共に働きながら家事や育児・介護などを両立できる環境を整備する	631	80.2%	82.4%
②政治や経済等の分野における政策・方針決定過程への女性の参画を推進する	188	23.9%	24.5%
③女性に対する犯罪の取り締まりを強化する	220	28.0%	28.7%
④男女平等意識に関する教育を充実する	318	40.4%	41.5%
⑤女性の人権を尊重した表現がされるよう、テレビや雑誌等メディアの自主的な取り組みを促す	91	11.6%	11.9%
⑥人権相談や電話相談を充実する	100	12.7%	13.1%
⑦その他	20	2.5%	2.6%
⑧特にない	49	6.2%	6.4%
<無回答>	21	2.7%	
合計	787	100.0%	766



【参考】高知県調査

働きながら家事や育児・介護などを両立できる環境を整備する 68.1%
 男女平等に関する教育を充実する 31.1%、
 女性に対する犯罪の取り締まりを強化する 14.5%

■年代別

各年代に置いて、「男女が共に働きながら家事や育児・介護などを両立できる環境を整備する」が最も高くなっている。

	10歳・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
合計	45人	75人	107人	110人	163人	264人
①男女が共に働きながら家事や育児・介護などを両立できる環境を整備する	86.7%	86.7%	75.7%	87.3%	82.2%	81.1%
②政治や経済等の分野における政策・方針決定過程への女性の参画を推進する	28.9%	22.7%	21.5%	28.2%	22.7%	25.0%
③女性に対する犯罪の取り締まりを強化する	33.3%	36.0%	32.7%	23.6%	27.0%	27.7%
④男女平等意識に関する教育を充実する	42.2%	36.0%	43.9%	46.4%	42.3%	39.4%
⑤女性の人権を尊重した表現がされるよう、テレビや雑誌等メディアの自主的な取り組みを促す	4.4%	8.0%	7.5%	11.8%	13.5%	15.2%
⑥人権相談や電話相談を充実する	4.4%	6.7%	12.1%	9.1%	11.7%	18.9%
⑦その他	4.4%	4.0%	4.7%	1.8%	3.1%	1.1%
⑧特になし	4.4%	5.3%	5.6%	3.6%	6.7%	8.3%

■性別

「男女が共に働きながら家事や育児・介護などを両立できる環境を整備する」がそれぞれ最も高くなっている。

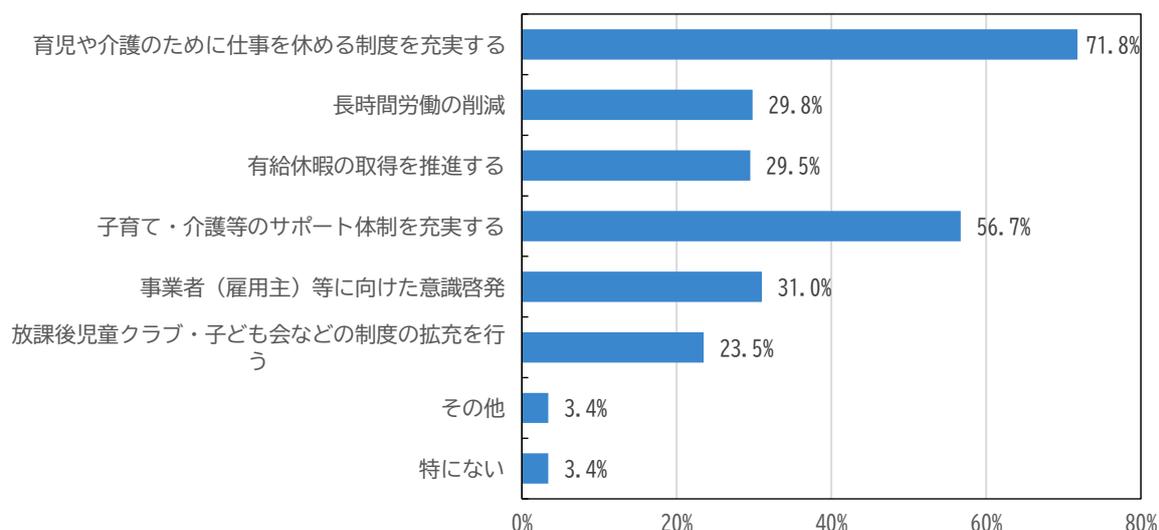
	男性	女性	回答したくない
合計	299人	460人	5人
①男女が共に働きながら家事や育児・介護などを両立できる環境を整備する	78.9%	84.8%	80.0%
②政治や経済等の分野における政策・方針決定過程への女性の参画を推進する	23.4%	24.8%	60.0%
③女性に対する犯罪の取り締まりを強化する	25.8%	30.4%	60.0%
④男女平等意識に関する教育を充実する	43.5%	40.4%	20.0%
⑤女性の人権を尊重した表現がされるよう、テレビや雑誌等メディアの自主的な取り組みを促す	10.0%	13.3%	-
⑥人権相談や電話相談を充実する	13.0%	13.3%	-
⑦その他	3.3%	2.2%	-
⑧特になし	8.4%	5.0%	-

問 12 あなたは、男女が共に仕事と家庭を両立できる社会を目指すために特に必要なことはどのようなことだと思いますか。 【〇は3つ以内】

■全体

「育児や介護のために仕事を休める制度を充実する」が 71.8%と最も高く、次いで「子育て・介護等のサポート体制を充実する」56.7%、「事業者（雇用主）等に向けた意識啓発」31.0%となっている。

カテゴリ	件数	全体	無回答除外
①育児や介護のために仕事を休める制度を充実する	547	69.5%	71.8%
②長時間労働の削減	227	28.8%	29.8%
③有給休暇の取得を推進する	225	28.6%	29.5%
④子育て・介護等のサポート体制を充実する	432	54.9%	56.7%
⑤事業者（雇用主）等に向けた意識啓発	236	30.0%	31.0%
⑥放課後児童クラブ・子ども会などの制度の拡充を行う	179	22.7%	23.5%
⑦その他	26	3.3%	3.4%
⑧特にない	26	3.3%	3.4%
<無回答>	25	3.2%	
合計	787	100.0%	762



【参考】高知県調査

育児や介護休業制度の取得しやすい環境を推進する 73.0%、

■年代別

各年代において、「育児や介護のために仕事を休める制度を充実する」が最も高くなっている。

	10歳・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
合計	44人	75人	107人	109人	161人	264人
①育児や介護のために仕事を休める制度を充実する	72.7%	70.7%	59.8%	75.2%	76.4%	72.7%
②長時間労働の削減	45.5%	37.3%	24.3%	24.8%	28.6%	29.9%
③有給休暇の取得を推進する	31.8%	26.7%	25.2%	29.4%	32.3%	29.9%
④子育て・介護等のサポート体制を充実する	61.4%	57.3%	53.3%	67.0%	60.9%	50.4%
⑤事業者（雇用主）等に向けた意識啓発	15.9%	36.0%	29.0%	34.9%	33.5%	29.5%
⑥放課後児童クラブ・子ども会などの制度の拡充を行う	22.7%	21.3%	36.4%	22.0%	18.6%	22.3%
⑦その他	2.3%	5.3%	9.3%	3.7%	3.1%	0.8%
⑧特になし	4.5%	-	2.8%	1.8%	0.6%	6.8%

■性別

「育児や介護のために仕事を休める制度を充実する」がそれぞれ最も高くなっている。

	男性	女性	回答したくない
合計	296人	459人	5人
①育児や介護のために仕事を休める制度を充実する	71.3%	72.3%	60.0%
②長時間労働の削減	29.7%	30.1%	20.0%
③有給休暇の取得を推進する	23.6%	33.6%	20.0%
④子育て・介護等のサポート体制を充実する	57.1%	56.6%	40.0%
⑤事業者（雇用主）等に向けた意識啓発	30.1%	31.2%	60.0%
⑥放課後児童クラブ・子ども会などの制度の拡充を行う	17.2%	27.5%	40.0%
⑦その他	4.4%	2.8%	-
⑧特になし	4.7%	2.4%	-

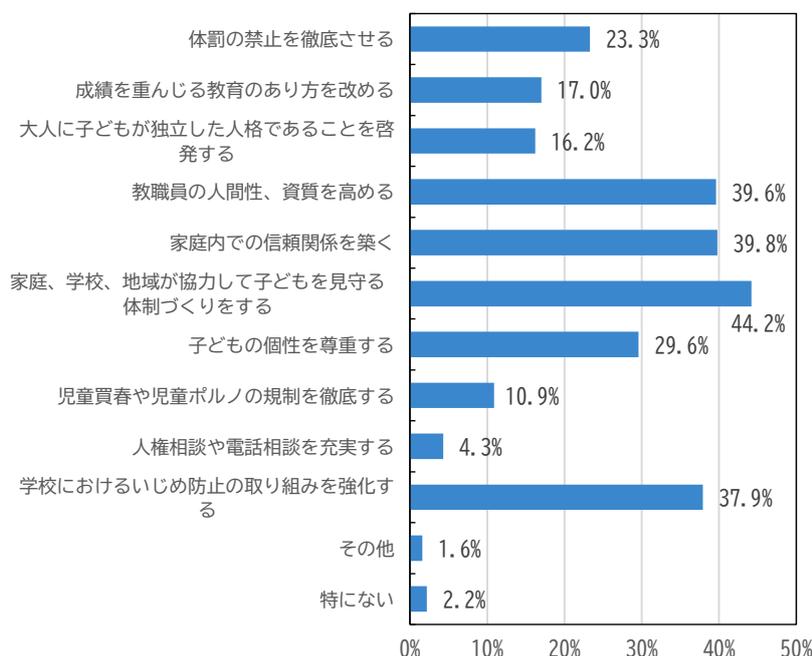
(5) 子どもの人権について

問 13 あなたは、子どもの人権を守るために特に必要なことはどのようなことだと思いますか。 【〇は3つ以内】

■全体

「家庭、学校、地域が協力して子どもを見守る体制作りをする」が 44.2%と最も高く、次いで「家庭内での信頼関係を築く」39.8%、「教職員の人間性、資質を高める」39.6%、「学校におけるいじめ防止の取り組みを強化する」37.9%となっている。

カテゴリ	件数	全体	無回答除外
①体罰の禁止を徹底させる	180	22.9%	23.3%
②成績を重んじる教育のあり方を改める	131	16.6%	17.0%
③大人に子どもが独立した人格であることを啓発する	125	15.9%	16.2%
④教職員の人間性、資質を高める	305	38.8%	39.6%
⑤家庭内での信頼関係を築く（子どもが安心できる環境をつくる）	307	39.0%	39.8%
⑥家庭、学校、地域が協力して子どもを見守る体制づくりをする	341	43.3%	44.2%
⑦子どもの個性を尊重する	228	29.0%	29.6%
⑧児童買春や児童ポルノの規制を徹底する	84	10.7%	10.9%
⑨人権相談や電話相談を充実する	33	4.2%	4.3%
⑩学校におけるいじめ防止の取り組みを強化する	292	37.1%	37.9%
⑪その他	12	1.5%	1.6%
⑫特にない	17	2.2%	2.2%
<無回答>	16	2.0%	
合計	787	100.0%	771



【参考】高知県調査

子育てに地域ぐるみでかかわる機運を育む 22.1%
 家庭内の人間関係を安定させる 18.6%、
 教師の人間性、資質を高める 26.4%

■年代別

10歳・20歳代、30歳代は「家庭内での信頼関係を築く(子どもが安心できる環境をつくる)」、40歳代・50歳以上は「家庭、学校、地域が協力して子どもを見守る体制づくりをする」、60歳代、70歳以上は「教職員の人間性、資質を高める」がそれぞれ最も高くなっている。

	10歳・ 20歳代	30歳 代	40歳 代	50歳 代	60歳 代	70歳 以上
合計	45人	75人	107人	112人	164人	266人
①体罰の禁止を徹底させる	13.3%	13.3%	14.0%	17.9%	22.6%	34.6%
②成績を重んじる教育のあり方を改める	8.9%	6.7%	18.7%	16.1%	15.9%	21.4%
③大人に子どもが独立した人格であることを啓発する	26.7%	13.3%	20.6%	16.1%	18.9%	12.0%
④教職員の人間性、資質を高める	40.0%	26.7%	31.8%	38.4%	47.6%	42.1%
⑤家庭内での信頼関係を築く(子どもが安心できる環境をつくる)	62.2%	56.0%	39.3%	39.3%	39.6%	32.0%
⑥家庭、学校、地域が協力して子どもを見守る体制づくりをする	37.8%	46.7%	56.1%	49.1%	40.9%	39.5%
⑦子どもの個性を尊重する	35.6%	37.3%	28.0%	31.3%	25.0%	28.6%
⑧児童買春や児童ポルノの規制を徹底する	2.2%	17.3%	17.8%	8.9%	11.6%	8.3%
⑨人権相談や電話相談を充実する	2.2%	1.3%	4.7%	0.9%	5.5%	6.0%
⑩学校におけるいじめ防止の取り組みを強化する	26.7%	29.3%	29.0%	48.2%	43.9%	38.0%
⑪その他	4.4%	4.0%	3.7%	0.9%	1.2%	-
⑫特にない	2.2%	1.3%	0.9%	1.8%	1.2%	3.8%

■性別

男性は「教職員の人間性、資質を高める」41.7%、女性は「家庭、学校、地域が協力して子どもを見守る体制づくりをする」46.8%とそれぞれ最も高くなっている。

	男性	女性	回答したくない
合計	300人	464人	5人
①体罰の禁止を徹底させる	27.0%	21.3%	-
②成績を重んじる教育のあり方を改める	16.3%	17.7%	-
③大人に子どもが独立した人格であることを啓発する	14.7%	17.0%	20.0%
④教職員の人間性、資質を高める	41.7%	38.6%	20.0%
⑤家庭内での信頼関係を築く(子どもが安心できる環境づくり)	36.0%	42.2%	40.0%
⑥家庭、学校、地域が協力し子どもを見守る体制づくりをする	39.7%	46.8%	80.0%
⑦子どもの個性を尊重する	28.3%	30.4%	-
⑧児童買春や児童ポルノの規制を徹底する	8.3%	12.5%	20.0%
⑨人権相談や電話相談を充実する	4.3%	4.3%	-
⑩学校におけるいじめ防止の取り組みを強化する	39.7%	36.9%	40.0%
⑪その他	1.7%	1.5%	-
⑫特にない	3.3%	1.5%	-

(6) 同和問題(部落差別問題)について

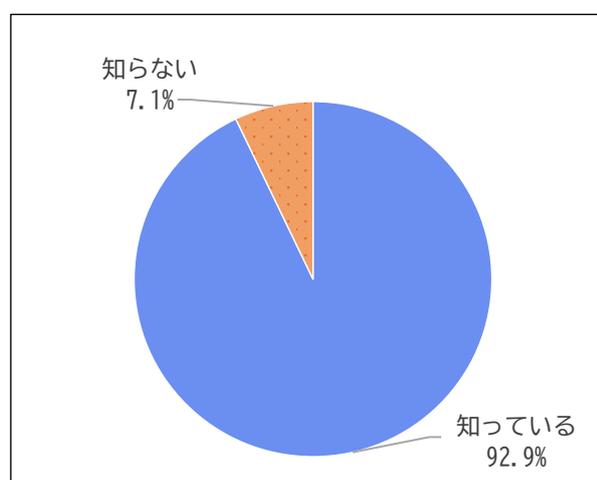
問 14 あなたは同和問題について知っていますか。

【いずれかに○】

■全体

「知っている」が92.9%、「知らない」が7.1%であった。

カテゴリ	件数	全体	無回答 除外
①知っている	704	89.4%	92.9%
②知らない	54	6.9%	7.1%
<無回答>	29	3.7%	
合計	787	100.0%	758



【参考】高知県調査

知っている 92.2%、知らない 2.1%

■年代別

「知っている」が全ての年代で高くなっている。一方「知らない」も全ての年代で一定数確認できる。

	10歳・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
合計	45人	75人	106人	110人	162人	258人
①知っている	82.2%	89.3%	95.3%	94.5%	96.3%	91.9%
②知らない	17.8%	10.7%	4.7%	5.5%	3.7%	8.1%

■性別

「知っている」がそれぞれ90%を超え高くなっている。

	男性	女性	回答したくない
合計	296人	455人	5人
①知っている	91.9%	93.4%	100.0%
②知らない	8.1%	6.6%	-

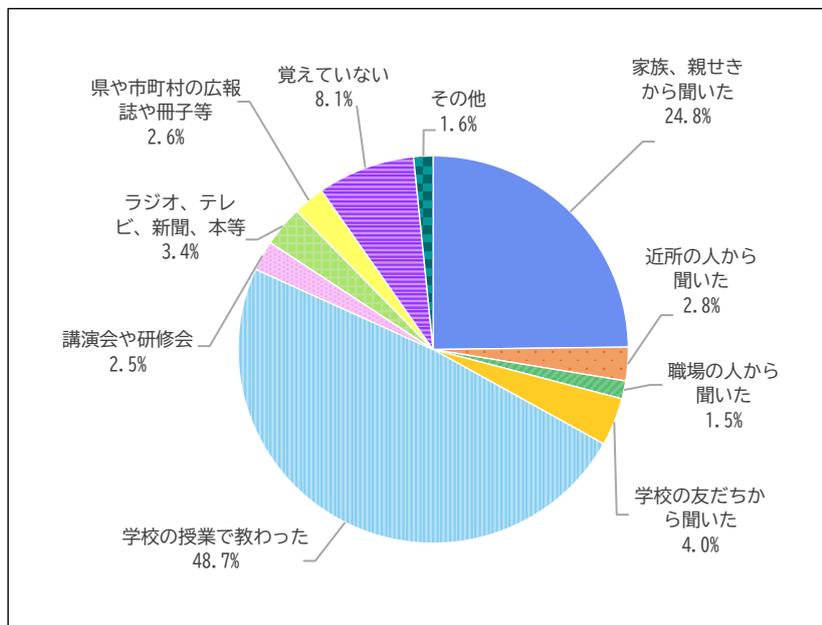
(問14で「知っている」と答えた方にお聞きします。)

問 15 あなたが同和問題について初めて知ったきっかけは何ですか。【1つに○】

■全体

「学校の授業で教わった」が 48.7%と最も高く、次いで「家族、親せきから聞いた」24.8%、「覚えていない」8.1%、「学校の友だちから聞いた」4.0%となっている。

カテゴリ	件数	全体	無回答 除外
①家族、親せきから聞いた	170	24.1%	24.8%
②近所の人から聞いた	19	2.7%	2.8%
③職場の人から聞いた	10	1.4%	1.5%
④学校の友だちから聞いた	27	3.8%	4.0%
⑤学校の授業で教わった	332	47.2%	48.7%
⑥講演会や研修会	17	2.4%	2.5%
⑦ラジオ、テレビ、新聞、本等	23	3.3%	3.4%
⑧インターネット	0	0.0%	0.0%
⑨県や市町村の広報誌や冊子等	18	2.6%	2.6%
⑩覚えていない	55	7.8%	8.1%
⑪その他	11	1.6%	1.6%
<無回答>	22	3.1%	
合計	704	100.0%	682



【参考】高知県調査

学校の授業で教わった
37.5%

家族から聞いた 24.5%

親戚の人から聞いた 1.4%

覚えていない 10.7%

学校の友だちから聞いた
7.8%

■年代別

70歳以上は「家族、親せきから聞いた」、その他の年代では「学校の授業で教わった」が最も高くなっている。一方、「家族、親せきから聞いた」も各年代で一定数確認できる。

	10歳・ 20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳 以上
合計	35人	67人	99人	102人	153人	224人
①家族、親せきから聞いた	20.0%	11.9%	12.2%	16.6%	31.3%	34.8%
②近所の人から聞いた	-	-	1.0%	-	1.3%	7.1%
③職場の人から聞いた	-	4.5%	-	-	0.7%	2.7%
④学校の友だちから聞いた	-	1.5%	2.0%	1.0%	7.2%	4.9%
⑤学校の授業で教わった	71.3%	79.1%	80.8%	81.4%	40.5%	12.5%
⑥講演会や研修会	2.9%	1.5%	1.0%	-	3.3%	4.0%
⑦ラジオ、テレビ、新聞、本等	2.9%	-	1.0%	-	2.6%	7.6%
⑧インターネット	-	-	-	-	-	-
⑨県や市町村の広報誌や冊子等	-	-	-	-	2.6%	6.3%
⑩覚えていない	2.9%	1.5%	2.0%	-	8.5%	17.0%
⑪その他	-	-	-	1.0%	2.0%	3.1%

■性別

「学校の授業で教わった」がそれぞれ最も高くなっている。

	男性	女性	回答したくない
合計	264人	411人	5人
①家族、親せきから聞いた	25.4%	25.1%	-
②近所の人から聞いた	3.0%	2.7%	-
③職場の人から聞いた	3.0%	0.5%	-
④学校の友だちから聞いた	4.5%	3.4%	-
⑤学校の授業で教わった	43.2%	51.8%	100.0%
⑥講演会や研修会	2.3%	2.4%	-
⑦ラジオ、テレビ、新聞、本等	3.8%	3.2%	-
⑧インターネット	-	-	-
⑨県や市町村の広報誌や冊子等	3.8%	1.9%	-
⑩覚えていない	10.2%	6.8%	-
⑪その他	0.8%	2.2%	-

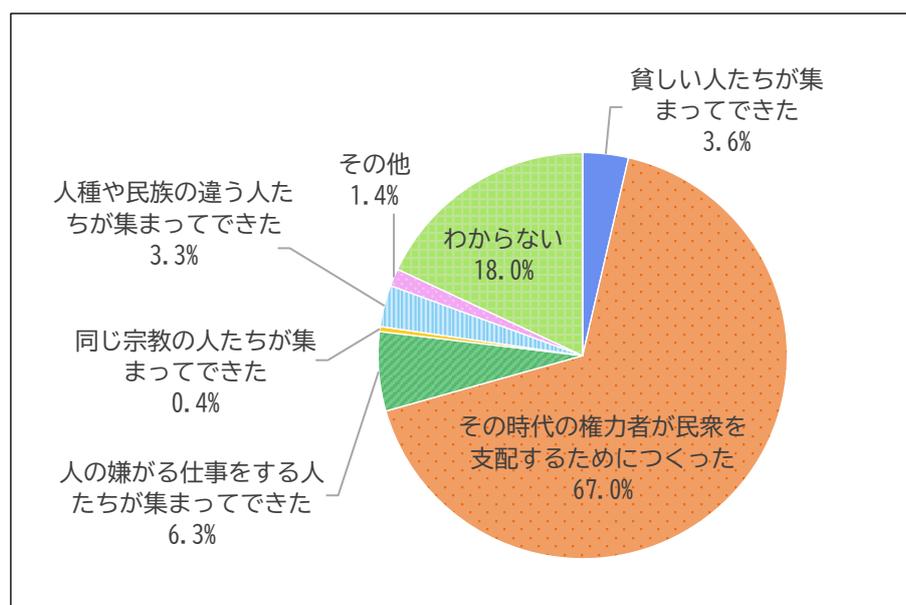
問 16 同和地区はどのようにしてできたとお考えですか。

【1つに○】

■全体

「その時代の権力者が民衆を支配するためにつくった」が 67.0%と最も高く、次いで「わからない」18.0%、「人の嫌がる仕事をする人たちが集まってできた」6.3%となっている。

カテゴリ	件数	全体	無回答除外
① 貧しい人たちが集まってできた	24	3.4%	3.6%
② その時代の権力者が民衆を支配するためにつくった	464	65.9%	67.0%
③ 人の嫌がる仕事をする人たちが集まってできた	44	6.3%	6.3%
④ 同じ宗教の人たちが集まってできた	3	0.4%	0.4%
⑤ 人種や民族の違う人たちが集まってできた	23	3.3%	3.3%
⑥ その他	10	1.4%	1.4%
⑦ わからない	125	17.8%	18.0%
<無回答>	11	1.5%	
合計	704	100.0%	693



■年代別

「その時代の権力者が民衆を支配するためにつくった」が全ての年代で最も高くなっている。また、10歳・20歳代で「人の嫌がる仕事をする人たちが集まってできた」が18.9%と他の年代に比べ高くなっている。

	10歳・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
合計	37人	67人	97人	104人	152人	234人
①貧しい人たちが集まってできた	5.4%	7.5%	4.1%	1.9%	2.6%	3.1%
②その時代の権力者が民衆を支配するためにつくった	54.1%	50.7%	66.0%	75.1%	74.3%	65.4%
③人の嫌がる仕事をする人たちが集まってできた	18.9%	11.9%	4.1%	3.8%	5.9%	5.1%
④同じ宗教の人たちが集まってできた	2.7%	-	1.0%	-	-	0.4%
⑤人種や民族の違う人たちが集まってできた	-	4.5%	2.1%	3.8%	3.3%	3.8%
⑥その他	2.7%	1.5%	3.1%	2.9%	0.7%	0.4%
⑦わからない	16.2%	23.9%	19.6%	12.5%	13.2%	21.8%

■性別

「その時代の権力者が民衆を支配するためにつくった」がそれぞれ最も高くなっている。

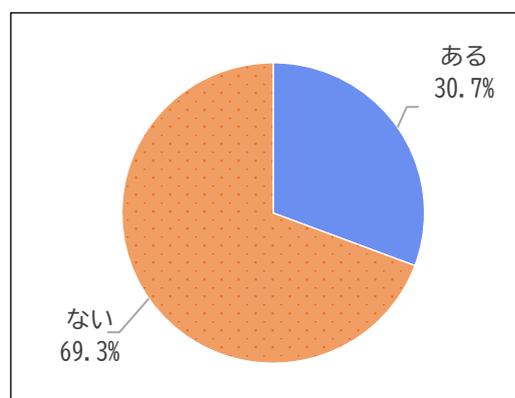
	男性	女性	回答したくない
合計	269人	417人	5人
①貧しい人たちが集まってできた	3.6%	3.4%	-
②その時代の権力者が民衆を支配するためにつくった	67.3%	66.5%	60.0%
③人の嫌がる仕事をする人たちが集まってできた	6.3%	6.5%	-
④同じ宗教の人たちが集まってできた	0.4%	0.5%	-
⑤人種や民族の違う人たちが集まってできた	3.0%	3.4%	20.0%
⑥その他	1.9%	1.0%	20.0%
⑦わからない	17.5%	18.7%	-

問 17 あなたは、同和地区ということに気がしたり、意識したりすることがありますか。 【いずれかに○】

■全体

「ない」が 69.3%、「ある」が 30.7%となっている。

カテゴリ	件数	全体	無回答 除外
①ある	214	30.4%	30.7%
②ない	482	68.5%	69.3%
<無回答>	8	1.1%	
合計	704	100.0%	696



【参考】高知県調査

ない 55.3%

■年代別

「ない」が各年代で高くなってはいるが、「ある」が各年代で一定数確認でき、50歳代～70歳以上では30%を超え高くなっている。

	10歳・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
合計	37人	67人	101人	104人	152人	233人
①ある	10.8%	17.9%	27.7%	30.8%	38.8%	33.9%
②ない	89.2%	82.1%	72.3%	69.2%	61.2%	66.1%

■性別

「ある」が男性 35.1%、女性 28.0%となっている。

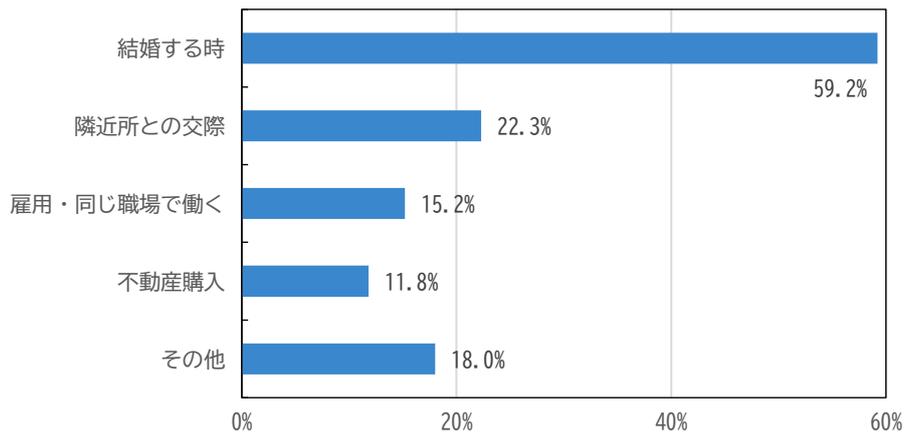
	男性	女性	回答したくない
合計	271人	418人	5人
①ある	35.1%	28.0%	40.0%
②ない	64.9%	72.0%	60.0%

問17-1 問17で「ある」とお答えいただいた方に質問します。どのようなときに気にしたり意識したりすることがありますか。 【〇はいくつでも】

■全体

「結婚する時」が 59.2%で最も高く、県の調査と比較しても高くなっている。次いで、「交際の時」22.3%、「その他」18.0%となっている。

カテゴリ	件数	全体	無回答除外
①結婚する時	125	58.4%	59.2%
②隣近所との交際	47	22.0%	22.3%
③雇用・同じ職場で働く	32	15.0%	15.2%
④不動産購入	25	11.7%	11.8%
⑤その他	38	17.8%	18.0%
<無回答>	3	1.4%	
合計	214	100.0%	211



【参考】高知県調査

結婚する時 27.2%、その他 3.1%

■年代別

すべての年代において「結婚する時」が最も高くなっている。30歳代のみ同率で「不動産購入」が高くなっている

	10歳・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
合計	4人	12人	26人	32人	59人	78人
①結婚する時	50.0%	25.0%	42.3%	50.0%	69.5%	66.7%
②隣近所との交際	-	8.3%	30.8%	9.4%	20.3%	29.5%
③雇用・同じ職場で働く	-	16.7%	23.1%	15.6%	11.9%	15.4%
④不動産購入	-	25.0%	23.1%	12.5%	10.2%	7.7%
⑤その他	50.0%	41.7%	34.6%	28.1%	11.9%	7.7%

■性別

「結婚する時」がそれぞれ最も高くなっている。

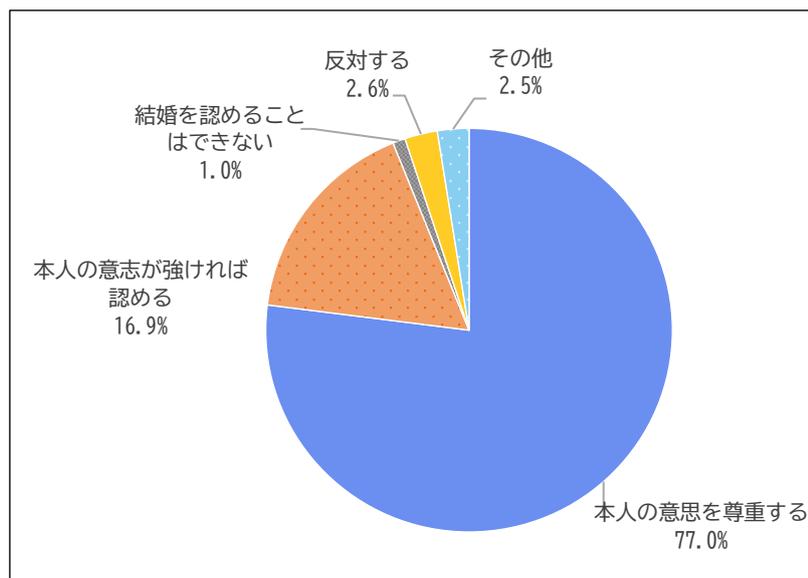
	男性	女性	回答したくない
合計	93人	116人	2人
①結婚する時	54.8%	62.9%	50.0%
②隣近所との交際	22.6%	22.4%	-
③雇用・同じ職場で働く	16.1%	14.7%	-
④不動産購入	7.5%	14.7%	50.0%
⑤その他	19.4%	17.2%	-

問 18 あなたの親族が結婚しようとしている相手が同和地区出身だとわかった場合、あなたはどうされますか。 【1つに〇】

■全体

「本人の意思を尊重する」が 77.0%と最も高く、次いで「本人の意思が強ければ認める」16.9%、「反対する」2.6%となっている。

カテゴリ	件数	全体	無回答除外
①本人の意思を尊重する	529	75.1%	77.0%
②反対はするが、本人の意志が強ければ認める	116	16.5%	16.9%
③家族や親せきに反対する者がいれば、結婚を認めることはできない	7	1.0%	1.0%
④反対する	18	2.6%	2.6%
⑤その他	17	2.4%	2.5%
<無回答>	17	2.4%	
合計	704	100.0%	687



【参考】高知県調査

設問 お子さんが結婚しようとしている相手が、同和地区の人だと分かった場合、あなたはどうしますか。

子どもの意思を尊重する 48.8%、
 親としては反対するが、子どもの意思が強ければ認める 20.6%、
 絶対に結婚を認めない 4.1%

■年代別

各年代において「本人の意思を尊重する」が最も高くなっている。

	10歳・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
合計	37人	65人	101人	104人	150人	228人
①本人の意思を尊重する	89.2%	89.2%	79.2%	76.0%	76.6%	71.4%
②反対はするが、本人の意志が強ければ認める	5.4%	6.2%	16.8%	15.4%	18.7%	21.1%
③家族や親せきに反対する者がいれば、結婚を認めることはできない	-	-	1.0%	1.9%	0.7%	1.3%
④反対する	-	1.5%	1.0%	1.9%	2.7%	4.4%
⑤その他	5.4%	3.1%	2.0%	4.8%	1.3%	1.8%

■性別

「本人の意思を尊重する」がそれぞれで最も高くなっている。

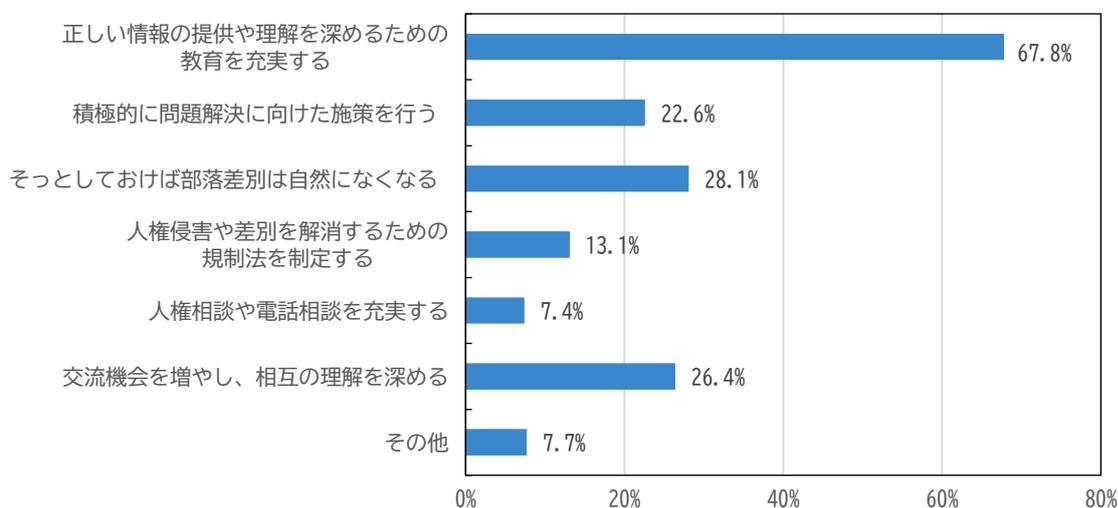
	男性	女性	回答したくない
合計	268人	412人	5人
①本人の意思を尊重する	74.7%	78.4%	80.0%
②反対はするが、本人の意志が強ければ認める	18.7%	15.8%	20.0%
③家族や親せきに反対する者がいれば、結婚を認めることはできない	0.7%	1.2%	-
④反対する	3.7%	1.9%	-
⑤その他	2.2%	2.7%	-

問 19 あなたは、同和問題を解決するためには、特にどのようなことが大切だと思いますか。 【〇は3つ以内】

■全体

「正しい情報の提供や理解を深めるための教育を充実する」が67.8%と最も高い。次いで「そっとしておけば部落差別は自然になくなる」28.1%、「交流の機会を増やし、相互の理解を深める」26.4%であった。

カテゴリ	件数	全体	無回答除外
①同和問題に対する正しい情報の提供や理解を深めるための教育を充実する	465	66.1%	67.8%
②行政の主体性を確立し、積極的に問題解決に向けた施策を行う	155	22.0%	22.6%
③「同和地区」のことなど口に出さず、そっとしておけば部落差別は自然になくなる	193	27.4%	28.1%
④人権侵害や差別を解消するための規制法を制定する	90	12.8%	13.1%
⑤人権相談や電話相談を充実する	51	7.2%	7.4%
⑥交流機会を増やし、相互の理解を深める	181	25.7%	26.4%
⑦その他	53	7.5%	7.7%
<無回答>	18	2.6%	
合計	704	100.0%	686



【参考】高知県調査

(単一回答)

同和地区に対する正しい理解を深め人権を守るための教育・啓発活動を推進する 37.2%
 同和地区のことなど口に出さず、そっとしておけば部落差別は自然になくなる 29.0%、

■年代別

各年代において「同和問題に対する正しい情報の提供や理解を深めるための教育を充実する」が最も高くなっている。一方「同和地区」のことなど口に出さず、そっとしておけば部落差別は自然になくなる」も各年代で一定数確認できる。

	10歳・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
合計	37人	65人	99人	103人	151人	230人
①同和問題に対する正しい情報の提供や理解を深めるための教育を充実する	67.6%	66.2%	61.6%	62.1%	76.8%	67.4%
②行政の主体性を確立し、積極的に問題解決に向けた施策を行う	16.2%	12.3%	20.2%	23.3%	25.8%	25.2%
③「同和地区」のことなど口に出さず、そっとしておけば部落差別は自然になくなる	35.1%	29.2%	30.3%	28.2%	19.9%	31.3%
④人権侵害や差別を解消するための規制法を制定する	8.1%	15.4%	13.1%	12.6%	12.6%	13.9%
⑤人権相談や電話相談を充実する	2.7%	7.7%	7.1%	5.8%	9.9%	7.4%
⑥交流機会を増やし、相互の理解を深める	27.0%	18.5%	22.2%	19.4%	27.8%	32.2%
⑦その他	10.8%	6.2%	14.1%	9.7%	7.9%	3.9%

■性別

「同和問題に対する正しい情報の提供や理解を深めるための教育を充実する」がそれぞれ最も高くなっている。

	男性	女性	回答したくない
合計	264人	416人	4人
①同和問題に対する正しい情報の提供や理解を深めるための教育を充実する	61.0%	71.9%	75.0%
②行政の主体性を確立し、積極的に問題解決に向けた施策を行う	20.8%	23.6%	50.0%
③「同和地区」のことなど口に出さず、そっとしておけば部落差別は自然になくなる	31.8%	26.0%	25.0%
④人権侵害や差別を解消するための規制法を制定する	11.7%	13.9%	25.0%
⑤人権相談や電話相談を充実する	10.2%	5.8%	-
⑥交流機会を増やし、相互の理解を深める	24.6%	27.4%	25.0%
⑦その他	9.1%	7.0%	-

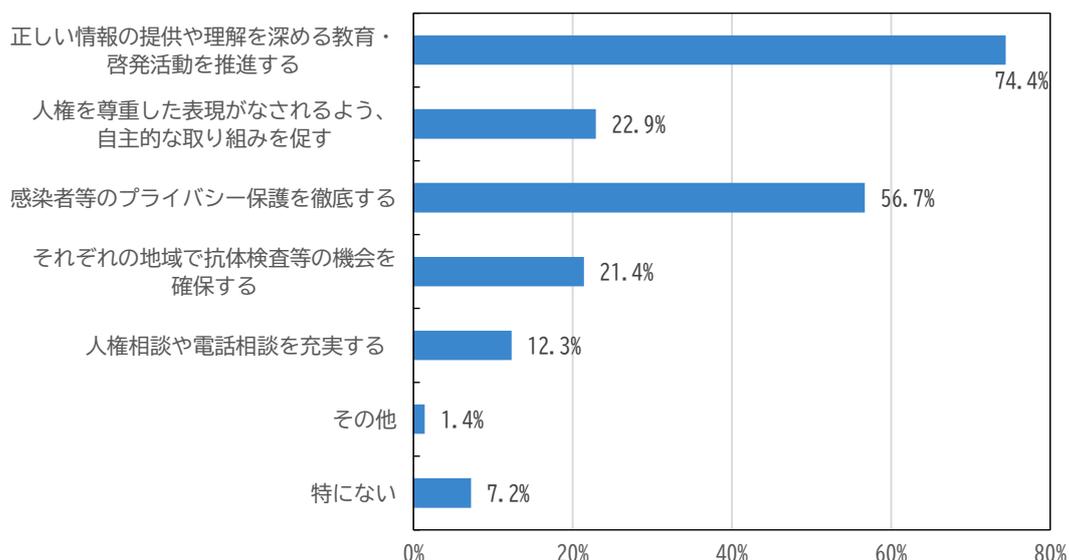
(7) HIV 感染者等の人権について

問 20 あなたは、HIV 感染者等の人権を守るために特に必要なことはどのようなことだと思いますか。 【〇は 3 つ以内】

■全体

「正しい情報の提供や理解を深める教育・啓発活動を推進する」が 74.4%で最も高く、次いで「感染者等のプライバシー保護を徹底する」56.7%、「人権を尊重した表現がなされるよう、自主的な取り組みを促す」22.9%となっている。

カテゴリ	件数	全体	無回答除外
①感染者等について正しい情報の提供や理解を深める教育・啓発活動を推進する	568	72.2%	74.4%
②感染者等の人権を尊重した表現がなされるよう、テレビ・雑誌・インターネット等メディアの自主的な取り組みを促す	175	22.2%	22.9%
③感染者等のプライバシー保護を徹底する	433	55.0%	56.7%
④それぞれの地域で抗体検査等の機会を確保する	163	20.7%	21.4%
⑤人権相談や電話相談を充実する	94	11.9%	12.3%
⑥その他	11	1.4%	1.4%
⑦特にない	55	7.0%	7.2%
<無回答>	24	3.0%	
合計	787	100.0%	763



【参考】高知県調査

正しい情報の提供や理解を深める教育・啓発活動を推進する 61.8%、感染者等のプライバシー保護を徹底する 35.5%、

■年代別

各年代において「感染者等について正しい情報の提供や理解を深める教育教育・啓発活動を推進する」が最も高くなっている。

	10歳・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
合計	45人	75人	107人	112人	160人	262人
①感染者等について正しい情報の提供や理解を深める教育・啓発活動を推進する	73.3%	78.7%	81.3%	74.1%	76.3%	69.8%
②感染者等の人権を尊重した表現がなされるよう、テレビ・雑誌・インターネット等メディアの自主的な取り組みを促す	22.2%	12.0%	19.6%	24.1%	23.8%	26.0%
③感染者等のプライバシー保護を徹底する	71.1%	58.7%	52.3%	64.3%	57.5%	51.5%
④それぞれの地域で抗体検査等の機会を確保する	33.3%	22.7%	22.4%	21.4%	21.9%	18.3%
⑤人権相談や電話相談を充実する	4.4%	6.7%	15.9%	8.9%	13.1%	14.9%
⑥その他	-	2.7%	1.9%	3.6%	0.6%	0.8%
⑦特にない	2.2%	2.7%	4.7%	4.5%	5.6%	12.6%

■性別

「感染者等について正しい情報の提供や理解を深める教育教育・啓発活動を推進する」がそれぞれ最も高くなっている。

	男性	女性	回答したくない
合計	300人	456人	5人
①感染者等について正しい情報の提供や理解を深める教育・啓発活動を推進する	70.7%	76.8%	100.0%
②感染者等の人権を尊重した表現がなされるよう、テレビ・雑誌・インターネット等メディアの自主的な取り組みを促す	17.7%	26.5%	-
③感染者等のプライバシー保護を徹底する	51.3%	60.1%	80.0%
④それぞれの地域で抗体検査等の機会を確保する	22.3%	20.8%	20.0%
⑤人権相談や電話相談を充実する	14.0%	11.0%	40.0%
⑥その他	2.0%	1.1%	-
⑦特にない	9.3%	5.7%	-

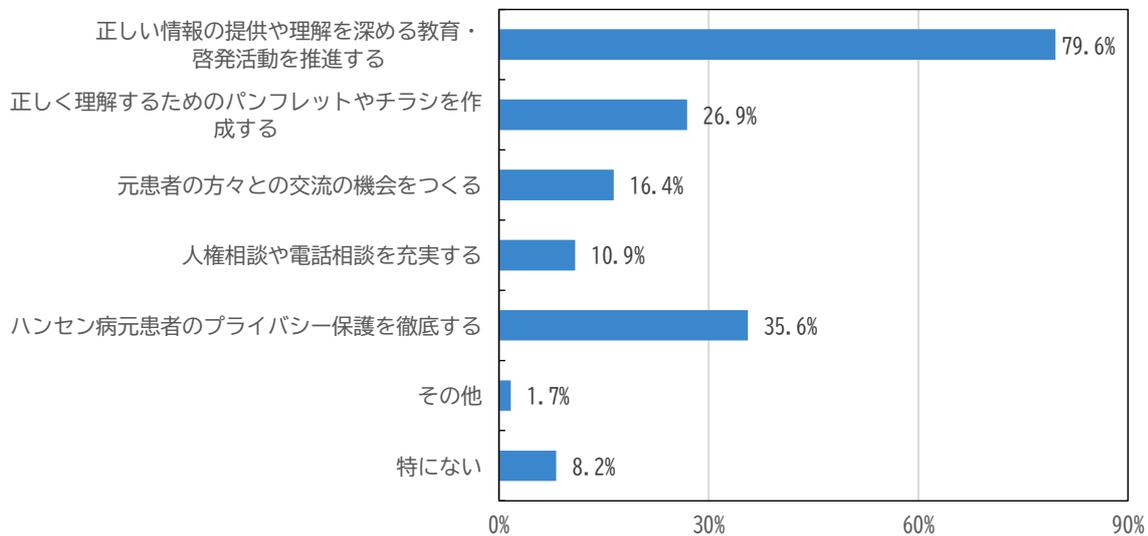
(8) ハンセン病元患者等の人権について

問 21 あなたは、ハンセン病元患者等の人権を守るために特に必要なことはどのようなことだと思いますか。 【〇は3つ以内】

■全体

「正しい情報の提供や理解を深める教育・啓発活動を推進する」が 79.6%で最も高く、次いで「ハンセン病元患者等のプライバシー保護を徹底する」35.6%、「正しく理解するためのパンフレットやチラシを作成する」26.9%となっている。

カテゴリ	件数	全体	無回答除外
①ハンセン病の正しい情報の提供や理解を深める教育・啓発活動を推進する	603	76.6%	79.6%
②ハンセン病を正しく理解するためのパンフレットやチラシを作成する	204	25.9%	26.9%
③ハンセン病への理解を深めるため元患者の方々との交流の機会をつくる	124	15.8%	16.4%
④人権相談や電話相談を充実する	83	10.5%	10.9%
⑤ハンセン病元患者のプライバシー保護を徹底する	270	34.3%	35.6%
⑥その他	13	1.7%	1.7%
⑦特にない	62	7.9%	8.2%
<無回答>	29	3.7%	
合計	787	100.0%	758



【参考】高知県調査

正しい情報の提供や理解を深める教育・啓発活動を推進する 60.4%

正しく理解するためのパンフレットやチラシを作成する 20.4%となっている。

■年代別

各年代において「ハンセン病の正しい情報の提供や理解を深める教育・啓発活動を推進する」が最も高くなっている。

	10歳・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
合計	45人	73人	107人	111人	160人	260人
①ハンセン病の正しい情報の提供や理解を深める教育・啓発活動を推進する	86.7%	80.8%	82.2%	84.7%	80.0%	74.2%
②ハンセン病を正しく理解するためのパンフレットやチラシを作成する	37.8%	21.9%	15.0%	35.1%	28.8%	26.5%
③ハンセン病への理解を深めるため元患者の方々との交流の機会をつくる	15.6%	8.2%	23.4%	14.4%	14.4%	17.3%
④人権相談や電話相談を充実する	4.4%	9.6%	8.4%	5.4%	12.5%	15.0%
⑤ハンセン病元患者のプライバシー保護を徹底する	35.6%	41.1%	34.6%	34.2%	37.5%	34.2%
⑥その他	-	4.1%	2.8%	1.8%	1.3%	1.2%
⑦特にない	4.4%	2.7%	5.6%	4.5%	8.1%	13.1%

■性別

「ハンセン病の正しい情報の提供や理解を深める教育・啓発活動を推進する」がそれぞれで最も高くなっている。

	男性	女性	回答したくない
合計	298人	453人	5人
①ハンセン病の正しい情報の提供や理解を深める教育・啓発活動を推進する	76.8%	81.5%	80.0%
②ハンセン病を正しく理解するためのパンフレットやチラシを作成する	26.8%	27.2%	20.0%
③ハンセン病への理解を深めるため元患者の方々との交流の機会をつくる	17.1%	15.9%	-
④人権相談や電話相談を充実する	11.7%	10.6%	-
⑤ハンセン病元患者のプライバシー保護を徹底する	30.9%	39.1%	20.0%
⑥その他	2.7%	1.1%	-
⑦特にない	10.1%	6.8%	-

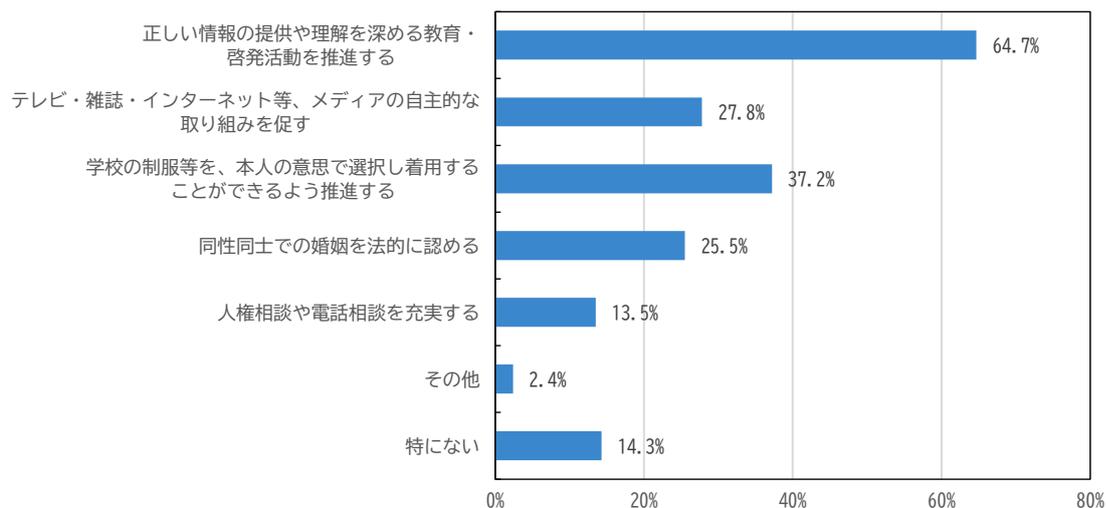
(9) LGBTQ の人権(性自認・性の多様性)について

問 22 あなたは、LGBTQ の人権を守るために特に必要なことはどのようなことだと思いますか。 【〇は3つ以内】

■全体

「正しい情報の提供や理解を深める教育・啓発活動を推進する」が 64.7%で最も高く、次いで「学校の制服等を、本人の意思で選択肢着用することができるよう推進する」37.2%、「テレビ・雑誌・インターネット等、メディアの自主的な取り組みを促す」27.8%、「同性同士での婚姻を法的に認める」25.5%となっている。

カテゴリ	件数	全体	無回答除外
①LGBTQ についての正しい情報の提供や理解を深める教育・啓発活動を推進する	480	61.0%	64.7%
②LGBTQ の人権を尊重した表現がなされるよう、テレビ・雑誌・インターネット等、メディアの自主的な取り組みを促す	206	26.2%	27.8%
③学校の制服等を、生まれ持ったの性別ではなく、本人の意思で選択し着用することができるよう推進する	276	35.1%	37.2%
④同性同士での婚姻を法的に認める	189	24.0%	25.5%
⑤人権相談や電話相談を充実する	100	12.7%	13.5%
⑥その他	18	2.3%	2.4%
⑦特にない	106	13.5%	14.3%
<無回答>	45	5.7%	
合計	787	100.0%	742



■年代別

各年代において「LGBTQ についての正しい情報の提供や理解を深める教育・啓発活動を推進する」が最も高くなっている。

また、10歳・20歳代で「学校の制服等を、生まれ持つての性別ではなく、本人の意思で選択し着用する」が60.0%と他の年代に比べ高くなっている。

	10歳・ 20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
合計	45人	75人	107人	112人	158人	243人
①LGBTQ についての正しい情報の提供や理解を深める教育・啓発活動を推進する	75.6%	74.7%	72.0%	65.2%	61.4%	58.0%
②LGBTQ の人権を尊重した表現がなされるよう、テレビ・雑誌・インターネット等、メディアの自主的な取り組みを促す	22.2%	20.0%	16.8%	29.5%	32.3%	31.7%
③学校の制服等を、生まれ持つての性別ではなく、本人の意思で選択し着用することができるよう推進する	60.0%	53.3%	43.0%	47.3%	37.3%	21.0%
④同性同士での婚姻を法的に認める	42.2%	38.7%	33.6%	24.1%	20.9%	18.1%
⑤人権相談や電話相談を充実する	6.7%	8.0%	11.2%	9.8%	11.4%	20.6%
⑥その他	2.2%	1.3%	4.7%	4.5%	1.9%	1.2%
⑦特にない	6.7%	9.3%	8.4%	9.8%	14.6%	21.8%

■性別

「LGBTQ についての正しい情報の提供や理解を深める教育・啓発活動を推進する」がそれぞれで最も高くなっている。

	男性	女性	回答したくない
合計	290人	445人	5人
①LGBTQ についての正しい情報の提供や理解を深める教育・啓発活動を推進する	61.0%	67.2%	60.0%
②LGBTQ の人権を尊重した表現がなされるよう、テレビ・雑誌・インターネット等、メディアの自主的な取り組みを促す	25.9%	28.8%	40.0%
③学校の制服等を、生まれ持つての性別ではなく、本人の意思で選択し着用することができるよう推進する	27.9%	43.4%	40.0%
④同性同士での婚姻を法的に認める	23.1%	27.0%	40.0%
⑤人権相談や電話相談を充実する	14.1%	13.0%	20.0%
⑥その他	4.1%	1.3%	-
⑦特にない	20.0%	10.3%	20.0%

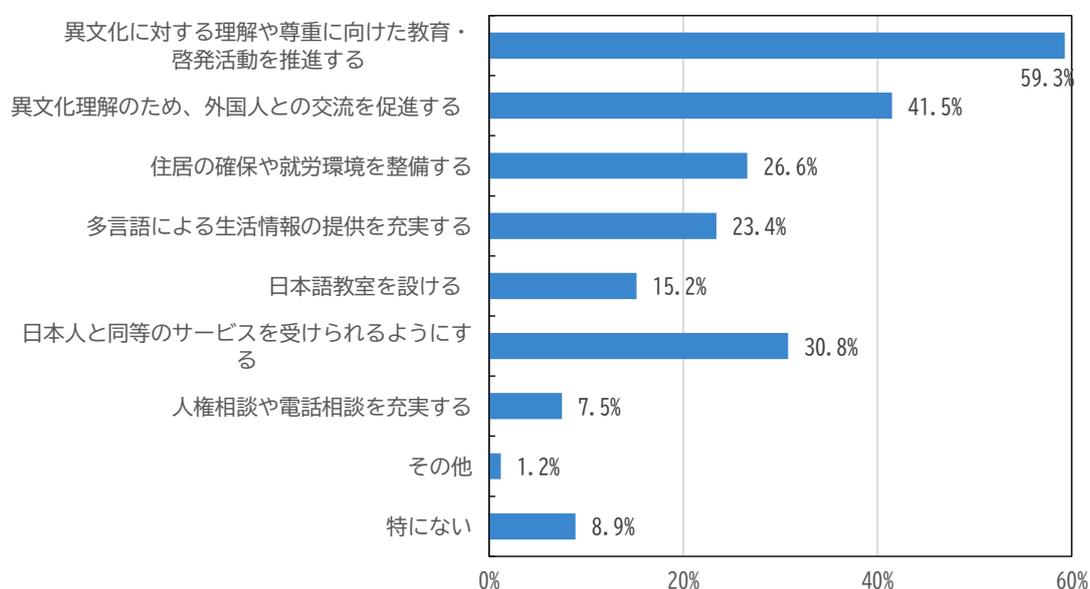
(10) 外国人の人権について

問 23 あなたは、外国人の人権を守るために特に必要なことはどのようなことだと思いますか。 【〇は3つ以内】

■全体

「異文化に対する理解や尊重に向けた教育・啓発活動を推進する」が 59.3%と最も高く、次いで「異文化理解のため、外国人との交流を促進する」41.5%、「日本人と同等のサービスを受けられるようにする」30.8%となっている。

カテゴリ	件数	全体	無回答除外
①異文化に対する理解や尊重に向けた教育・啓発活動を推進する	449	57.1%	59.3%
②異文化理解のため、外国人との交流を促進する	314	39.9%	41.5%
③住居の確保や就労環境を整備する	201	25.5%	26.6%
④多言語による生活情報の提供を充実する	177	22.5%	23.4%
⑤日本語教室を設ける	115	14.6%	15.2%
⑥日本人と同等のサービスを受けられるようにする	233	29.6%	30.8%
⑦人権相談や電話相談を充実する	57	7.2%	7.5%
⑧その他	9	1.1%	1.2%
⑨特にない	67	8.5%	8.9%
<無回答>	30	3.8%	
合計	787	100.0%	757



【参考】高知県調査

異文化に対する理解や尊重に向けた教育・啓発活動を推進する 44.8%

異文化理解のため、外国人との交流を促進する 39.7%、

■年代別

各年代において「異文化に対する理解や尊重に向けた教育・啓発活動を推進する」が最も高くなっている。また、10歳・20歳代で「日本人と同等のサービスを受けられるようにする」が46.7%と他の年代に比べ高くなっている。

	10歳・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
合計	45人	75人	107人	112人	159人	257人
①異文化に対する理解や尊重に向けた教育・啓発活動を推進する	57.8%	58.7%	61.7%	67.0%	57.2%	56.4%
②異文化理解のため、外国人との交流を促進する	44.4%	40.0%	49.5%	46.4%	44.0%	33.9%
③住居の確保や就労環境を整備する	31.1%	33.3%	23.4%	30.4%	29.6%	21.4%
④多言語による生活情報の提供を充実する	28.9%	30.7%	30.8%	27.7%	22.6%	15.6%
⑤日本語教室を設ける	17.8%	13.3%	15.9%	10.7%	13.8%	17.9%
⑥日本人と同等のサービスを受けられるようにする	46.7%	26.7%	25.2%	25.0%	37.1%	30.4%
⑦人権相談や電話相談を充実する	2.2%	2.7%	3.7%	4.5%	4.4%	14.8%
⑧その他	-	1.3%	2.8%	0.9%	1.3%	0.8%
⑨特になし	2.2%	4.0%	5.6%	8.0%	8.8%	13.2%

■性別

「異文化に対する理解や尊重に向けた教育・啓発活動を推進する」がそれぞれで最も高くなっている。

	男性	女性	回答したくない
合計	294人	456人	5人
①異文化に対する理解や尊重に向けた教育・啓発活動を推進する	56.5%	61.4%	40.0%
②異文化理解のため、外国人との交流を促進する	44.9%	38.8%	80.0%
③住居の確保や就労環境を整備する	23.5%	28.7%	20.0%
④多言語による生活情報の提供を充実する	18.4%	26.1%	60.0%
⑤日本語教室を設ける	15.6%	14.9%	20.0%
⑥日本人と同等のサービスを受けられるようにする	27.6%	33.1%	20.0%
⑦人権相談や電話相談を充実する	7.8%	7.5%	-
⑧その他	2.4%	0.4%	-
⑨特になし	11.9%	6.6%	20.0%

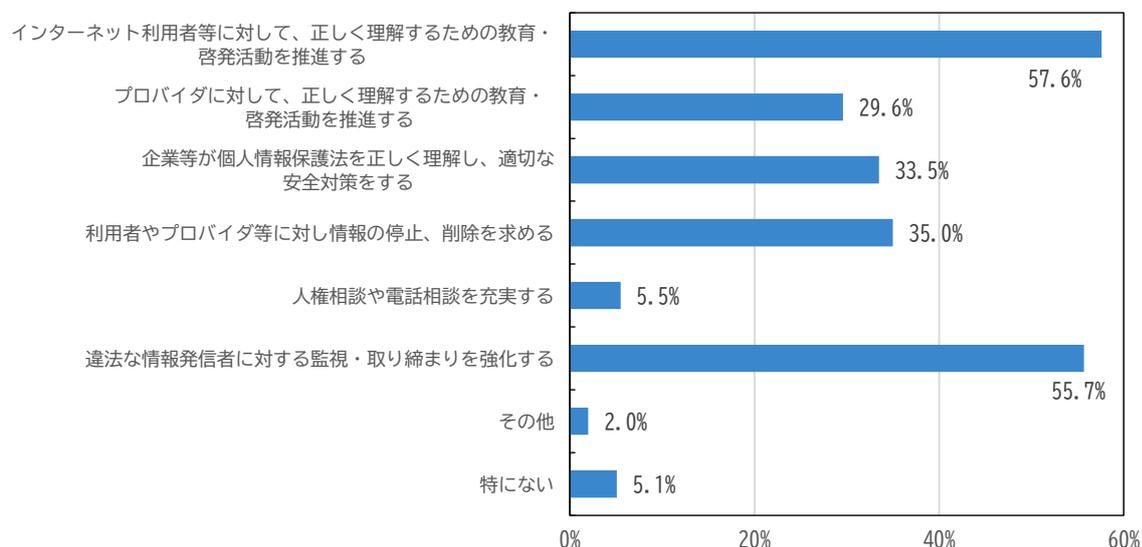
(11) インターネットによる人権侵害について

問 24 あなたは、インターネットによる人権侵害を解決するために特に必要なことはどのようなことだと思いますか。 【〇は3つ以内】

■全体

「インターネット利用者に対して、正しく理解するための教育・啓発活動を推進する」が57.6%と最も高く、次いで「違法な情報発信者に対する監視・取り締まりを強化する」55.7%、「利用者やプロバイダ等に対し情報の停止、削除を求める」35.0%となっている。

カテゴリ	件数	全体	無回答除外
①インターネット利用者等に対して、個人のプライバシーや名誉に関し、正しく理解するための教育・啓発活動を推進する	428	54.4%	57.6%
②プロバイダ（インターネット接続業者）に対して、個人のプライバシーや名誉に関し、正しく理解するための教育・啓発活動を推進する	220	28.0%	29.6%
③企業等が個人情報保護法を正しく理解し、適切な安全対策をする	249	31.6%	33.5%
④利用者やプロバイダ等に対し情報の停止、削除を求める	260	33.0%	35.0%
⑤人権相談や電話相談を充実する	41	5.2%	5.5%
⑥違法な情報発信者に対する監視・取り締まりを強化する	414	52.6%	55.7%
⑦その他	15	1.9%	2.0%
⑧特にない	38	4.8%	5.1%
<無回答>	44	5.6%	
合計	787	100.0%	743



【参考】高知県調査

インターネット利用者やプロバイダ等に対して、個人のプライバシーや名誉に関する正しい理解を深めるための教育・啓発活動を推進する 41.6%、違法な情報発信者に対する監視・取り締まりを強化する 56.5%、利用者やプロバイダ等に対し情報の停止、削除を求める 45.0%

■年代別

年代別で見ると、10歳・20歳代、30歳代、40歳代、70歳以上で「インターネット利用者に対して、個人のプライバシーや名誉に関し、正しく理解するための教育・啓発活動を推進する」、50歳代、60歳代、70歳以上で「違法な情報発信者に対する監視・取り締まりを強化する」が最も高くなっている。

	10歳・ 20歳代	30歳 代	40歳代	50歳代	60歳 代	70歳 以上
合計	45人	75人	104人	110人	160人	247人
①インターネット利用者等に対して、個人のプライバシーや名誉に関し、正しく理解するための教育・啓発活動を推進する	71.1%	64.0%	59.6%	59.1%	53.8%	54.3%
②プロバイダに対して、個人のプライバシーや名誉に関し、正しく理解するための教育・啓発活動を推進する	24.4%	13.3%	35.6%	33.6%	31.9%	30.0%
③企業等が個人情報保護法を正しく理解し、適切な安全対策をする	40.0%	36.0%	32.7%	30.9%	29.4%	35.6%
④利用者やプロバイダ等に対し情報の停止、削除を求める	24.4%	33.3%	36.5%	42.7%	41.3%	28.7%
⑤人権相談や電話相談を充実する	4.4%	4.0%	3.8%	0.9%	6.9%	7.7%
⑥違法な情報発信者に対する監視・取り締まりを強化する	44.4%	54.7%	55.8%	65.5%	55.0%	54.3%
⑦その他	2.2%	4.0%	3.8%	0.9%	3.1%	0.4%
⑧特になし	4.4%	1.3%	2.9%	1.8%	5.0%	8.9%

■性別

男性は「違法な情報発信者に対する監視・取り締まりを強化する」53.8%、女性は「インターネット利用者に対して、個人のプライバシーや名誉に関し、正しく理解するための教育・啓発活動を推進する」60.9%と、それぞれ最も高くなっている。

	男性	女性	回答したくない
合計	288人	448人	5人
①インターネット利用者等に対して、個人のプライバシーや名誉に関し、正しく理解するための教育・啓発活動を推進する	53.1%	60.9%	20.0%
②プロバイダに対して、個人のプライバシーや名誉に関し、正しく理解するための教育・啓発活動を推進する	29.5%	29.5%	60.0%
③企業等が個人情報保護法を正しく理解し、適切な安全対策をする	28.1%	36.8%	40.0%
④利用者やプロバイダ等に対し情報の停止、削除を求める	35.8%	34.2%	60.0%
⑤人権相談や電話相談を充実する	7.6%	4.2%	-
⑥違法な情報発信者に対する監視・取り締まりを強化する	53.8%	57.1%	60.0%
⑦その他	2.8%	1.6%	-
⑧特になし	6.3%	4.2%	-

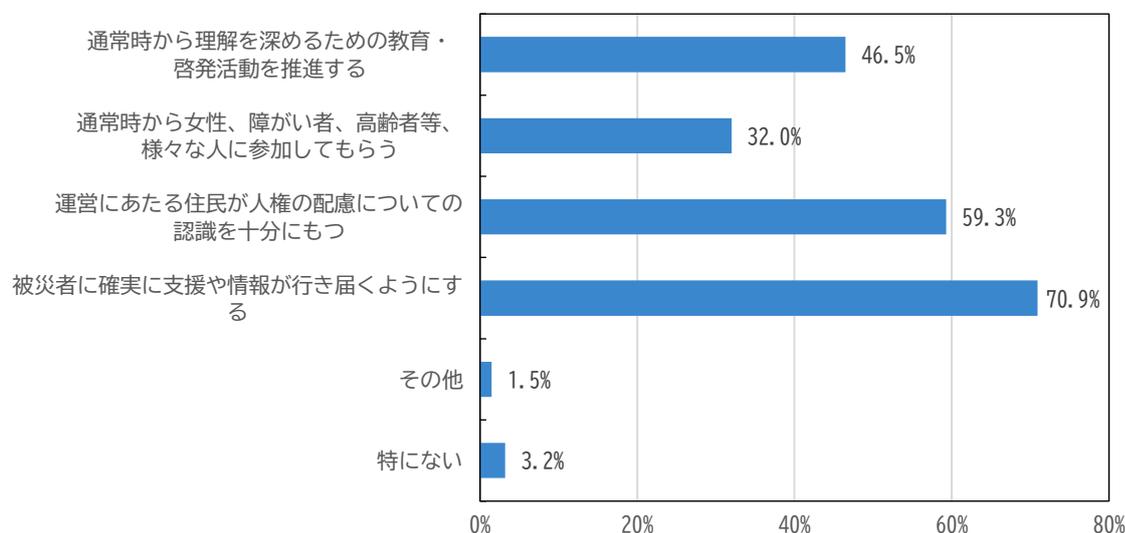
(12) 大規模災害発生時の人権問題について

問 25 あなたは、地震や台風など大規模災害発生時において、人権に配慮するために特に必要なことはどのようなことだと思いますか。 【〇は3つ以内】

■全体

「被災者に確実に支援や情報が行き届くようにする」が70.9%で最も高く、次いで「運営にあたる住民が人権の配慮についての認識を十分にもつ」59.3%、「通常時から理解を深めるための教育・啓発活動を推進する」46.5%となっている。

カテゴリ	件数	全体	無回答除外
①通常時から災害時における人権への配慮についての理解を深めるための教育・啓発活動を推進する	352	44.7%	46.5%
②通常時から自主防災組織等に女性、障がい者、高齢者等、様々な人に参加してもらう	242	30.7%	32.0%
③行政の職員や避難所の運営にあたる住民が災害時における人権の配慮についての認識を十分にもつ	449	57.1%	59.3%
④被災者に確実に支援や情報が行き届くようにする	537	68.2%	70.9%
⑤その他	11	1.4%	1.5%
⑥特にない	24	3.0%	3.2%
<無回答>	30	3.8%	
合計	787	100.0%	757



【参考】高知県調査

被災者に確実に支援や情報が行き届くようにする 36.6%、運営にあたる住民が人権の配慮についての認識を十分にもつ 36.6%、通常時から理解を深めるための教育・啓発活動を推進する 24.6%

■年代別

30歳代は「行政の職員や避難所の運営にあたる住民が災害時における人権の配慮についての認識を十分に持つ」が最も高く、その他の年代では「被災者に確実に支援や情報が行き届くようにする」が最も高くなっている。

	10歳・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
合計	44人	75人	105人	110人	163人	258人
①通常時から災害時における人権への配慮についての理解を深めるための教育・啓発活動を推進する	47.7%	48.0%	43.8%	50.0%	42.9%	48.1%
②通常時から自主防災組織等に女性、障がい者、高齢者等、様々な人に参加してもらう	34.1%	24.0%	30.5%	29.1%	31.9%	35.3%
③行政の職員や避難所の運営にあたる住民が災害時における人権の配慮についての認識を十分にもつ	50.0%	65.3%	50.5%	65.5%	64.4%	57.0%
④被災者に確実に支援や情報が行き届くようにする	68.2%	61.3%	63.8%	75.5%	74.2%	72.9%
⑤その他	-	1.3%	3.8%	1.8%	1.8%	0.4%
⑥特になし	2.3%	2.7%	1.9%	3.6%	2.5%	4.3%

■性別

「被災者に確実に支援や情報が行き届くようにする」がそれぞれで最も高くなっている。

	男性	女性	回答したくない
合計	291人	459人	5人
①通常時から災害時における人権への配慮についての理解を深めるための教育・啓発活動を推進する	47.8%	45.8%	60.0%
②通常時から自主防災組織等に女性、障がい者、高齢者等、様々な人に参加してもらう	31.3%	32.2%	40.0%
③行政の職員や避難所の運営にあたる住民が災害時における人権の配慮についての認識を十分にもつ	54.0%	62.5%	80.0%
④被災者に確実に支援や情報が行き届くようにする	68.7%	72.3%	80.0%
⑤その他	1.4%	1.5%	-
⑥特になし	4.8%	2.2%	-

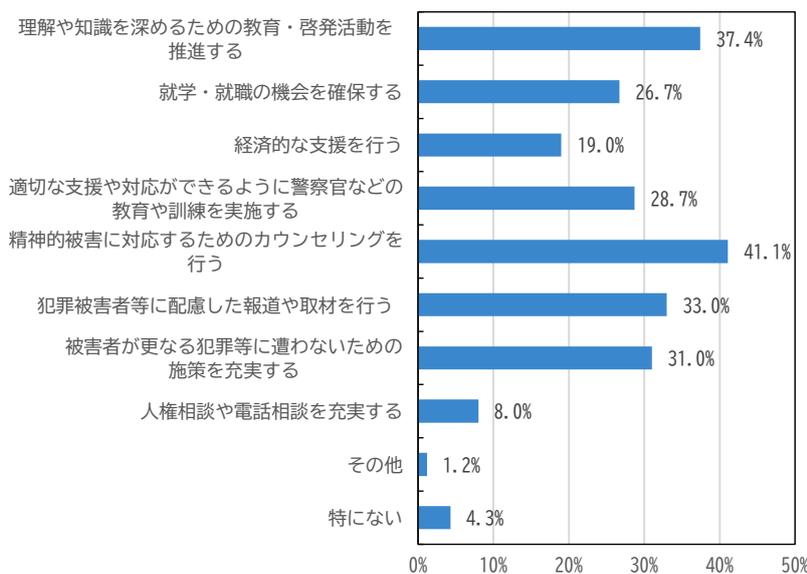
(13) 犯罪被害者等の人権問題について

問 26 あなたは、犯罪被害者等(被害者やその家族・遺族)の人権を守るために特に必要なことはどのようなことだと思いますか。 【○は3つ以内】

■全体

「精神的被害に対応するためのカウンセリングを行う」が41.1%と最も高く、次いで「理解や知識を深めるための教育・啓発活動を推進する」37.4%、「犯罪被害者等に配慮した報道や取材を行う」33.0%となっている。

カテゴリ	件数	全体	無回答除外
①犯罪被害者等に対する理解や知識を深めるための教育・啓発活動を推進する	280	35.6%	37.4%
②就学・就職の機会を確保する	200	25.4%	26.7%
③経済的な支援を行う	142	18.0%	19.0%
④犯罪被害者等の立場に立って適切な支援や対応ができるように警察官などの教育や訓練を実施する	215	27.3%	28.7%
⑤精神的被害に対応するためのカウンセリングを行う	308	39.1%	41.1%
⑥犯罪被害者等に配慮した報道や取材を行う	247	31.4%	33.0%
⑦被害者が更なる犯罪等に遭わないための施策を充実する	232	29.5%	31.0%
⑧人権相談や電話相談を充実する	60	7.6%	8.0%
⑨その他	9	1.1%	1.2%
⑩特にない	32	4.1%	4.3%
<無回答>	38	4.8%	
合計	787	100.0%	749



【参考】高知県調査

精神的被害に対応するためのカウンセリングを行う 33.4%、理解や知識を深めるための教育・啓発活動を推進する 28.8%、犯罪被害者等に配慮した報道や取材を行う 34.5%

■年代別

10歳・20歳代、40歳代、50歳代、60歳代は「精神的被害に対応するためのカウンセリングを行う」、30歳代、60歳代は「犯罪被害者等に配慮した報道や取材を行う」、70歳以上は「犯罪被害者に対する理解や知識を深めるための教育・啓発活動を推進する」が最も高くなっている。

	10歳・ 20歳代	30歳 代	40歳 代	50歳 代	60歳 代	70歳 以上
合計	45人	75人	105人	109人	161人	252人
①犯罪被害者等に対する理解や知識を深めるための教育・啓発活動を推進する	35.6%	26.7%	36.2%	41.3%	33.5%	42.1%
②就学・就職の機会を確保する	28.9%	29.3%	26.7%	21.1%	32.9%	24.2%
③経済的な支援を行う	20.0%	18.7%	20.0%	18.3%	20.5%	17.5%
④犯罪被害者等の立場に立って適切な支援や対応ができるように警察官などの教育や訓練を実施する	17.8%	22.7%	26.7%	27.5%	32.3%	31.7%
⑤精神的被害に対応するためのカウンセリングを行う	51.1%	41.3%	52.4%	48.6%	37.9%	33.3%
⑥犯罪被害者等に配慮した報道や取材を行う	40.0%	46.7%	38.1%	27.5%	37.9%	24.6%
⑦被害者が更なる犯罪等に遭わないための施策を充実する	24.4%	29.3%	22.9%	37.6%	29.8%	33.7%
⑧人権相談や電話相談を充実する	4.4%	4.0%	2.9%	5.5%	7.5%	13.5%
⑨その他	2.2%	2.7%	1.9%	-	1.2%	0.8%
⑩特になし	4.4%	-	1.0%	4.6%	4.3%	6.7%

■性別

男性は「犯罪被害者等に対する理解や知識を深めるための教育・啓発活動を推進する」38.4%、女性は「精神的被害に対応するためのカウンセリングを行う」44.6%と、それぞれ最も高くなっている。

	男性	女性	回答したくない
合計	289人	453人	5人
①犯罪被害者等に対する理解や知識を深めるための教育・啓発活動を推進する	38.4%	36.9%	20.0%
②就学・就職の機会を確保する	27.7%	26.0%	40.0%
③経済的な支援を行う	24.6%	15.7%	-
④犯罪被害者等の立場に立って適切な支援や対応ができるように警察官などの教育や訓練を実施する	30.1%	28.0%	20.0%
⑤精神的被害に対応するためのカウンセリングを行う	35.3%	44.6%	80.0%
⑥犯罪被害者等に配慮した報道や取材を行う	30.8%	34.0%	60.0%
⑦被害者が更なる犯罪等に遭わないための施策を充実する	26.3%	34.0%	20.0%
⑧人権相談や電話相談を充実する	10.0%	6.8%	-
⑨その他	0.7%	1.5%	-
⑩特になし	5.5%	3.3%	-

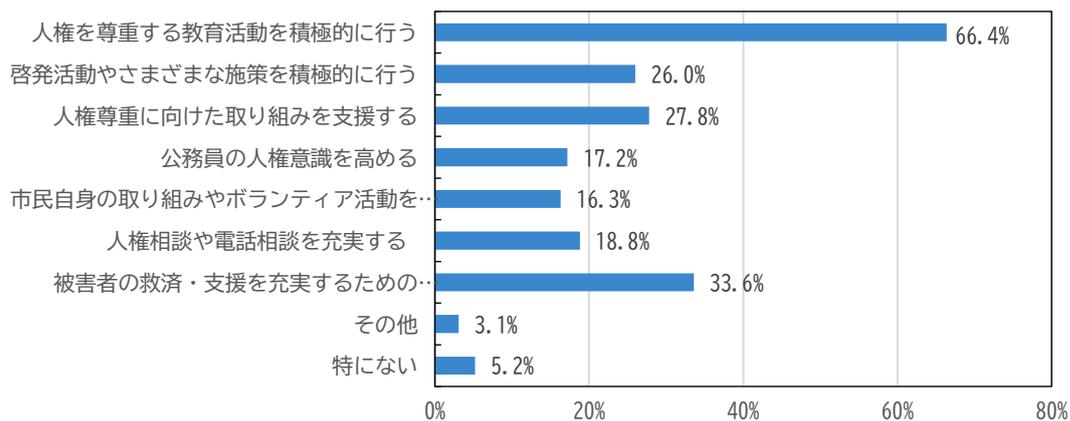
(14) 人権尊重の社会の実現に関することについて

問 27 あなたは、人権が尊重される社会を実現するために特に必要なことはどのようなことだと思いますか。【〇は3つ以内】

■全体

「人権を尊重する教育活動を積極的に行う」が66.4%と最も高く、次いで「被害者の救済・支援を充実するための法整備を促進する」33.6%、「人権尊重に向けた取り組みを支援する」27.8%となっている。

カテゴリ	件数	全体	無回答除外
①学校教育や社会教育を通じて、人権を尊重する教育活動を積極的に行う	497	63.2%	66.4%
②行政が市民の人権意識の高揚に向けた啓発活動やさまざまな施策を積極的に行う	195	24.8%	26.0%
③行政が市民や企業、事業所、NPO等の団体による人権尊重に向けた取り組みを支援する	208	26.4%	27.8%
④公務員の人権意識を高める	129	16.4%	17.2%
⑤市民自身の取り組みやボランティア活動を充実させる	122	15.5%	16.3%
⑥人権が侵害された被害者のための人権相談や電話相談を充実する	141	17.9%	18.8%
⑦人権が侵害された被害者の救済・支援を充実するための法整備を促進する	252	32.0%	33.6%
⑧その他	23	2.9%	3.1%
⑨特にない	39	5.0%	5.2%
<無回答>	38	4.8%	
合計	787	100.0%	749



【参考】高知県調査

学校教育や社会教育を通じて、人権を尊重する教育活動を積極的に行う 63.0%、被害者の救済・支援を充実するための法整備を促進する 29.6%、行政が、県民や企業、事業所、NPO法人等の団体による人権尊重に向けた取り組みを支援する 28.1%

■年代別

各年代において「学校教育や社会教育を通じて、人権を尊重する教育活動を積極的に行う」が最も高くなっている。

	10歳・ 20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳 以上
合計	45人	74人	105人	110人	162人	251人
①学校教育や社会教育を通じて、人権を尊重する教育活動を積極的に行う	64.4%	62.2%	72.4%	64.5%	66.0%	66.5%
②行政が市民の人権意識の高揚に向けた啓発活動やさまざまな施策を積極的に行う	24.4%	18.9%	25.7%	26.4%	25.3%	28.7%
③行政が市民や企業、事業所、NPO等の団体による人権尊重に向けた取り組みを支援する	24.4%	24.3%	24.8%	30.0%	32.1%	26.7%
④公務員の人権意識を高める	8.9%	13.5%	15.2%	13.6%	19.8%	20.7%
⑤市民自身の取り組みやボランティア活動を充実させる	13.3%	20.3%	18.1%	18.2%	12.3%	16.3%
⑥人権が侵害された被害者のための人権相談や電話相談を充実する	17.8%	20.3%	14.3%	17.3%	13.6%	23.9%
⑦人権が侵害された被害者の救済・支援を充実するための法整備を促進する	33.3%	36.5%	28.6%	33.6%	37.7%	32.7%
⑧その他	2.2%	4.1%	6.7%	4.5%	1.9%	1.6%
⑨特になし	4.4%	-	2.9%	4.5%	7.4%	6.8%

■性別

「学校教育や社会教育を通じて、人権を尊重する教育活動を積極的に行う」がそれぞれ最も高くなっている。

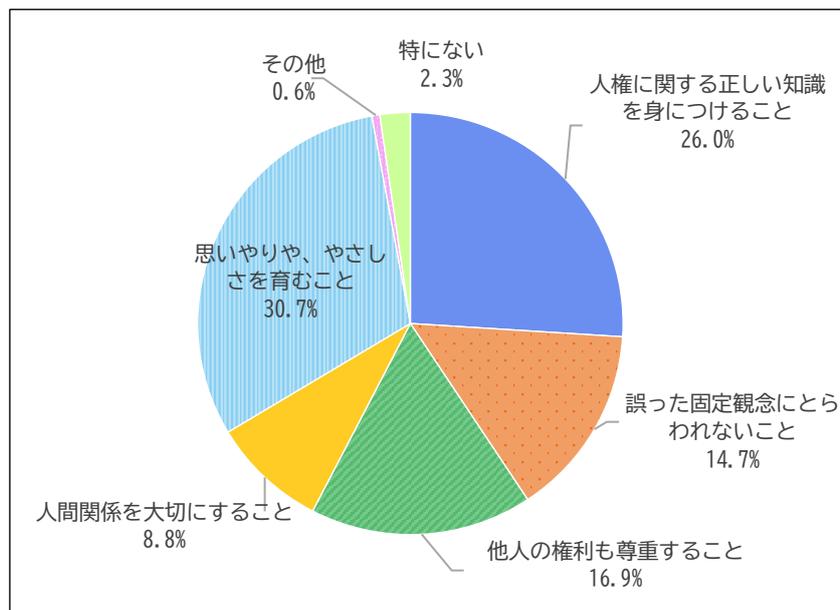
	男性	女性	回答したくない
合計	290人	452人	5人
①学校教育や社会教育を通じて、人権を尊重する教育活動を積極的に行う	63.4%	68.6%	60.0%
②行政が市民の人権意識の高揚に向けた啓発活動やさまざまな施策を積極的に行う	24.8%	27.0%	-
③行政が市民や企業、事業所、NPO等の団体による人権尊重に向けた取り組みを支援する	25.2%	29.6%	20.0%
④公務員の人権意識を高める	21.7%	14.4%	20.0%
⑤市民自身の取り組みやボランティア活動を充実させる	18.3%	14.8%	20.0%
⑥人権が侵害された被害者のための人権相談や電話相談を充実する	19.0%	18.4%	40.0%
⑦人権が侵害された被害者の救済・支援を充実するための法整備を促進する	30.7%	35.6%	40.0%
⑧その他	4.5%	2.2%	-
⑨特になし	6.2%	4.4%	-

問 28 あなたは、人権が尊重されるために、市民一人ひとりが特に心がけたり、大切にすべきことは何だと思えますか。 【1つに○】

■全体

「思いやりや、やさしさを育むこと」が 30.7%と最も高く、次いで「人権に関する正しい知識を身につけること」26.0%、「他人の権利も尊重すること」16.9%となっている。

カテゴリ	件数	全体	無回答除外
①人権に関する正しい知識を身につけること	171	21.7%	26.0%
②非合理的な因習や風習、誤った固定観念にとらわれないこと	97	12.3%	14.7%
③自分の権利とともに、他人の権利も尊重すること	111	14.1%	16.9%
④自分が生活している地域社会やその人間関係を大切にすること	58	7.4%	8.8%
⑤他人に対する思いやりや、やさしさを育むこと	202	25.7%	30.7%
⑥その他	4	0.5%	0.6%
⑦特にない	15	1.9%	2.3%
<無回答>	129	16.4%	
合計	787	100.0%	658



■年代別

70歳以上は「人権に関する知識を身につけること」が最も高く、その他の年代では「他人に対する思いやりや、やさしさを育むこと」が最も高くなっている。

また、10歳・20歳代で「非合理因習や風習、誤った固定概念にとらわれないこと」が22.0%と他の年代に比べ高くなっている。

	10歳・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
合計	41人	66人	98人	99人	137人	216人
①人権に関する正しい知識を身につけること	26.9%	22.8%	23.5%	24.2%	25.6%	29.1%
②非合理的な因習や風習、誤った固定概念にとらわれないこと	22.0%	15.2%	19.4%	13.1%	16.8%	10.6%
③自分の権利とともに、他人の権利も尊重すること	14.6%	10.6%	20.4%	16.2%	16.8%	18.1%
④自分が生活している地域社会やその人間関係を大切にすること	-	13.6%	5.1%	6.1%	5.8%	13.9%
⑤他人に対する思いやりや、やさしさを育むこと	34.1%	34.8%	28.6%	38.4%	31.4%	25.5%
⑥その他	-	1.5%	1.0%	1.0%	0.7%	-
⑦特になし	2.4%	1.5%	2.0%	1.0%	2.9%	2.8%

■性別

「他人に対する思いやりや、やさしさを育むこと」がそれぞれ最も高くなっている。

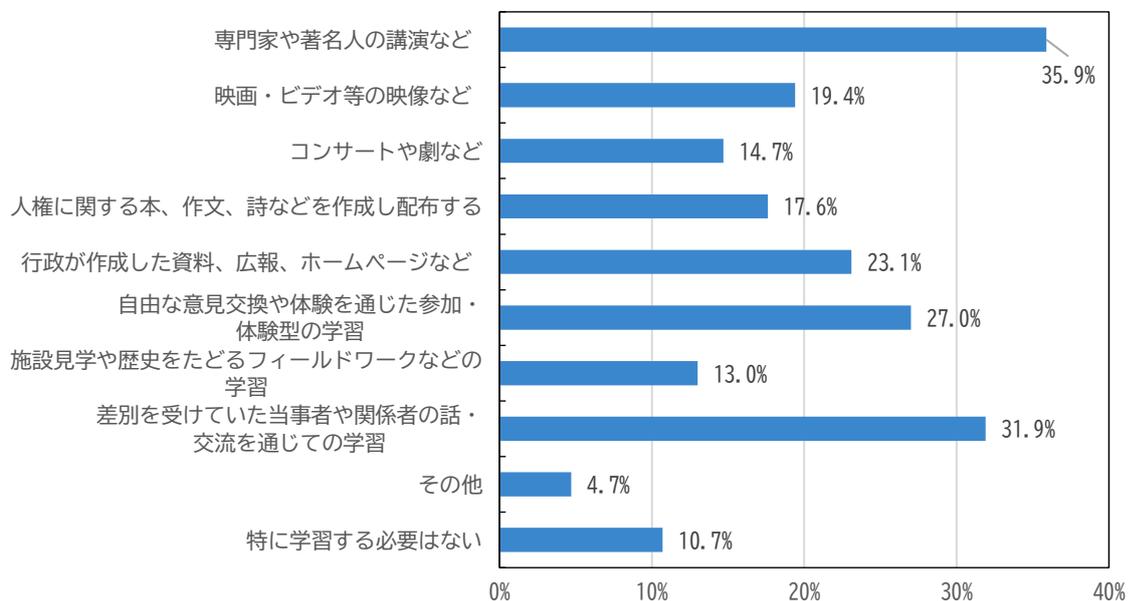
	男性	女性	回答したくない
合計	254人	399人	4人
①人権に関する正しい知識を身につけること	23.3%	28.0%	-
②非合理的な因習や風習、誤った固定概念にとらわれないこと	11.0%	16.3%	75.0%
③自分の権利とともに、他人の権利も尊重すること	20.5%	14.5%	25.0%
④自分が生活している地域社会やその人間関係を大切にすること	9.8%	8.3%	-
⑤他人に対する思いやりや、やさしさを育むこと	31.1%	30.8%	-
⑥その他	1.2%	0.3%	-
⑦特になし	3.1%	1.8%	-

問 29 人権教育・啓発のための取り組みについて、宿毛市に対して望むことはありますか。 【〇はいくつでも】

■全体

「専門家や著名人の講演など」が 35.9%と最も高く、次いで「差別を受けていた当事者や関係者の話・交流を通じての学習」31.9%、「自由な意見交換や体験を通じた参加・体験型の学習」27.0%、「市が作成した資料、広報、ホームページなど」23.1%となっている。

カテゴリ	件数	全体	無回答除外
①専門家や著名人の講演など	251	31.9%	35.9%
②映画・ビデオ等の映像など	136	17.3%	19.4%
③コンサートや劇など	103	13.1%	14.7%
④人権に関する本、作文、詩などを作成し配布する	123	15.6%	17.6%
⑤行政が作成した資料、広報、ホームページなど	162	20.6%	23.1%
⑥参加者同士の自由な意見交換や体験を通じた参加・体験型の学習	189	24.0%	27.0%
⑦施設見学や歴史をたどるフィールドワークなどの学習	91	11.6%	13.0%
⑧差別を受けていた当事者や関係者の話・交流を通じての学習	223	28.3%	31.9%
⑨その他	33	4.2%	4.7%
⑩特に学習する必要はない	75	9.5%	10.7%
<無回答>	87	11.1%	
合計	787	100.0%	700



【参考】高知県調査

講演会や研修 31.5%

インターネットなど 16.5%、掲示物(ポスターや電車バスの車内広告など)11.3%

■年代別

10歳・20歳代で「差別を受けていた当事者や関係者の話・交流を通じての学習」が最も高く、その他の年代で「専門家や著名人の講演など」が最も高くなっている。

	10歳・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
合計	44人	69人	102人	102人	146人	235人
①専門家や著名人の講演など	25.0%	26.1%	44.1%	40.2%	32.9%	37.0%
②映画・ビデオ等の映像など	22.7%	13.0%	17.6%	16.7%	25.3%	18.7%
③コンサートや劇など	25.0%	14.5%	20.6%	17.6%	15.1%	8.9%
④人権に関する本、作文、詩などを作成し配布する	6.8%	13.0%	7.8%	15.7%	21.2%	23.8%
⑤行政が作成した資料、広報、ホームページなど	22.7%	20.3%	14.7%	27.5%	21.2%	27.2%
⑥参加者同士の自由な意見交換や体験を通じた参加・体験型の学習	25.0%	18.8%	32.4%	26.5%	26.0%	28.5%
⑦施設見学や歴史をたどるフィールドワークなどの学習	13.6%	21.7%	17.6%	14.7%	12.3%	8.1%
⑧差別を受けていた当事者や関係者の話・交流を通じての学習	34.1%	21.7%	32.4%	37.3%	32.2%	31.5%
⑨その他	2.3%	11.6%	3.9%	4.9%	5.5%	3.0%
⑩特に学習する必要はない	11.4%	8.7%	8.8%	6.9%	12.3%	12.8%

■性別

性別で見ると、「専門家や著名人の講演など」がそれぞれ最も高くなっている。

	男性	女性	回答したくない
合計	278人	415人	5人
①専門家や著名人の講演など	34.2%	36.6%	60.0%
②映画・ビデオ等の映像など	20.1%	18.8%	20.0%
③コンサートや劇など	11.2%	17.1%	20.0%
④人権に関する本、作文、詩などを作成し配布する	19.1%	16.6%	20.0%
⑤行政が作成した資料、広報、ホームページなど	22.7%	23.1%	60.0%
⑥参加者同士の自由な意見交換や体験を通じた参加・体験型の学習	25.2%	28.4%	-
⑦施設見学や歴史をたどるフィールドワークなどの学習	11.5%	14.2%	-
⑧差別を受けていた当事者や関係者の話・交流を通じての学習	32.7%	31.6%	-
⑨その他	5.8%	4.1%	-
⑩特に学習する必要はない	12.2%	9.9%	-

3 自由記述のまとめ

調査票の最後に設けた自由記述欄に、延べ 87 件の回答をいただきました。記載慣れた内容の趣旨を損なわないように要約し、分類した結果は次のとおりです。

【自由回答の分類】

(1) 人権問題全般に関する意見	27 件
(2) 市(行政)への要望に関する意見	15 件
(3) 同和問題に関する意見	6 件
(4) 子どもに関する意見	6 件
(5) 障害者に関する意見	3 件
(6) 高齢者に関する意見	2 件
(7) 女性に関する意見	2 件
(8) LGBTQ(性の多様性)に関する意見	2 件
(9) その他の意見	24 件

(1) 人権全般に関する意見

- ・ 市民一人ひとりの人権意識を高めなければならない。仲間意識を高め活動を高めること、共に助け合い、かばい合う（よい意味での）と言う道徳的意識の向上であると思う。(70 歳以上)
- ・ 人権はハンディキャップや弱者だけではなく普通に生活している人たちにも関係すること。人権問題は、特別なことという意識を変えていくことが第 1 歩だと思う。みんなが幸せを感じるための市制方針の軌軸の 1 つに、人権を尊ぶことを掲げることは市民の希望につながるよう、明るい未来への一歩になればいいなと思います。(40 歳代)
- ・ 自己中心的でなく、周りの人々との関り、尊重、等。人を思いやる事の出来る様な教育、家庭環境が構築できる事を望みます。人との触れ合いが出来るイベント、講演等の開催。(50 歳代)
- ・ 日々の生活で人権という言葉はなかなか頭に入ってこないため、ネットや広報等でもっと人権に関する事を発信してほしいと思う。(40 歳代)
- ・ 講演会やイベント→広報、学校、オフィスなどへのフィードバック、繰り返し行うこと。(40 歳代)
- ・ あまり同和同和と人権を広めるとかえって差別ではないでしょうか。忘れさられ問題視しない時代が来ればいいと思います。私達の小さい頃にくらべ親子の感情がうすれ、いじめ、差別はふえたように思います。やはり小さい時からの教育・道徳に力を入れて思いやりを持たせ育てあげ一人(大人)を育てる事と思います。(50 歳代)
- ・ 子どもの頃の柔軟な頭を持つ時に、正しい知識を教えてほしいです。(50 歳代)

- ・ 障がいのある方の作業所や働くカフェ等、頑張っている場所を作ってくださいる方々がいて、とてもありがたいし、良い事だと思います。同性パートナーシップ制度を、宿毛市も取り入れてはどうか？宿毛は田舎ですが、人権に対して解放的で、話せば通じる人も多いように感じます。最後に、このような機会をありがとうございます。(40 歳代)
- ・ 人権教育・啓発の取り組みに、当自者等との意見交流会の場を用いる。(60 歳代)

(2) 市(行政)への要望に関する意見

- ・ 会やイベントに向けての日時、交通機関等配慮されたいと思う。(例えば)「はなちゃんバス」のように、市をあげての大切な講演会には、少し広い範囲からでも集客の案等があれば非常に素晴らしい。(70 歳代)
- ・ 宿毛市がどんな事をしているかも知らない、どんな事をしてくれるか期待もしていない、できないと思っている、お金もないし…。(30 歳代)
- ・ 一人ひとりが人間としてどう接するべきか、一人ひとりが相手の立場になった時どう思うのか一人ひとりがマナーを守る努力をしていく。等々、日々、考えていけるようにしたら良いと思う。(50 歳代)
- ・ 本当に困っている人に、支援が届く公正な行政のあり方を望みます。福祉の施策の内容など分かりやすい表現、言葉での啓蒙をお願いします。(70 歳以上)
- ・ 公務員の一人ひとりの人権意識を高めて差別的な事がらが発生した時、きちんと対応出来る人であってほしい。差別される者への教育も大事でしょうがもう少し力を入れて差別をしている立場の人達への教育に力を入れてもらいたい。人の心の中に自分に気がない差別意識のあることに気づく教育をしてほしいです。(70 歳以上)

(3) 同和問題に関する意見

- ・ 都会から来ましたが、家族・親族を大切にあまり、かたまり、他を排斥する傾向にあり。それが今だに同和(部落差別…部落がどのような成り立ちか解かりませんが…)問題がある一つではとったりするのですが。(70 歳以上)
- ・ 部落差別を講演会やイベントで広めて差別をなくする様に努めていく事だと思います。(60 歳代)
- ・ 同和や人権等自分が子どもの頃から学校等で学んで来ました。私自身は騒ぎすぎだと思っています。(60 歳代)
- ・ 同和問題 名字を変えられたらいいですね、困っている人は。(30 歳代)

- ・ 同和問題については、私（77才）の若い時代よりもはるかにうすれていると思う。取り上げる事なくそっとしておけば自然になくなるのではないのでしょうか。（70歳以上）
- ・ 人権については考える事はなかったけど自分に子どもが産まれてからは考えるようになった。特に同和についてはなくしてほしいと思う。今はネットとかもあって大変な時代だと思う。（50歳代）

（4）子どもに関する意見

- ・ 保育園で人権週間のワッペン作りは、負担が大きかった。子どもたちが作った物にしたらいいと思っていました。学校での人権参観日や講演会はとても良い話がきけるので良いと思う。もっと保護者が興味を持ってくれれば良いといつも思っていました。（40歳代）
- ・ 子どもが小さい頃頼る人がおらず預ける人がいなかったの妻は子どもが大きくなるまで働く事ができませんでした。就職の面接に行っても「もう子どもを産む予定はありませんか？」と聞かれたり「子どもが具合が悪くなったからと、休まれると迷惑です」と言われ嫌な思いを沢山してきました。私も妻も宿毛市が地元ではないし、親は離れていたり他界しているので、子どもが小さい時には、デイケアサービスがあればと何度も話しをしたり要望を出したりしていました。子どもも今は大きくなりましたが今から子育てをする方宿毛に移住する人の為にも子どものデイケアサービスが出来ればと思います。（50歳代）
- ・ 子どもたちを守るため見守りの強化と学童保育の充実を図り、健やかに成長できるような取り組みを実施してほしい（40歳代）
- ・ 親の考え方がどうしても子どもに伝わっていきます。一番は子どもへの教育だと思います。（60歳代）
- ・ 子どものレジャー施設が少なすぎます。大きな公園 町並に花壇が少ない（60歳代）
- ・ 子どもが自由に遊べる場所が少ない。公園はあっても遊具が無かったり草だらけ。雨天時は特に子どもを連れて行ける所が、遠方にしかない。（30歳代）

(5) 障害者問題に関する意見

- ・ 私は精神障がい者ですが、発症する25年前は、かなり肩のせまい思いをしてきましたが、少しずつ、差別や偏見は減ってきている気はします。でも、障がいをかくしている人は沢山います。これが現実です。でも一生付き合っていく病気なので、理解して貰えたらうれしい。何時でも相談にのってくれるところが必要です。差別や偏見は0に近づけていく事は可能と思うので、行政には頑張ってもらいたいです。(50歳代)

(6) 高齢者問題に関する意見

- ・ 特になし 高老者にはむずかしいです。(70歳代以上)
- ・ 高齢者、障がい者の足としても、市バス「はなちゃんバス」が、市全体どこでも利用できるようにしてほしい。病院、買い物などで毎回ハイヤー、タクシーを利用すると経済的に負担が大きく、大変困っている。(女性 60歳代)

(7) 女性に関する意見

- ・ 女性が働きながら家事・育事等を両立するのには、365日、24時間託児できる施設があればと思う。土・日・祝や夜間、長期の休日など、病児も受け入れられる所があれば理想的。(10歳・20歳代)
- ・ 今いる会社の考え方が「女性社員はあまりいらぬ。すぐに結婚したり、子どもを産んだりして休むから」という考え方です。なので、とてもつらいです。育休あけの女性社員さんが、社長に「もう作らないでね。忙しくなるから。」と言われている現場も見たことがあります。男女平等といいながらも、これが現実です。女性の社会進出のため、改善されたらなと思います。(10歳・20歳代)

(8) LGBTQ(性の多様性)に関する意見

- ・ L G B T Q 誰と誰でも結婚できるようになったらいいですね。講演会やイベントよりも電話相談を充実させてほしい(30歳代)

(9) その他

- ・ (気軽に) 法律的な事などを相談できる機会や機関をつくって欲しい。(30歳代)
- ・ 誰もが住みやすく、やさしい町作りを望みます。(50歳代)

- ・ 沖の島や鵜東島等に対する介護施設又は、訪問サービス（ヘルパー等）ができるよう取組んで頂きたいです。（50 歳代）
- ・ 移住者なので宿毛市の事情がわからない。（40 歳代）
- ・ 閉園になっている保育園など上手く再利用して場所を提供してほしい。（30 歳代）
- ・ 人に対して許してあげられる人になりたい。（60 歳代）

Ⅲ 調査結果の分析と考察

Ⅲ 調査結果の分析と考察

1 人権課題への関心と啓発

(1) 各人権課題への関心度

「関心のある人権課題」(問 4)では、「障がい者」への関心が最も高く46.0%、次いで「高齢者」が43.5%、「インターネットによる人権侵害」が35.1%、そして僅差で「子ども」が33.8%とそれぞれに高い関心が寄せられている。障がい者及び高齢者に対する関心度は「身近にいる生きづらさ等を抱えた方」(問 6)の上位2位と同じであり比較的身近にある人権課題に関心を寄せていることがわかる。

また同設問の回答を割合の多かった順に並べると、近年メディアに頻繁に取り上げられることの多い課題が上位に集まり、メディアを通じて人権課題への関心が高まっていることがわかる。

なお、前回調査で「同和問題」を選んだ割合は被差別部落内で92.7%、被差別部落外で53.4%と高かったが(※)、本調査では18.8%と著しく低下した。

同和問題については従来から取り組まれてきた人権課題であるが、以前からメディアでタブー視される傾向にあるため、自然に情報が入りづらく関心を持ちづらい点はあるものの、2016年(平成28年)12月に部落差別解消推進法が制定・施行されたことを合わせて考えるとこの数値の低下は危機感を持って対応しなければならない。

※ 被差別部落内に対する調査は平成5年に総務庁が実施し、被差別部落外に向けた調査については平成6年に本市が独自に実施した。

(2) 無関心層への啓発

「関心のある人権課題」(問4)で「(関心のある人権課題が)特にない」と答えた割合が16.2%となっている点にも注目しなければならない。これは年代別に見てもほぼ大差がなく、あらゆる年代で一定数人権課題に無関心な層が存在していることを示している。

また、各人権課題の解決方策を問う設問では年代別傾向としては年代が高くなるごとに「分からない」を選択する割合が高くなっており、総じて関心のない人権課題に対しては解決の方策に「特にない」を選ぶ傾向があったことから、無関心層に向けた更なる人権課題への関心の喚起・高揚の為の教育・啓発活動が求められる。

2 宿毛市民の人権意識の分析と課題

(1) 人権に対する考え方

「人権や差別についての考え」(問8)を見ると「差別は人間として恥ずべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しないような人にならなければいけない」75.6%、「差別問題に無関心な人にも、差別問題について理解してもらうことが必要だ」38.8%と人権尊重や人権課題の解消に対して前向きな回答を選んでいる。

また、「差別はされる側に問題がある」2.4%、「差別に対して抗議や反対をすることによってかえって問題が解決しづらくなる」6.2%といった否定派の意見は一定数見られるものの非常に少なく、これは市民の人権意識が高いことを示している。

しかし人権意識の高さが感じられる一方で、各問の、自由記載欄「その他(具体的に)」欄に被差別側に対する辛辣な意見や強い差別意識のある書き込みも一定数見られ、今後は潜在化する差別意識の克服も求められる。

(2) 人権意識の底上げ

「人権や差別についての考え」(問 8)で 27.0%の人が「どのような手段を講じても、差別を完全になくすことは無理だ」と回答している。同設問で「差別は人間として恥ずべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しないような人にならなければいけない」75.6%、「差別問題に関心な人にも、差別問題について理解してもらう必要がある」38.8%の前向きな回答の多さと合わせて考えると、差別は無くしていかななくてはいけないもので、無関心な人にもっと理解を求めるべきだという考えを持ちながらも、現実的には差別を完全になくすことが不可能ではないかと考える層が存在していることがわかる。またこのような考え方を持つこの層に効果的に啓発し、市民の人権意識の底上げが今後の課題と言える。

(3) 性別による人権侵害の内容の違い

「人権侵害の内容」(問 5-1)を見ると全体では「あらぬうわさ、他人からの悪口、かげ口を言われた」が 50.9%と最も多く、「仲間外れや無視をされた」37.1%、「名誉や信用を傷つけられたり、侮辱を受けた」と「セクシャル・ハラスメントなどのハラスメントを受けた」がそれぞれ 27.5%と続いている。

注目したいのはこの設問の調査結果を男女で分けた時に、「名誉や信用を傷つけられたり、侮辱を受けた」では男性が女性を 17.1%上回り、「差別待遇(人種・信条・性別・社会的身分により不利益な扱い)を受けた」では同じく男性が女性を 14.2%上回った。一方で「セクシャル・ハラスメント、パワー・ハラスメントなどのハラスメントを受けた」では女性が男性の回答を 20.6%上回る結果となっている。「名誉や信用を傷つけられたり、侮辱を受けた」と「差別待遇」についてはパート職員や短時間労働の就業形態も多い女性に比べ、長年の社内での軋轢や、出世・昇進などに関わる職場での待遇において男性の方が人権の侵害を感じる機会が多いものと推測され、「ハラスメント」に関しては男性からの女性蔑視が未だに根強く残っている事が反映されていると言える。近年は全国的に男女機会均等の理念が積極的に推進されているが、性別役割分担意識等による女性蔑視は早急に解消されなければならない問題であると言える。

3 人権課題への対応

(1) 身近に感じられやすい人権課題の対応

「障がい者」、「高齢者」の人権問題が最も身近に感じられやすい問題であることは「1 人権課題への関心と啓発」でもふれたが、市民の高い関心が寄せられる人権課題への公的機関等に求められる対応は以下のとおりである。

人権課題に対する市民の指摘や要望は多岐にわたっており、積極的な取り組みが必要である。とりわけ、インターネットによる人権侵害はSNSの急速な浸透に伴う人権問題としてどの年代層でも関心が高まっている。インターネットはその性質上、一度書き込んだ情報を完全に消し去ることが難しく、被害からの回復が難しい。学校等と協力し低年齢からインターネットの利用に関する正しい知識を身に付け、マナーを守った安全な利用を促すことが重要であることはもちろん、利用者の心に潜む偏見や差別意識の払拭とそのような偏見や差別を生じさせない啓発と教育が求められる。

▶ 各人権課題解決に向け求められる方策

○障がい者

- ・道路や交通機関、建物等のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化等
- ・就労支援や働く場の確保
- ・在宅サービスや福祉施設・医療機関等の施設の充実
- ・少ない負担で自由に移動できる交通手段の整備

○高齢者

- ・少ない負担で自由に移動できる交通手段の整備
- ・在宅サービスや福祉施設・医療機関等の施設の充実
- ・高齢者を地域で支える仕組みの整備
- ・道路や交通機関、建物等のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化等

○インターネットによる人権侵害

- ・インターネット利用者に対して、個人のプライバシーや名誉に関し、正しく理解するための教育・啓発活動の推進
- ・違法な情報発信者に対する監視・取り締まりの強化
- ・利用者やプロバイダに対する情報の停止、削除要請
- ・企業等による個人情報保護法を正しく理解した適切な安全対策

○子ども

- ・家庭、学校、地域が協力して子どもを見守る体制作り
- ・家庭内での信頼関係の構築
- ・教職員の人間性、資質向上
- ・いじめの防止

(2) 市民の関心が比較的低い人権課題への対応

「ハンセン病元患者等」、「外国人(居住や労働での差別)」、「犯罪被害者等」、「HIV 感染者等」、「LGBTQ(性の多様性)」、「大規模災害発生時の人権問題」など市民の関心が比較的低い人権課題について、市民の人権意識を高めるためにはまずは「関心がない」「分からない」段階から「少しは内容を知っている」という状態に近づける取り組みをしなければならない。そして次の段階では普段の生活で馴染みのない人権課題でも、自分の生活とのかかわりを推考できるような啓発が求められる。

▶ 各人権課題解決に向け求められる方策

○ハンセン病元患者等

- ・ハンセン病の正しい情報の提供や理解を深める教育・啓発活動の推進

○外国人(居住や労働での差別)

- ・異文化に対する理解や尊重に向けた教育・啓発活動の推進

○犯罪被害者等

- ・精神的被害者に関するカウンセリング

○HIV 感染者等

- ・感染者等についての正しい情報の提供や理解を深める教育・啓発活動の推進

○LGBTQ（性の多様性）

- ・LGBTQ についての正しい情報の提供や理解を深める教育・啓発活動の推進

○大規模災害発生時の人権問題

- ・被災者に確実に支援や情報が行き届くようにする

4 同和問題への理解・認識の深化

(1) 同和教育の成果

前回調査では、「同和問題を知ったきっかけ」（問 15）と同じく、被差別部落を認知した方法についての設問があり、今回調査と比較してみたい。

前回調査では平成 6 年度の被差別部落内の調査では「部落について知ったきっかけ」の質問で最も多かった回答は「家族・親戚」の 44.9%で、「学校の授業」は 3.7%と非常に少なかった。同じく被差別部落外でも最も多かった回答は「家族・親戚」で 33.0%、「学校の授業」は 22.9%と部落内外共に、家族・親戚から知った場合が最も多く、学校の授業は被差別部落内と外で大きな差があり、被差別部落外のみ家族・親戚に迫る割合となっていた（※）。

本調査では、同設問に対し最も多かった回答は「学校の授業で教わった」48.7%、次いで「家族・親戚から聞いた」24.8%となっている。年代別で見ても 50 歳代以下の全ての世代で 70%代から 80%代の非常に高い割合で学校の授業によって同和問題を知っており、学校現場での同和問題に対する取り組みが伺える。

※ 被差別部落内に対する調査は平成5年に総務庁が実施し、被差別部落外に向けた調査については平成6年に本市が独自に実施した。

(2) 同和教育の課題

学校現場での同和問題に対する取り組みが伺える反面、「家族・親戚から（同和問題を）聞いた」割合の低下は家庭内や親戚間で部落差別について語られる機会が少なくなっていることを表している。同和問題を知るきっかけが家庭から学校の授業に比重を移していることから、学校の授業は、一人ひとりの被差別部落に対する意識に大きく影響を及ぼすものとなっていることがわかる。

このことから質の高い学習内容と十分な学習時間の確保が同和問題への理解と認識の深化に必要とされるが、注目すべきは、「同和問題について知っていますか」（問 14）で「知っている」と答えた人が 92.9%また 10 歳・20 歳代では 82.2%が「知っている」と答えている。

しかし「同和問題を解決するために必要な方策」（問 19）で『「同和地区」のことなど口に出さず、そっとしておけば部落差別は自然になくなる』を選択した 10 歳・20 歳代の割合は全世代の中で最も多い 35.1%となっている。これは近年の学校現場での同和教育が、単に知識としての教育に留まっており、部落差別のおかしさや憤りを感じさせ、同和問題への理解を啓発につなげるまでには至っていないと言えるのではないだろうか。近年の学校現場では同和学习に充てられる時間は非常に限られており、生徒への啓発は伝える側の教員の資質に大きく依存している状況にある。同和問題への理解と認識の深化には、

さらなる教育の質の向上が求められる。

また、この回答を選択した全体の割合は 28.2%で平成 29 年度全国調査(内閣府実施「人権擁護に関する世論調査」)の 19.2%を大きく上回っている。実に意識調査協力者の 4 人に 1 人以上がいわゆる「寝た子を起こすな」の考えを持っているという状況は当然看過できない。

一方「交流機会を増やし、相互の理解を深める」を選んだ推進派も 26.4%と同数程度存在はしているが、自由記載欄には同和地区が税金面での優遇を受けているとしての偏見から、同和地区(出身者)への強い不満や、差別的な内容の書き込みが少なからずあることから、統計の数字には出てこない根深い偏見や差別的な意見を持つ層が一定数存在することを踏まえ、今後の政策を思案しなければならない。

まとめ

人権問題は一般的に固く難しいイメージを持たれることが多く、気軽に学びづらい風潮がある。そのような印象を払拭するべく、わかりやすさ、伝わりやすさを心がけた啓発活動を行うが、その効果は日頃から人権問題に携わる人を中心に限られた狭い範囲にしか波及せず、人権問題を広く市民に呼びかけ、改めて人権と差別について考えてもらう機会を設けることは容易なことではない。

今回、調査を行った結果、「人権について改めて考える良い機会になった」との記述が複数あり、人権課題に関心の薄かった人たちに意識調査を通じて啓発ができたことはデータ収集以上の意義を感じる喜ばしいことである。

先にも触れたが本調査の返信率の高さやその内容から、宿毛市民の基本的な人権意識が高い水準にあることが伺える。また「人権が尊重される社会の実現」(問 27)では 66.4%の人が「学校教育や社会教育を通じて、人権を尊重する教育活動を積極的に行う」を選んでいることから積極的な人権教育が求められていることが分かる。これを実現するためには、子どもの頃からの系統立てた人権学習による差別をしない心や人権の大切さを教える取り組みを継続していくことが重要となり、また人権学習を受ける側だけでなく発信する側としての意識も同時に育てていくべきと考える。

今回の意識調査で人権推進に前向きな回答が高い割合で見られる一方、自由記載欄「その他(具体的に)」への書き込みには、被差別側に対する偏見や根深い差別意識のある書き込みが一定数見られた。これらの書き込みをただの辛辣な一部の意見として軽視するのではなく、また、本調査に 1,000 人以上の市民回答しなかった結果を宿毛市の現実として受け止め、市政のあらゆる分野において、人権尊重の観点からの施策を意識し推進しなければならない。

同時に「1 人権課題への関心と啓発」の(2)で触れた無関心層に向けての啓発も必要である。この層へ啓発は最も届けづらく成果の出づらいものであるため、従来の統一的な啓発方法から年代別にアプローチの仕方を変えるなど、それぞれの生活様式や趣味嗜好に寄り添う啓発方法を打ち出し、まずはあらゆる人権課題に対して関心、興味を持ってもらえるような施策を行わなければならない。

また、「人権教育・啓発のために市に望むこと」(問 29)では「専門家や著名人の講演」35.9%、「差別を受けていた当事者や関係者の話・交流を通じての学習」31.9%、「参加者同士の自由な意見交換や体験を通じた参加・体験型の学習」27.0%と続いており、気軽に学べる機会だけでなく、多様な学習方法の提供を検討する必要がある。

そのほか、相談窓口の周知と活用の推進も課題の一つである。「人権侵害を受けた時の対応」(問 5-2)では「公的機関に相談した」を選んだ人がわずか 9.5%だった。各機関での相談窓口は整備され、告知されているものの利用状況は少ない。相談窓口の周知や情報提供をさらに積極的に行う事も大切であるが、デリケートな問題が多いことから相談者が対面や電話での相談を敬遠している可能性を考え、今後はメールなどでの相談対応なども視野に入れ、その後電話や対面での相談につなげるといった相談の敷居を下げる努力も必要ではないだろうか。

一人ひとりの人権が尊重される社会の実現は一人ひとりの意見に耳を傾けることから始まる事を市職員は肝に銘じ、市民にとってわかりやすい啓発活動や各種人権相談時の思いやりを持った素早い対応を心がけ、本調査結果を根拠とした政策を打ち出し、今後の市政に反映させなければならない。

(分析 特定非営利活動法人 じんけんネットすくも)

IV 資料

IV 資料

1 設問間クロス集計分析

(1) 問 5-1×問 5-2

(数値:件数)

			どのようなことで人権が侵害されたと思われましたか (5-1)												
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
人権侵害されたと思った時どうされましたか(5-2)	1	全体	42	32	22	16	17	2	6	26	9	5	4	5	186
		男性	8	6	7	6	2	1	1	3	2	0	1	0	37
		女性	33	25	15	9	13	1	5	22	6	5	3	5	142
	2	全体	26	23	16	8	17	4	8	20	6	4	4	4	140
		男性	6	5	6	4	7	3	2	2	2	0	1	0	38
		女性	20	18	10	4	10	1	6	18	4	4	3	4	102
	3	全体	3	3	3	4	2	1	3	5	6	4	1	1	36
		男性	1	1	1	2	1	1	1	2	1	0	1	1	13
		女性	1	2	2	2	0	0	2	3	4	4	0	0	20
	4	全体	12	13	12	4	3	2	3	8	5	1	0	3	66
		男性	4	5	5	3	2	1	2	1	2	0	0	0	25
		女性	8	8	7	1	1	1	1	7	3	1	0	3	41
	5	全体	35	22	16	10	10	0	8	16	7	1	3	3	131
		男性	13	8	10	5	3	0	2	3	2	0	2	0	48
		女性	21	13	5	4	6	0	6	12	5	1	1	3	77
	6	全体	6	4	2	6	4	1	3	7	5	1	3	3	45
		男性	3	2	2	3	3	0	1	3	2	0	1	2	22
		女性	3	2	0	3	1	1	2	4	3	1	2	1	23
	合計	全体	124	97	71	48	53	10	31	82	38	16	15	19	604
		男性	35	27	31	23	18	6	9	14	11	0	6	3	183
		女性	86	68	39	23	31	4	22	66	25	16	9	16	405

※ 割合が最も高い =

問 5-1 選択肢
1. うわさ、悪口等を言われた
2. 仲間はずれや無視
3. 名誉や信用を傷つけられたり、侮辱を受けた
4. 差別待遇を受けた
5. 職場での不当な待遇
6. 官公署や医療機関などでの不当な扱い
7. プライバシーの侵害
8. セクハラ、パワハラを受けた
9. 脅迫・虐待等をされた
10. ストーカー的行為をされた
11. 悪臭・騒音等の公害
12. その他

問 5-2 選択肢
1. 友人、知人に相談
2. 家族に相談
3. 公的機関に相談
4. 直接相手に伝えた
5. 何もしなかった
6. その他

(2) 問 6×問 8

(数値:件数)

			親しくしている人の中に、次のようなひとはいますか (6)								
			1	2	3	4	5	6	7	8	合計
人権や差別について、どのような考え方をもちますか(8)	1	全体	213	222	138	1	0	12	28	5	619
		男性	76	77	51	1	0	3	13	2	223
		女性	134	144	86	0	0	9	15	3	391
	2	全体	136	137	84	0	0	8	14	4	383
		男性	46	45	35	0	0	2	4	1	133
		女性	88	92	48	0	0	6	10	3	247
	3	全体	7	9	10	0	0	0	1	0	27
		男性	1	4	5	0	0	0	1	0	11
		女性	6	5	5	0	0	0	0	0	16
	4	全体	91	102	53	0	0	7	15	2	270
		男性	33	35	23	0	0	0	9	0	100
		女性	57	67	30	0	0	7	6	2	169
	5	全体	79	69	43	0	0	5	13	1	210
		男性	32	30	23	0		0	1	7	93
		女性	44	39	20	0	0	4	6	1	114
	6	全体	19	19	17	0	0	1	7	1	64
		男性	8	8	6	0	0	0	5	0	27
		女性	11	11	11	0	0	1	2	1	37
	7	全体	98	92	69	1	0	5	19	5	289
		男性	40	40	36	1	0	1	14	3	135
		女性	57	52	33	0	0	4	5	2	153
	合計	全体	643	650	414	2	0	38	97	18	1862
		男性	236	239	179	2	0	6	47	13	722
		女性	397	410	233	0	0	31	44	12	1127

※ 割合が最も高い = 

問 6 選択肢

1. 障がい者
2. 介護を必要とする人
3. 同和地区出身者
4. HIV 感染者等
5. ハンセン病元患者等
6. LGBTQ
7. 外国人
8. 犯罪被害者等

問 8 選択肢

1. 差別しないような人にならなければならない
2. 無関心な人にも理解してもらうことが必要
3. 差別される側に問題がある
4. 行政の努力が必要
5. 差別を完全になくすことは無理だ
6. 抗議や反対をすることによりかえって問題が解決しづらくなる
7. 他人の迷惑を考えない人が増えた

(3) 問 15×問 17

(数値:件数)

			同和地区について初めて知ったきっかけはなんですか (15)											合計
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
す か (17)	1	全体	72	9	4	9	80	5	4	0	6	19	3	211
		男性	31	2	4	4	31	3	3	0	4	11	0	93
		女性	41	7	0	5	47	2	1	0	2	8	3	116
	2	全体	97	10	6	18	249	12	19	0	12	36	6	465
		男性	36	6	4	8	82	3	7	0	6	16	2	170
		女性	61	4	2	9	164	8	12	0	6	20	4	290
	合計	全体	169	19	10	27	329	17	23	0	18	55	9	676
		男性	67	8	8	12	113	6	10	0	10	27	2	263
		女性	102	11	2	14	211	10	13	0	8	28	7	406

※ 割合が最も高い =

問 15 選択肢
1. 家族、親せきから聞いた
2. 近所の人から聞いた
3. 職場の人から聞いた
4. 学校の友達から聞いた
5. 学校の授業で教わった
6. 講演会や研修会
7. ラジオ、テレビ、新聞、本等
8. インターネット
9. 県や市町村の広報誌や冊子等
10. 覚えていない
11. その他

問 17 選択肢
1. ある
2. ない

(4) 問 16×問 17-1

(数値:件数)

			同和地区はどのようにしてできたとお考えですか (16)							合計
			1	2	3	4	5	6	7	
同和地区について、どのような時に意識しますか (17-1)	1	全体	3	89	4	1	8	0	18	123
		男性	3	38	0	0	3	0	5	49
		女性	0	50	4	1	5	0	13	73
	2	全体	2	34	3	1	1	0	5	46
		男性	2	15	1	0	1	0	1	20
		女性	0	19	2	1	0	0	4	26
	3	全体	2	24	0	0	3	0	3	32
		男性	2	10	0	0	2	0	1	15
		女性	0	14	0	0	1	0	2	17
	4	全体	1	15	3	0	1	0	5	25
		男性	1	3	1	0	0	0	2	7
		女性	0	11	2	0	1	0	3	17
	5	全体	1	32	1	0	0	1	3	38
		男性	1	14	0	0	0	1	2	18
		女性	0	18	1	0	0	0	1	20
	合計	全体	9	194	11	2	13	1	34	264
		男性	9	80	2	0	6	1	11	109
		女性	0	112	9	2	7	0	23	153

※ 割合が最も高い =

16 選択肢
1. 貧しい人たちが集まってできた
2. その時代の権力者が民衆を支配するために作った。
3. 人の嫌がる仕事をする人たちが集まってできた。
4. 同じ宗教の人が集まってできた。
5. 人種や民族の違う人たちが集まってできた。
6. その他
7. わからない

17-1 選択肢
1. 結婚する時
2. 隣近所との交際
3. 雇用・同じ職場で働く
4. 不動産購入
5. その他

(5) 問 6×問 27

(数値:件数)

			親しくしている人の中に、次のようなひとはいますか (6)								
			1	2	3	4	5	6	7	8	合計
人権尊重の社会実現に必要なと思うこと (27)	1	全体	192	202	117	1	0	11	23	5	551
		男性	69	70	49	1	0	2	10	0	201
		女性	121	132	67	0	0	9	13	5	347
	2	全体	65	76	58	0	0	5	11	1	216
		男性	20	27	21	0	0	1	6	0	75
		女性	44	49	37	0	0	4	5	1	140
	3	全体	91	88	54	1	0	4	15	2	255
		男性	29	28	21	1	0	0	9	1	89
		女性	62	60	33	0	0	4	6	1	166
	4	全体	54	53	41	1	0	3	12	2	166
		男性	23	23	22	1	0	1	8	1	79
		女性	30	30	19	0	0	2	4	1	86
	5	全体	55	62	35	0	0	6	7	1	166
		男性	25	29	18	0	0	2	5	0	79
		女性	29	33	17	0	0	4	2	1	86
	6	全体	54	57	29	0	0	4	9	0	153
		男性	21	20	13	0	0	0	6	0	60
		女性	30	37	15	0	0	4	3	0	89
	7	全体	95	101	55	0	0	4	16	2	273
		男性	32	36	20	0	0	0	8	1	97
		女性	62	65	34	0	0	4	8	1	174
	8	全体	7	5	5	0	0	2	2	2	23
		男性	5	3	5	0	0	2	2	2	19
		女性	2	2	0	0	0	0	0	0	4
	9	全体	6	12	6	0	0	0	2	0	26
		男性	1	3	3	0	0	0	2	0	9
		女性	5	8	3	0	0	0	0	0	16
合計	全体	619	656	400	3	0	39	97	15	1829	
	男性	225	239	172	3	0	8	56	5	708	
	女性	385	416	225	0	0	31	41	10	1108	

※ 割合が最も高い = 

6 選択肢
1. 障がい者
2. 介護を必要とする人
3. 同和地区出身者
4. HIV感染者等
5. ハンセン病元患者等
6. LGBTQ
7. 外国人
8. 犯罪被害者等

27 選択肢
1. 教育活動を積極的に行う
2. 行政が啓発活動等を積極的に行う
3. 行政がNPO等の団体による人権尊重に向けた取り組みを支援する
4. 公務員の人権意識を高める
5. 市民自身の取り組みやボランティア活動を充実させる
6. 人権相談や電話相談を充実する
7. 救済・支援を充実するための法整備を促進する
8. その他
9. 特にない

(6) 問 6×問 28

(数値:件数)

		親しくしている人の中に、次のようなひとはいますか (6)									
		1	2	3	4	5	6	7	8	合計	
が大切にすべきことは (28)	1	全体	56	70	35	1	0	6	7	1	176
		男性	19	26	14	1	0	2	5	0	67
		女性	37	44	21	0	0	4	2	1	109
	2	全体	31	29	22	0	0	4	11	0	97
		男性	12	5	7	0	0	1	5	0	30
		女性	17	23	14	0	0	3	6	0	63
	3	全体	50	46	24	0	0	1	10	0	131
		男性	24	21	11	0	0	0	6	0	62
		女性	25	25	13	0	0	1	4	0	68
	4	全体	20	26	16	0	0	2	4	0	68
		男性	10	12	8	0	0	0	0	0	30
		女性	10	14	8	0	0	2	4	0	38
	5	全体	75	78	50	0	0	3	8	6	220
		男性	26	28	20	0	0	1	5	3	83
		女性	49	50	30	0	0	2	3	3	137
	6	全体	1	0	3	0	0	0	1	0	5
		男性	0	0	2	0	0	0	1	0	3
		女性	1	0	1	0	0	0	0	0	2
	7	全体	3	3	3	0	0	0	1	0	10
		男性	2	2	2	0	0	0	1	0	7
		女性	1	1	1	0	0	0	0	0	3
	合計	全体	236	252	153	1	0	16	42	7	707
		男性	93	94	64	1	0	4	23	3	282
		女性	140	157	88	0	0	12	19	4	420

※ 割合が最も高い = 

6 選択肢
1. 障がい者
2. 介護を必要とする人
3. 同和地区出身者
4. HIV感染者等
5. ハンセン病元患者等
6. LGBTQ
7. 外国人
8. 犯罪被害者等

28 選択肢
1. 正しい知識を身につけること
2. 非合理的な因習や風習、誤った固定観念にとらわれないこと
3. 自分の権利とともに、他人の権利も尊重する
4. 地域社会やその人間関係を大切にすること
5. 他人に対する思いやりや、やさしさを育むこと
6. その他
7. 特になし

(7) 問 6×問 29

(数値:件数)

			人権教育・啓発のための取り組みで、宿毛市に対して望むことは(29)										
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	合計
親しくしている人の中に、次のようなひとはいますか(6)	1	全体	99	56	41	54	63	70	35	87	14	18	537
		男性	33	17	11	26	27	25	11	37	9	7	203
		女性	63	37	29	27	35	45	24	50	5	11	326
	2	全体	100	62	40	54	76	87	39	95	13	14	580
		男性	34	22	10	20	32	29	11	41	6	5	210
		女性	66	40	30	34	44	57	28	53	7	9	368
	3	全体	65	33	28	30	32	43	23	58	9	14	335
		男性	22	15	10	15	19	18	8	27	4	6	144
		女性	43	18	18	15	12	25	15	31	5	8	190
	4	全体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	全体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6	全体	8	2	3	1	3	6	0	7	3	0	33
		男性	2	0	0	0	1	1	0	1	1	0	6
		女性	6	2	3	1	2	5	0	6	2	0	27
	7	全体	10	9	7	5	7	10	13	10	3	4	78
		男性	5	2	3	4	5	5	6	7	1	4	42
		女性	5	7	4	1	2	5	7	3	2	0	36
	8	全体	2	0	1	0	0	2	1	4	3	0	13
		男性	0	0	0	0	0	1	0	1	2	0	4
		女性	2	0	1	0	0	1	1	3	1	0	9
合計	全体	284	162	120	144	181	218	111	261	45	50	1576	
	男性	96	56	34	65	84	79	36	114	23	22	609	
	女性	185	104	85	78	95	138	75	146	22	28	956	

※ 割合が最も高い= 

6 選択肢
1.障がい者
2.介護を必要とする人
3.同和地区出身者
4.HIV感染者等
5.ハンセン病元患者等
6.LGBTQ
7.外国人
8.犯罪被害者等

29 選択肢
1.専門家や著名人の講演など
2.映画・ビデオ等の映像など
3.コンサートや劇など
4.人権に関する本、作文などを作成し配布する
5.行政が作成した資料、広報、ホームページなど
6.参加者同士の意見交換や参加・体験型の学習
7.フィールドワークなどの学習
8.当事者や関係者の話・交流を通じての学習
9.その他
10.特に学習する必要はない

(8) 問 8×問 27

(数値:件数)

			人権尊重の社会実現に必要なだと思うこと (27)									
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
人権や差別について、どのような考え方をもちますか (8)	1	全体	401	156	171	94	89	105	192	15	16	1239
		男性	141	54	57	44	37	39	64	7	7	450
		女性	258	101	114	50	51	63	127	8	8	780
	2	全体	222	99	112	46	60	50	96	5	3	693
		男性	68	35	38	21	24	17	23	3	3	232
		女性	151	64	73	25	36	31	71	2	0	453
	3	全体	8	5	4	4	3	3	4	1	3	35
		男性	5	3	3	3	1	2	3	1	0	21
		女性	3	2	1	1	2	1	1	0	3	14
	4	全体	154	85	84	52	40	46	83	6	2	552
		男性	60	31	33	28	14	21	28	3	2	220
		女性	93	54	51	24	26	24	55	3	0	330
	5	全体	120	42	47	38	32	36	92	13	6	426
		男性	49	18	21	21	17	19	44	7	2	198
		女性	70	23	26	16	13	15	48	6	4	221
	6	全体	26	9	9	10	10	9	17	1	2	93
		男性	9	2	4	5	7	3	8	1	1	40
		女性	17	7	5	5	3	6	9	0	1	53
	7	全体	160	58	74	60	38	46	96	11	11	554
		男性	66	24	31	31	16	21	35	7	6	237
		女性	94	34	43	28	22	25	61	4	5	316
	合計	全体	1091	454	501	304	272	295	580	52	43	3592
		男性	398	167	187	153	116	122	205	29	21	1398
		女性	686	285	313	149	153	165	372	23	21	2167

※ 割合が最も高い =

問 8 選択肢

1. 差別しないような人にならなければならない
2. 無関心な人にも理解してもらうことが必要
3. 差別される側に問題がある
4. 行政の努力が必要
5. 差別を完全になくすことは無理だ
6. 抗議や反対をすることによりかえって問題が解決しづらくなる
7. 他人の迷惑を考えない人が増えた

27 選択肢

1. 教育活動を積極的に行う
2. 行政が啓発活動等を積極的に行う
3. 行政が NPO 等の団体による人権尊重に向けた取り組みを支援する
4. 公務員の人権意識を高める
5. 市民自身の取り組みやボランティア活動を充実させる
6. 人権相談や電話相談を充実する
7. 救済・支援を充実するための法整備を促進する
8. その他
9. 特にない

(9) 問 8×問 28

(数値:件数)

			人権や差別について、どのような考え方をもちですか (8)							
			1	2	3	4	5	6	7	合計
人権が尊重されるために市民一人ひとりが大切にすべきことは(28)	1	全体	137	74	2	51	32	6	35	337
		男性	45	21	2	20	14	2	15	119
		女性	92	53	0	31	18	4	20	218
	2	全体	64	35	2	21	27	10	30	189
		男性	17	10	0	5	8	1	11	52
		女性	45	23	2	16	18	9	18	131
	3	全体	79	50	1	41	43	4	45	263
		男性	31	22	1	17	25	4	23	123
		女性	47	27	0	23	17	0	22	136
	4	全体	39	20	3	15	15	1	18	111
		男性	16	8	2	8	7	1	12	54
		女性	23	12	1	7	8	0	6	57
	5	全体	149	73	4	54	56	16	82	434
		男性	56	24	0	22	24	8	28	162
		女性	93	49	4	32	32	8	54	272
	6	全体	2	2	1	2	3	1	2	13
		男性	1	1	1	1	3	1	2	10
		女性	1	1	0	1	0	0	0	3
	7	全体	6	1	1	2	3	1	2	16
		男性	3	1	0	1	1	0	1	7
		女性	3	0	1	1	2	1	1	9
合計	全体	476	255	14	186	179	39	214	1363	
	男性	169	87	6	74	82	17	92	527	
	女性	304	165	8	111	95	22	121	826	

※ 割合が最も高い = 

問 8 選択肢
1. 差別しないような人にならなければならない
2. 無関心な人にも理解してもらうことが必要
3. 差別される側に問題がある
4. 行政の努力が必要
5. 差別を完全になくすことは無理だ
6. 抗議や反対をすることによりかえって問題が解決しづらくなる
7. 他人の迷惑を考えない人が増えた

28 選択肢
1. 正しい知識を身につけること
2. 非合理的な因習や風習、誤った固定観念にとらわれないこと
3. 自分の権利とともに、他人の権利も尊重する
4. 地域社会やその人間関係を大切にすること
5. 他人に対する思いやりや、やさしさを育むこと
6. その他
7. 特にない

(10) 問 8×問 29

(数値:件数)

			人権教育・啓発のための取り組みで、宿毛市に対して望むことは(29)										
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	合計
人権や差別について、どのような考え方をもちますか(8)	1	全体	193	117	85	113	132	154	66	179	22	35	1096
		男性	67	43	21	48	52	54	22	71	11	15	404
		女性	124	72	64	64	79	99	44	107	11	20	684
	2	全体	118	66	55	66	71	79	53	111	11	15	645
		男性	36	26	15	28	28	33	16	40	6	7	235
		女性	80	39	40	37	41	46	37	71	5	8	404
	3	全体	5	0	2	3	5	3	0	6	0	3	27
		男性	2	0	1	3	2	2	0	5	0	1	16
		女性	3	0	1	0	3	1	0	1	0	2	11
	4	全体	93	53	37	68	63	69	37	87	6	7	520
		男性	35	24	8	27	27	25	18	37	3	4	208
		女性	57	28	29	40	36	44	19	50	3	3	309
	5	全体	54	38	33	32	37	48	22	61	17	23	365
		男性	27	21	15	20	13	22	9	34	9	9	179
		女性	24	15	17	11	23	26	13	27	8	14	178
	6	全体	15	9	5	7	11	11	5	17	3	5	88
		男性	9	2	2	5	4	3	3	10	1	2	41
		女性	6	7	3	2	7	8	2	7	2	3	47
	7	全体	66	48	33	38	52	75	31	78	13	27	461
		男性	27	22	10	21	19	28	13	38	7	13	198
		女性	38	26	22	17	33	47	18	40	6	14	261
合計	全体	544	331	250	327	371	439	214	539	72	115	3202	
	男性	203	138	72	152	145	167	81	235	37	51	1281	
	女性	332	187	176	171	222	271	133	303	35	64	1894	

※ 割合が最も高い = 

問 8 選択肢
1.差別しないような人にならなければならない
2.無関心な人にも理解してもらうことが必要
3.差別される側に問題がある
4.行政の努力が必要
5.差別を完全になくすことは無理だ
6.抗議や反対をすることによりかえって問題が解決しづらくなる
7.他人の迷惑を考えない人が増えた

29 選択肢
1.専門家や著名人の講演など
2.映画・ビデオ等の映像など
3.コンサートや劇など
4.人権に関する本、作文などを作成し配布する
5.行政が作成した資料、広報、ホームページなど
6.参加者同士の意見交換や参加・体験型の学習
7.フィールドワークなどの学習
8.当事者や関係者の話・交流を通じての学習
9.その他
10.特に学習する必要はない

2 調査票

宿毛市人権に関する市民意識調査票

あなた自身についてお聞きします

問 1 あなたの性別は 【12】に○

1. 男性 2. 女性 3. 回答したくない

問 2 あなたの年齢は 【13】に○

1. 10歳・20歳代 2. 30歳代 3. 40歳代
4. 50歳代 5. 60歳代 6. 70歳以上

問 3 あなたの現在のお仕事は 【14】に○

1. 農林漁業（自営業主および家族従業者）
2. 商工サービス業（自営業主および家族従業者）
3. 勤め（企業や団体に勤めている方（パート含む）で、次の4に該当しない方）
4. 教育・福祉・医療関係者および職員、公務員
5. 自由業、その他有職
6. 学生、家事専業（主婦、主夫）、無職

*商工サービス業には、卸小売業、飲食店、サービス業、建設業、運輸、製造業等があります。
*自由業には、弁護士、作家、写真家等があります。
*専業の方は、置きを置いている職業でお答えください。

人権課題のかかり方や経験について

問 4 あなたが関心のある人権問題はどれですか。 【Oはいくつでも】

1. 障がい者
2. 高齢者
3. 女性
4. 子ども
5. 回和問題（部落差別問題）
6. HIV 感染者等
（エイズ患者、新型コロナウイルス感染者等の問題を含みます）
7. ハンセン病元患者等
8. LGBTQ（性自認・性の多様性）
9. 外国人
10. インターネットによる人権侵害
11. 大規模災害発生時の人権問題
12. 犯罪被害者等
13. その他の人権問題
（アイヌの人々、ホームレス等、刑を終えて出所した人、北朝鮮当局による拉致問題等、人身売買）
14. 特になし

※各人権課題の解説については別紙をご覧ください。

問 5 あなたは、今までにご自分の人権が侵害されたと思っただことがありますか。 【いずれかに○】

1. ある（⇒問5-1へお進みください）
2. ない（⇒問6へお進みください）

問 5-1 どのようなことで人権が侵害されたかと思われましたか。【〇はいくつでも】

<ol style="list-style-type: none"> 1. あらぬうわさ、他人からの悪口、かげ口を言われた 2. 仲間はずれや無視をされた 3. 名譽や信用を傷つけられたり、侮辱を受けた 4. 差別待遇(人種・信条・性別・社会的身分等)により不平等または不利益な扱いを受けた 5. 職場で不当な待遇を受けた 6. 官公署や医療機関、福祉施設などで不当な扱いを受けた 7. プライバシーを侵害された 8. セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメントなどのハラスメント(※)を受けた 9. 暴力をふるわれたり、脅迫・虐待・強要をされた 10. ストーカー的行為をされた 11. 悪臭・騒音等の公害 12. その他(具体的に)
--

※ ハラスメント(いやがらせ・いじめ)

他者に対する発言・行動等が本人の意思とは関係なく、相手を不快にさせたり、尊厳を傷つけたり、不利益を与えたり、脅威を与える行為のことです。

問 5-2 人権が侵害されたかと思ったときどうされましたか。【〇はいくつでも】

<ol style="list-style-type: none"> 1. 友人、知人に相談した 2. 家族に相談した 3. 公的機関に相談した 4. 直接相手に伝えた 5. 何もしなかった 6. その他(具体的に)

問 6 親しくしている人の中に、次のような人はいいますか。【〇はいくつでも】

<ol style="list-style-type: none"> 1. 障がい者 2. 介護を必要とする人 3. 同和地区出身者 4. HIV感染者等 5. ハンセン病元患者等 6. LGBTQ 7. 外国人 8. 犯罪被害者等
--

問 7 次のような場面に当たったときあなたならどうされますか。

【〇はいくつでも】

<p>A. 子どもや高齢者に対する虐待が疑われる場合</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. かわらないようにする 2. 直接、その家の親・介護者に尋ねる 3. 役所や専門機関に連絡する 4. 警察に連絡する 5. 民生委員・児童委員や地区長(自治会長)などの地域の役員に相談する 6. その他(具体的に)
<p>B. 街で差別落書きを見つけた場合</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. そのままにしておく 2. 身近な人に相談する 3. 公的機関に連絡する 4. 民生委員・児童委員や地区長(自治会長)などの地域の役員に相談する 5. 自分で消す 6. その他(具体的に)
<p>C. 日常会話の中で、誰かが差別的な発言をした場合</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 何もせずに黙っておく 2. 話を合わせておく 3. 他の話題に変えようと努力する 4. 差別的な発言であることを指摘する 5. その他(具体的に)
<p>D. 街で車いすの人や白い杖(視覚障がいのある方等)が使用する杖を持った人が困っている場合</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. すぐに手を貸す 2. 黙って通り過ぎる 3. 周りの人の様子を見ながら、手を貸すかどうか決める 4. その他(具体的に)

問 8 人権や差別について、あなたはどのような考えをおもちですか。
【〇はいくつでも】

1. 差別は人間として扱わずべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しないような人にならなければいけない
2. 差別問題に無関心な人にも、差別問題について理解してもらうことが必要だ
3. 差別はされる側に問題がある
4. 差別をなくすために、行政は努力する必要がある
5. どのような手段を講じても、差別を完全になくすことは無理だ
6. 差別に対して抗議や反対をすることによってかえって問題が解決しづらくなる
7. 権利のみを主張して他人の迷惑を考えない人が増えた

障がい者の人権について

いろいろな場面で障壁(バリア)による不利益があることや、偏見、差別意識が生じており、まだまだその自立と社会参加が十分とはいえません。

問 9 あなたは、障がい者の人権を守るために特に必要なことはどのようなことだと思いますか。
【〇は3つ以内】

1. 道路や交通機関、建物等のバリアフリー化(※①)、ユニバーサルデザイン化(※②)など
2. 少ない負担で自由に移動できる交通手段を整備する
3. 地域で自立した生活ができるよう住居の場を確保する
4. 就労の支援や働く場の確保を図る
5. 障がいのある人となない人の交流を促進する
6. 障がい者が自己啓発や文化的活動等に参加できる機会を確保する
7. 在宅サービスや福祉施設・医療機関を充実する
8. 人権相談や電話相談を充実する
9. その他(具体的に)
10. 特にない

※① バリアフリー
主に生活弱者である高齢者や障がい者が生活する上で、支障となる物理的・精神的な障壁(バリア)を取り除くための取り組みや障壁を取り除いた状態のことをいいます。

※② ユニバーサルデザイン
文化や言葉の違い、老若男女といった差異、障がいや能力の違いを問わずに、あらゆる人が利用できる施設・製品・情報(デザイン)をいいます。バリアフリーが障がい者が生活していくうえで障壁となるものを取り除くことと対して、ユニバーサルデザインは「もともと障壁のない環境とデザインのこと」をいいます。

高齢者の人権について

高齢者に対する身体的・精神的虐待や介護放棄、財産権の侵害などがおきています。

問 10 あなたは、高齢者の人権を守るために特に必要なことはどのようなことだと思いますか。
【〇は3つ以内】

1. 道路や交通機関、建物等のバリアフリー化(※①)、ユニバーサルデザイン化(※②)など
2. 少ない負担で自由に移動できる交通手段を整備する
3. 住居の確保や、就労環境を整備する
4. 高齢者を地域で支える仕組みを整備する
5. 認知症高齢者対策を充実する
6. 在宅サービスや福祉施設・医療機関等の施設を充実する
7. 高齢者が自己啓発や文化的活動等に参加できる機会を確保する
8. 人権相談や電話相談を充実する
9. その他(具体的に)
10. 特にない

※① ※② 5 ページ問 9 の注釈をご覧ください。

女性の人権について

依然として女性差別意識(固定的な性別役割分担意識、男性中心の習慣など)が残っています。また、パートナーからの身体的・精神的暴力など女性に対する人権侵害が社会問題となっています。

問 11 あなたは、女性の人権を守るために特に必要なことは、どのようなことだと思いますか。
【〇は3つ以内】

1. 男女が共に働きながら家事や育児・介護などを両立できる環境を整備する
2. 政治や経済等の分野における政策・方針決定過程への女性の参画を推進する
3. 女性に対する犯罪の取り締まりを強化する
4. 男女平等意識に関する教育を充実する
5. 女性の人権を尊重した表現がされるよう、テレビや雑誌等メディアの自主的な取り組みを促す
6. 人権相談や電話相談を充実する
7. その他(具体的に)
8. 特にない

問 12 あなたは、男女が共に仕事と家庭を両立できる社会を目指すために特に必要なことはどのようなことだと思いますか。
【〇は3つ以内】

1. 育児や介護のために仕事を休める制度を充実する
2. 長時間労働の削減
3. 有給休暇の取得を推進する
4. 子育て・介護等のサポート体制を充実する
5. 事業者(雇用主)等に向けた意識啓発
6. 放課後児童クラブ・子ども会などの制度の拡充を行う
7. その他(具体的に)
8. 特にない

子どもの人権について

子どもへの虐待、また学校でのいじめや不登校など教育面だけでなく、社会的にも重要な問題です。

問 13 あなたは、子どもの人権を守るために特に必要なことはどのようなことだと思いますか。
【〇は3つ以内】

1. 体罰の禁止を徹底させる
2. 成績を重んじる教育のあり方を改める
3. 大人に子どもが独立した人格であることを啓発する
4. 教職員の人間性、資質を高める
5. 家庭内での信頼関係を築く(子どもが安心できる環境をつくる)
6. 家庭、学校、地域が協力して子どもを見守る体制づくりをする
7. 子どもの個性を尊重する
8. 児童買春や児童ポルノの規制を徹底する
9. 人権相談や電話相談を充実する
10. 学校におけるいじめ防止の取り組みを強化する
11. その他(具体的に)
12. 特にない

同和問題(部落差別問題)について

同和地区(部落差別解消)と呼ばれる地区の出身者であること、あるいは住んでいることを理由に付ける差別です。日本固有の人権問題で未だ解決していません。問14 から問19 では、「同和問題(部落差別問題)」を「同和問題」と記載します。

問 14 あなたは同和問題について知っていますか。

- 【いずれかに〇】
1. 知っている (⇒問15へお進みください)
 2. 知らない (⇒問20へお進みください)

問 15 あなたが同和問題について初めて知ったきっかけは何ですか。
【12に〇】

1. 家族、親せきから聞いた
2. 近所の人から聞いた
3. 職場の人から聞いた
4. 学校の友だちから聞いた
5. 学校の授業で教わった
6. 講演会や研修会
7. ラジオ、テレビ、新聞、本等
8. インターネット
9. 県や市町村の広報紙や冊子等
10. 覚えていない
11. その他()

問 16 同和地区はどのようにしてできてきたとお考えですか。
【12に〇】

1. 貧しい人たちが集まってできた
2. その時代の権力者が民衆を支配するためにつくった
3. 人の嫌がる仕事をする人たちが集まってできた
4. 同じ宗教の人たちが集まってできた
5. 人種や民族の違う人たちが集まってできた
6. その他(具体的に)
7. わからない

問 17 あなたは、同和地区ということを気にしたり、意識したりすることがあります
【いずれかに○】

1. ある (⇒問17-1へお進みください)
2. ない (⇒問 18へお進みください)

問 17-1 問 17で「1. ある」とお答えいただいた方に質問します。どのようなときに
気にしたり意識したりすることがありますか。 【○はいくつでも】

1. 結婚する時
2. 隣近所との交際
3. 雇用・同じ職場で働く
4. 不動産購入
5. その他(具体的に)

問 18 あなたの親族が結婚しようとしている相手が同和地区出身だとわかった場合、
あなたはこうされますか。 【□に○】

1. 本人の意思を尊重する
2. 反対はするが、本人の意志が強ければ認める
3. 家族や親せきに反対する者がいれば、結婚を認めることはできない
4. 反対する
5. その他(具体的に)

問 19 あなたは、同和問題を解決するために、特にどのようなことが大切だと思
いますか。 【○は3つ以内】

1. 同和問題に対する正しい情報の提供や理解を深めるための教育を充実する
2. 行政の主体性を確立し、積極的に同和解決に向けた施策を行う
3. 「同和地区」のことなど口に出さず、そっとしておけば部落差別は自然になくなる
4. 人権侵害や差別を解消するための規制法を制定する
5. 人権相談や電話相談を充実する
6. 交流機会を増やし、相互の理解を深める
7. その他(具体的に)

HIV 感染者等の人権について

エイズの原因である HIV ウイルスは感染力が非常に弱く、非感染者と日常生活を共にすることができます。しかし、誤った認識や偏見により職場での迫害、入学の入学拒否、医療現場における差別やマスメディアの報道におけるプライバシー侵害等の問題が生じています。

問20 あなたは、HIV 感染者等(※)の人権を守るために特に必要なことはどのよ
うなことだと思いますか。 【○は3つ以内】

1. 感染者等について正しい情報の提供や理解を深める教育・啓発活動を推進する
2. 感染者等の人権を尊重した表現がなされるよう、テレビ・雑誌・インターネット等
メディアの自主的な取り組みを促す
3. 感染者等のプライバシー保護を徹底する
4. それぞれの地域で抗体検査等の機会を確保する
5. 人権相談や電話相談を充実する
6. その他(具体的に)
7. 特にない

※ エイズ患者、新型コロナウイルス感染者等の問題が含まれます。

ハンセン病元患者等の人権について

らい菌による感染症で、主に皮膚や末梢神経が侵されるなどの症状がある病状ですが、感染力はとても弱く、感染しても発症することはごくまれです。現在では治療法も確立し治る病気となりましたが、最近まで偏見病であると誤解され、本人だけでなく家族も差別されてきました。

問 21 あなたは、ハンセン病元患者等(※)の人権を守るために特に必要なことはど
のようなことだと思いますか。 【○は3つ以内】

1. ハンセン病の正しい情報の提供や理解を深める教育・啓発活動を推進する
2. ハンセン病を正しく理解するためのパンフレットやチラシを作成する
3. ハンセン病への理解を深めるため元患者の方々との交流の機会をつくる
4. 人権相談や電話相談を充実する
5. ハンセン病元患者のプライバシー保護を徹底する
6. その他(具体的に)
7. 特にない

※ ハンセン病患者、ハンセン病元患者及びその家族が含まれます。

LGBTQの人権(性自認・性の多様性)について

L(レズビアン/女性の同性愛者)・G(ゲイ/男性の同性愛者)・B(バイセクシャル/男性、女性の両方を愛することが出来る人)・T(トランスジェンダー/主に身体的な性別と性自認が一致しない人)・Q(クエスチョニング/自分の性がわからない、意図的に決めていない、決まっていない等)。

問 22 あなたは、LGBTQの人権を守るために特に必要なことはどのようなことだと思いますか。 【〇は3つ以内】

1. LGBTQ についての正しい情報の提供や理解を深める教育・啓発活動を推進する
2. LGBTQ の人権を尊重した表現がなされるよう、テレビ・雑誌・インターネット等、メディアの自主的な取り組みを促す
3. 学校の制服等を、生まれ持った性別ではなく、本人の意思で選択し着用することができるよう推進する
4. 同性同士での婚姻を法的に認める
5. 人権相談や電話相談を充実する
6. その他(具体的に)
7. 特にない

外国人の人権について

言語、宗教、文化、習慣などへの理解不足から雇用や日常生活などで様々な問題がおきています。

問 23 あなたは、外国人の人権を守るために特に必要なことはどのようなことだと思いますか。 【〇は3つ以内】

1. 異文化に対する理解や尊重に向けた教育・啓発活動を推進する
2. 異文化理解のため、外国人との交流を促進する
3. 住居の確保や就労環境を整備する
4. 多言語による生活情報の提供を充実する
5. 日本語教室を設ける
6. 日本人と同等のサービスを受けられるようにする
7. 人権相談や電話相談を充実する
8. その他(具体的に)
9. 特にない

11

インターネットによる人権侵害について

インターネットの匿名性を悪用し、他人への中傷、無責任なうわさ、個人のプライバシーに関する情報の無断開示、差別的な書き込み、インターネット上でのいじめなど、人権を侵害する情報発信が増えています。

問 24 あなたは、インターネットによる人権侵害を解決するために特に必要なことはどのようなことだと思いますか。 【〇は3つ以内】

1. インターネット利用者等に対して、個人のプライバシーや名誉に関し、正しく理解するための教育・啓発活動を推進する
2. プロバイダ(インターネット接続業者)に対して、個人のプライバシーや名誉に関し、正しく理解するための教育・啓発活動を推進する
3. 企業等が個人情報保護法を正しく理解し、適切な安全対策をする
4. 利用者やプロバイダ等に対し情報の停止、削除を求める
5. 人権相談や電話相談を充実する
6. 違法な情報発信者に対する監視・取り締まりを強化する
7. その他(具体的に)
8. 特にない

大規模災害発生時の人権問題について

避難場所ではプライバシーが保護されないという問題のほかに、高齢者、障がい者、乳幼児、外国人などの災害時要支援者等に対する配慮不足が問題となっています。

問 25 あなたは、地震や台風など大規模災害発生時において、人権に配慮するために必要なことはどのようなことだと思いますか。 【〇は3つ以内】

1. 通常時から災害時における人権への配慮についての理解を深めるための教育・啓発活動を推進する
2. 通常時から自主防災組織等に女性、障がい者、高齢者等、様々な人に参加してもらった行政の職員や避難所の運営にあたる住民が災害時における人権の配慮についての認識を十分にもつ(個別スペースの確保、要配慮者(高齢者、障がい者、乳幼児、その他)の特に配慮を要する者)の把握等)
4. 被災者に確実に支援や情報が行き届くようにする
5. その他(具体的に)
6. 特にない

12

犯罪被害者等の人権問題について

犯罪被害者やその家族は、事件による直接的な被害だけでなく、報道にあったことによる精神的な苦痛や身体の不調、また心ないうわさなどによって名誉を傷つけられたり、マスメディアの過剰な報道によるプライバシーの侵害などが発生しています。

問 26 あなたは、犯罪被害者等(被害者やその家族・遺族)の人権を守るために特に必要なことはどのようなことだと思いますか。【〇は3つ以内】

1. 犯罪被害者等に対する理解や知識を深めるための教育・啓発活動を推進する
2. 就学・就職の機会を確保する
3. 経済的な支援を行う
4. 犯罪被害者等の立場に立つて適切な支援や対応ができるように警察官などの教育や訓練を実施する
5. 精神的被害に対応するためのカウンセリングを行う
6. 犯罪被害者等に配慮した報道や取材を行う
7. 被害者が更なる犯罪等に遭わないための施策を充実する
8. 人権相談や電話相談を充実する
9. その他(具体的に)
10. 特にない

人権尊重の社会の実現に関することについて

問 27 あなたは、人権が尊重される社会を実現するために特に必要なことはどのようなことだと思いますか。【〇は3つ以内】

1. 学校教育や社会教育を通して、人権を尊重する教育活動を積極的に行う
2. 行政が市民の人権意識の高揚に向けた啓発活動やさまざまな施策を積極的に行う
3. 行政が市民や企業、事業所、NPO等の団体による人権尊重に向けた取り組みを支援する
4. 公務員の人権意識を高める
5. 市民自身の取り組みやボランティア活動を充実させる
6. 人権が侵害された被害者のための人権相談や電話相談を充実する
7. 人権が侵害された被害者の救済・支援を充実するための法整備を促進する
8. その他(具体的に)
9. 特にない

13

問 28 あなたは、人権が尊重されるために、市民一人ひとりが特に心がけたり、大切にすべきことは何だと思いますか。【〇は3つ以内】

1. 人権に関する正しい知識を身につけること
2. 非合理的な偏見や風習、誤った固定観念にとらわれないこと
3. 自分の権利とともに、他人の権利も尊重すること
4. 自分が生活している地域社会やその人間関係を大切にすること
5. 他人に対する思いやりや、やさしさを育むこと
6. その他(具体的に)
7. 特にない

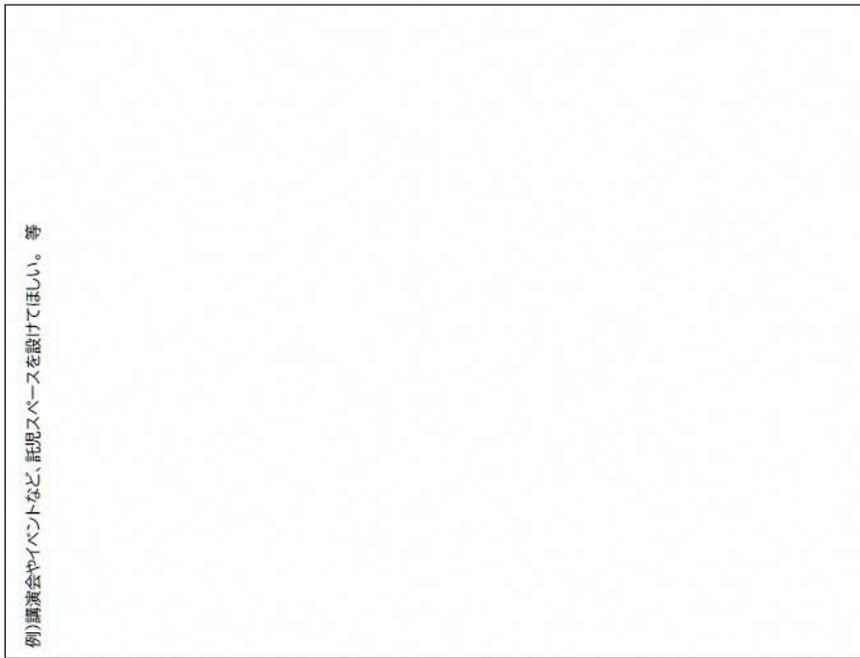
問 29 人権教育・啓発のための取り組みについて、宿毛市に対して望むことはありますか。【〇はいくつでも】

1. 専門家や著名人の講演など
2. 映画・ビデオ等の映像など
3. コンサートや劇など
4. 人権に関する本、作文、詩などを作成し配布する
5. 行政が作成した資料、広報、ホームページなど
6. 参加者同士の自由な意見交換や体験を通じた参加・体験型の学習
7. 施設見学や歴史をたどるフィールドワークなどの学習
8. 差別を受けていた当事者や関係者の話・交流を通じての学習
9. その他(具体的に)
10. 特に学習する必要はない

14

宿毛市の「人権」に関する取り組みについてお考えのことやお気づきのことがありましたら何でも結構ですので、お気軽にお聞かせください。

例)講演会やイベントなど、記見スペースを設けてほしい。等



ご協力いただき、ありがとうございます。
10月31日(土)までに回答票を同封の返信用封筒に入れてポストに投函してください。
(切手は不要です)

3【解説】それぞれの人権課題

あらゆる人権課題の解決には正しい知識を備え、偏見をなくし、正しく伝えることが大切です

障がい者

身体障害・知的障害・精神障害の3つに大きく分かれます。障がいのある人々の社会参加が進んでいますが、いろいろな場面で障壁(バリア)による不利益が生じています。また障がい者に対する偏見や差別意識が根強くあり、その自立と社会参加が十分とはいえません。

高齢者

高齢者に対する職業差別、家庭内や介護施設等における身体的・心理的虐待や介護放棄、財産権の侵害などの人権問題が発生しています。また、高齢者への差別や虐待は外部が気づきにくく、発見が遅れてしまう例も少なくありません。

女性

現在も女性差別意識(固定的な性別役割分担意識、男性中心の習慣など)が根強く残っています。家庭や職場における男女差別、性犯罪等の女性に対する暴力、パートナーからの暴力、職場におけるセクシュアル・ハラスメント(性的ないやがらせ、いじめ等)やマタニティ・ハラスメント(妊娠・出産等を理由とする不利益な取り扱い)など女性に対する人権侵害が社会問題となっています。

子ども

子どもへの虐待が増加しています。虐待は心を傷つけるだけでなく、命にかかわる問題でもあるため、虐待を受けたと思われる子どもを発見した場合は、通告する義務が定められています。また学校でのいじめや不登校などは教育面だけでなく、社会的にも重要な問題です。

同和問題(部落差別問題)

同和地区(被差別部落)と呼ばれる地区の出身者であること、あるいは住んでいることを理由にうける差別です。日本固有の人権問題で結婚や就職などにおいて差別をうけるという人権侵害がおこっています。現在ではインターネットや SNS 上に部落差別を助長するような書き込みが多く見られることも問題となっています。

HIV 感染者等

エイズの原因である HIV ウイルスは感染力が非常に弱く、非感染者と日常生活を共にすることができます。しかし誤った認識や偏見により職場での迫害、入園や入学の拒否、医療現場における差別やマスメディアの報道におけるプライバシー侵害等の問題が生じています。新型コロナウイルス感染症においても感染者やその家族への偏見によるいやがらせなどの問題が発生しています。

ハンセン病元患者等

ハンセン病は、らい菌による感染症で、主に皮膚や末しょう神経が侵されるなどの症状がおこる病気ですが、感染力はとても弱く、感染しても発症することはごくまれです。現在では治療法も確立し、治る病気となりましたが、最近まで遺伝病であると誤解され、本人だけでなく家族も差別されてきました。

LGBTQ(性自認・性の多様性)

LGBTQ とは、L(レズビアン/女性の同性愛者)・G(ゲイ/男性の同性愛者)・B(バイセクシャル/男性、女性の両方を愛することができる人)・T(トランスジェンダー/主に身体的な性別と性自認が一致しない人)・Q(クエスチョニング/自分の性がわからない、意図的に決めていない、決まっていない等)を指す言葉で認知度は年々高まっており、現代社会でも少しずつ受け入れられてきています。その一方で理解を示さない人もまだ多く、根強い差別があることも問題になっています。

また、本人の性認識が LGBTQ に当てはまらない人をあらかず名前も増えています。一人ひとり性のあり方はさまざまです。今は名前のない性のあり方でも近い将来には世界で通じるような名前がたくさんできてくるでしょう。

外国人

交流を通じて相互理解が進んではいますが、言語・宗教・文化・習慣などへの理解不足から雇用や日常生活などで問題が起きています。また近年では、特定の国の出身であること又はその子孫であることのみを理由に、日本社会から追い出そうとしたり、危害を加えようとするなどの一方的な言動であるヘイトスピーチなども社会的問題となっています。

インターネットによる人権侵害

インターネットの匿名性を悪用し他人への中傷、無責任なうわさ、個人のプライバシーに関する情報の無断掲示、差別的な書き込み、インターネット上でのいじめなど人権を侵害する情報発信が増えています。

大規模災害発生時の人権問題

避難所ではプライバシーが保護されないという問題の他に、高齢者、障がい者、乳幼児、外国人などの災害時要支援者等に対する配慮不足が問題となっています。

犯罪被害者等

犯罪被害者やその家族は、事件による直接的な被害だけでなく、被害にあったことによる精神的な苦痛や身体の不調、また心ないうわさなどによって、名誉を傷つけられたり、マスメディアの過剰な報道によるプライバシーの侵害などが発生しています。

4 宿毛市人権尊重の社会づくり協議会委員名簿

(敬称略)

委員	選出区分(所属団体)
谷岡 啓二郎	学識経験者(宿毛市人権教育研究協議会)
中川 貢	学識経験者(部落解放同盟宿毛市協議会)
菱田 明美	学識経験者(宿毛市連合婦人会)
濱田 周子	学識経験者(宿毛市民生児童委員協議会)
横山 昌二	学識経験者(宿毛中学校)
澤田 清隆	学識経験者(宿毛授産園)
河原 敏郎	学識経験者(幡多希望の家)
筒井 大八	学識経験者(筒井病院)
大塚 勉	学識経験者(宿毛市社会福祉協議会)
鎌田 明子	学識経験者(人権擁護委員)
嵐 仁美	学識経験者(人権擁護委員)

令和2年度
人権に関する市民意識調査 報告書

発行年月 : 2021(令和3)年3月

発行者 : 宿毛市人権推進課

所在地 : 〒788-8686 宿毛市桜町2番1号

TEL/FAX : (0880)62-0225

M a i l : jinken@city.sukumo.lg.jp